

【エポック】 新技術開発 ・新規商品 社内報資料アーカイブス

ビクター社内報
・大和（月刊誌）
・ビクター時報
・ビクターニュース

2015年（H27）8月
資料提供：西郷 治男
編集：清水 邦昭

＜社内報アーカイブス・エポック編＞ ～ 今回の企画の背景 ～

今年の4月、清水さんからの依頼を受けて入社以来ずっと保存してあった社内報のバックナンバーすべて（昭和47年入社～平成14年早期退職まで）を物置から引っ張り出しました。当初の目的の「高柳先生に関する記事」を調べながら、懐かしい記事や記念すべき出来事などが出てきて、興味深く読み出してしまうことも……。特に知人の掲載記事を見つけると、今更ながら新たな事実を知ったりして、時間のかかる作業ながらも楽しいひとときが経験できました。

そんなことを清水さんに話したところ「今となっては貴重な社内報バックナンバーから高柳先生に関する記事だけのピックアップはもったいない。別のテーマとして、ビクターの歴史に残る新技術開発や新商品発売など記念すべき記事も入れたらどうか」と次のテーマが提案されました。私は「エポック関係は難しいよ。選択の判断基準が個人的になるし、掲載記事は必ずしも重要性にリンクしてないこともあるから」とあまり前向きではありませんでした。

一方で、私自身が退職前の約9年間、広報室で社内報を担当したこともあり、自身が製作した社内報を見ると、当時の情景などが懐かしく思い出されました。中でも、社員の皆さんにここだけはぜひ伝えたいと強い思い入れをもって書いた紙面を見ると、新鮮な記憶が蘇り感慨無量でした。そんなことから考え方を改め、清水さんの要請に応え、「エポック関係の記事」のピックアップに新たに取り組むこととし、今回（8月アップ分）の企画となったわけです。

上述のように選択の判断基準は難しいため、誠に勝手ながら私（西郷）の独断でピックアップさせていただきました。出来る限り事業分野全体をカバーし、オーディオ・テレビ・ビデオの主要部門は公平性を意識しましたが、多少の偏りや全体の記事数の関係でカットしたものもありますので、何卒ご了解ください。

また「エポック関係」を探し始めると、単に「技術開発や商品」に留まらず「経営体制等の記事」も含めたいと思い始め、清水さんと相談して＜社内報アーカイブス＞の最後の9月アップ分は「エポック関係（経営編）」を予定しています。

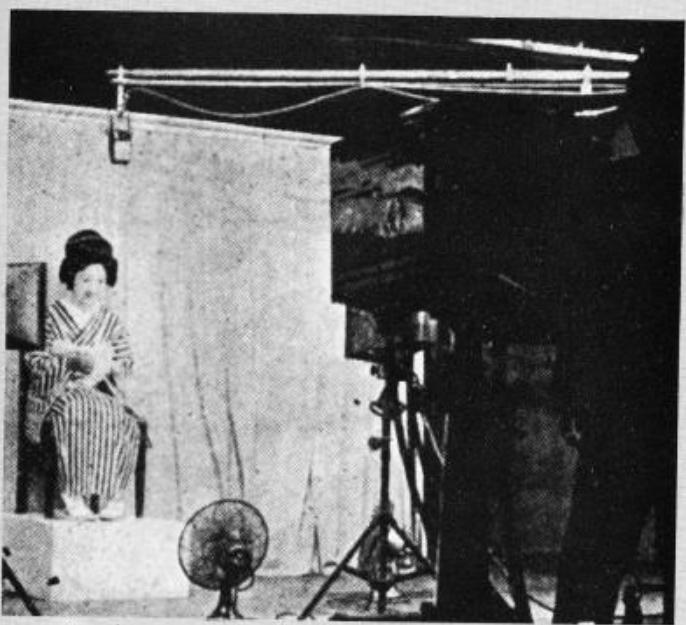
2015年（H27）8月 西郷 治男

●昨年末、30年ぶりにCD-4 デイモジュレータ（CD4-1）と4chアンプ（MCA-V9）をメンテして中央ラックに追加。やっとCD-4 が再現できるようになりました。
※ 写真はLP中心に聞く部屋ですが、CD中心に聞く別システムのオーディオルームもあります。

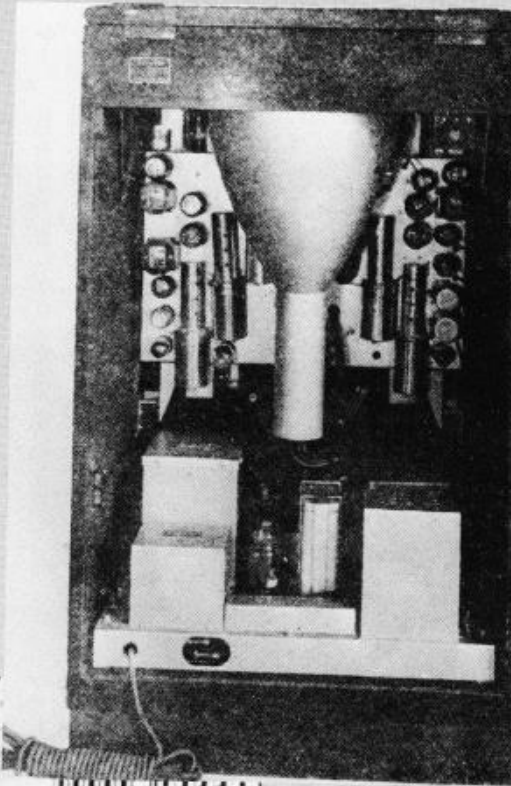


NO.	西暦	年 月 日	発行NO.	面(頁)	タイトル	記 事 内 容
1	1973	大和 S48.9	233	グラビア	写真で見るわが社戦前史(昭和2年創立~昭和20年まで)	昭48.9月に創立46周年を迎え、創立時から昭20年までの歩み特集
2	1973	大和 S48.9	233	21-23	わが社のオーディオ開発史を知ろう、0.002ミリに1年間苦しむ	わが社の46年間は音作りの歴史、LP・EPレコード開発、ステレオ発売等
3	1972	S47. 5.16	81	2	コンポ7機種いっせいで発表、音場再現を徹底追求、SX-3は業界最高	チューナー、アンプ、プレーヤ、スピーカなどCD-4関連技術を生かして商品化
4	1972	S47.11.16	93	3	CD-4が機械振興協会賞うける、世界の商品裏付けに	11/6我が国工業技術最高賞の機械振興協会賞を受賞
5	1973	S48. 3. 1	100	1	CD-4世界戦略さらに前進、WEAグループ(米最大レコード会社)採用	2/21日米同時発表、WEAが4chCD-4方式の採用決定
6	1973	S48.10. 1	114	2	商品群のラインアップ強化、ステレオさらに充実、コンポとDFシリーズ	アンプJA-S1、チューナーJT-V7他、セパレート4チャンネルDFシリーズ4機種新発売
7	1974	S49. 7. 1	134	4-5	発売3年で世界のCD-4へ、強く大きく育てよう	S46.6発売以来3周年、007開発メンバーや関係者の感想
8	1974	S49.10.11	143	4-5	不滅の名器SX-3はやくも10万台突破、音のビクターここにあり	S47.5発売以来10万台、生産部門祝賀や開発担当の感想
9	1976	S51. 9.16	189	1	本格的な小型家庭用ビデオカセットHR-3300、画期的VHS方式	2時間録画可能、高性能小型家庭用VTR、256,000円で10/上発売
10	1976	S51. 9.16	189	6-7	ベール脱いだ新ビデオ、小型高性能に関心集中、家庭にうるおい	家庭用ビデオVHSは多くの工夫と技術結集、9/9ホテルオークラで発表会
11	1977	S52. 3.16	200	1	VHS全国市場導入へ、わが社が小型カラーVTRの底流つくる	VHS対ベータの競争下、VHS市場導入スタートで攻勢を
12	1977	S52. 9.16	211	6-7	50年の歩みの中で・・・(レコード、ラジオ、ステレオ、PG/PA、TV等商品)	創立50周年を迎え、各事業毎に記念すべき商品を振り返る
13	1978	S53. 6. 1	227	4-5	世界の期待にこたえたVHSはいま・・・欧州で大好評	VHSファミリー各社(国内6、海外8)と共に世界規格を目指す動き
14	1978	S53.10.16	235	1	企業姿勢示す技術・VHD/AHD(ビデオオーディオディスク)開発発表	ビデオ、オーディオ用高密度ビデオディスクシステムを開発、9/28発表
15	1979	S54. 3.16	244	1	マルチテープ対応カセットデッキKD-A5、NO.1の座に、デッキ市場に大旋風	業界トップで11月発売したマルチデッキはデッキ市場に重大なエポック築く
16	1980	S55. 1.25	263	1	VHD 標準規格として提案、松下電器産業と共同発表	1/21、ビデオディスク標準方式にVHD提案発表会(東京・大阪)
17	1980	S55. 3. 1	265	1	VHDを積極推進、エジソン100年、絵の出るレコード	東京、大阪で説明会、VHDの多機能性強調、方式別比較
18	1981	S56. 9. 1	296	2	カラーモシシステム時代へ、音声多重AV-20、9/1発売	ビデオ、カメラ、オーディオシステム対応で21万円、黒いTVで話題の新シリーズ
19	1981	S56. 9.16	297	5	VHSテープ増産へ、Vマグネ(水戸工場隣接)で原反生産も	拡大するVHS市場に対応し、VHSテープ大増産体制(来春初め8割増)
20	1982	S57. 1. 1	304	6-7	新しい年、新しいAVライフの創造を目指して、DO! NETWORK	(AV-20見開き広告)テレビ事業部がネットワークシリーズを大ヒット商品に
21	1982	S57. 6. 1	312	1	夢の超小型ビデオ(VHS-C)発売、世界最小最軽量、従来と互換性	5/26、VHS-C発表、国内外で期待と注目、12社が規格合意
22	1983	S58. 3.16	328	1	VHDビデオディスク200タイトルとプレーヤー登板、幅広い作品群	3/15、VHDソフト披露会でソフト、製作、流通、出版など多方面
23	1985	S60.7.1	374	1	VHSが信頼築いて10年目へ、激しい開発競争の中でたくましく育つ	昭51年VHS発売から10年を迎え、今や世界の家庭用ビデオの標準に
24	1986	S61. 3.16	388	1	VHSM-ビーGR-C7に熱い視線で大反響、小型軽量・高画質	1/8発表、2/27市場導入、期待高まるC7は緊急増産体制で対応
25	1986	S61.11. 1	401	1	業界一のCD生産体制を実現、林間工場の新CD棟稼働	最新鋭設備で月産330万枚(横浜+林間)、世界最高水準の品質
26	1987	S62. 4.16	410	1	高画質ビデオS-VHS発売、近未来の映像文化構築に大きく貢献	1/8開発発表したS-VHSビデオ第1弾HR-S7000、4月発売(Sテープも)
27	1987	S62. 3. 1	407	1	待望のDATデッキ発売へ、オーディオ・デジタル・テープの技術を総合	3/23、DATデッキとDATテープ発売、他社も発売(松下、ソニー、シャープ)
28	1988	S63. 3. 1	427	1	オーディオ拡売にパワー全開、ミニコン、単コン、ゼネラルオーディオに強力商品	CDラジカセ、ロボットコンポ、K2搭載CDプレーヤー、高性能アンプ、スピーカ等
29	1989	H 1. 1.25	446	7	ビデオ生産3000万台達成、社長、副社長も出席して喜びのセレモニー	1/12、横浜1工でS51.9月生産開始以来3000万台、関係者一同で祝う
30	1990	H 2.11. 1	483	1	部品事業の新展開、キーパーツを商品力の決め手に	部品事業の現状と戦略的な連携で再構築、飯島取締役役のお話

NO.	西暦	年 月 日	発行NO	面(頁)	タ イ ト ル	記 事 内 容
1	1991	H 3. 7. 1	496	4-5	テレビ横型革命はじまる、21世紀に向け16:9の文化を推進	6/5、ハイビジョン・マルチワイドビジョン発表会で16:9画面をアピール
2	1992	H4.10. 1	520	1	DVカラオケが大きな反響呼ぶ、ハード、ソフト一丸で10/1から発売	9/17、音産と連携しDVカラオケシステム発売、9/18にはDVカラオケ内覧会
3	1993	H 5. 1.22	527	1	映像新時代へ、次世代ホームビデオW-VHS、ハイビジョンテレビ発表	1/8、進化したVHSのW-VHS開発と新LSI内蔵ハイビジョンテレビ発表
4	1993	H 5. 2.10	528	1	新生ビクターの創造に向けてテクノフェアが開花	1/31～2/3パシフィコ横浜、最新技術で21世紀の方向性を訴求
5	1993	H 5. 2.10	528	2-3	最新の開発技術を一堂に「テクノフェア」	高能率符号化、高密度記録、高精細イメージング・サウンド等技術展示
6	1995	H 7. 4.15	556	1-2	D-VHSフォーマットを開発規格化、デジタル放送をそのまま記録	4/4、現行VHSと互換性あるD-VHS発表、4/6、デジタル・プロスも発表
7	1995	H 7.10.15	566	1	この秋、ビクターは元気がいいぞ、注目の新製品が続々登場	世界最小最軽量DV1を原寸大で示す、小型低価格化の新型ILA
8	1995	H 7.12.15	570	1	GR-DV1いよいよデビュー12/9発売、ムービーの流れを変えるぞ！	全国一斉発売に向け、12/1横須賀工場で大ヒット誓う出荷式
9	1996	H 8. 5.15	578	1	デジタル化MM時代をリードする新技術、D-VHSなど相次ぐ技術発表	D-VHSスタンダードモード仕様、DVDとHDTVに画像圧縮MPEG2応用
10	1996	H 8.11.15	589	4-5	<特集VHS20周年の集い> その知恵と想像を未来へ継承、発展	20周年パーティーに出席の多数の来賓祝辞概要、VHS開発ヒストリー
11	1997	H 9. 5.15	599	1	DVDハードソフト同時発売、ビクターらしい商品と市場で高い評価	4/21DVDプレーヤー発売と共にハードソフト部門連携でビクターの強み発揮
12	1997	H 9. 6. 1	600	1	さらに小さく軽く、世界最小最軽量フラッシュポケットムービー-DVX新登場	業界初オートフラッシュ搭載6/10発売、多層基板、精密加工技術でリード
13	1997	H 9.10.15	608	4-5	<特集C&D事業グループ>これがビクターの部品事業・7つの驚き！	開・生・販共に国内外で活躍する部品事業の新たな発見と実態紹介
14	1997	H 9.11.15	610	1	明るく美しい大画面！2つの自信作、新D-ILAスーパープロジェクト	D-ILA素子フルSXGS高解像度実現のDLA-G10、小型化ILA-M100G
15	1998	H10. 4. 1	618	2-3	V70記念事業CD-ROM社史、70年のあゆみを映像と音と文字で	70周年記念事業の1つ「CD-ROM社史」が完成、主なメニューを紹介
16	1998	H10. 5.15	620	1	S-VHS ETを開発、VHSテープで解像度400本以上の高画質記録	4/27、帝国ホテルで発表、3つの新技術開発、ET搭載デッキは今夏発売
17	1998	H10. 8. 5	625	1	MDプレーヤー他強力MD4機種、再生専用ポータブルMD市場に参入	7/24、MDオーディオ4機種の新商品発表、CD-MDシステム、コンパ外コンポ等
18	1998	H10.10. 1	628	1	放送業務用デジタルS発売、市場動向踏まえた高画質化	9/8、デジタルSブロードキャストシリーズ発表、高音質4chPCMオーディオ装備
19	1999	H11. 4.15	638	1	D-VHSでソニーと提携・共同開発、互いに強みを生かした新コラボ	デジタルネットワーク時代に対応したIEEE1394採用のD-VHS開発で提携
20	1999	H11.11.15	645	4-5	<特集ビクターらしさの復活> JD-99ここがポイント！ビクターの強み	D-VHS、ILAテレビ、モバイルPC、ホームシアター、「映像メディアの世紀」イベント
21	2000	H12. 8.15	656	1	MDの長時間対応モデル発売、業界に先駆け7月にフルラインナップ投入	7/18、ミニコンからポータブルまでMDロングプレイ時代をリードしシェアアップを
22	2001	H13. 3.15	665	1	小型化はビクターポケットムービー誕生、遂にやった！世界最小最軽量	ワイシャツのポケットに入る超ミニサイズDVP3全世界発売、シェア35%目指す
23	2001	H13. 8.15	670	1	オーディオ技術を映像技術に応用、DVD-K2新技術を開発	音質改善技術デジタルK2をDVDソフト製作に応用、音質・画質を向上
24	2001	H13. 9.20	671	1	新世代高画質テレビ技術「DET」を開発！	映像入力を上位変換(IP変換)、走査線1500本で高精細画像を実現
25	2002	H14. 8.15	683	1	V75商品で下期への流れを作ろう！大画面プラズマとシアターシステム	創立75周年記念商品のDDスピーカーシアターシステム、DET搭載プラズマ等



13



15



12

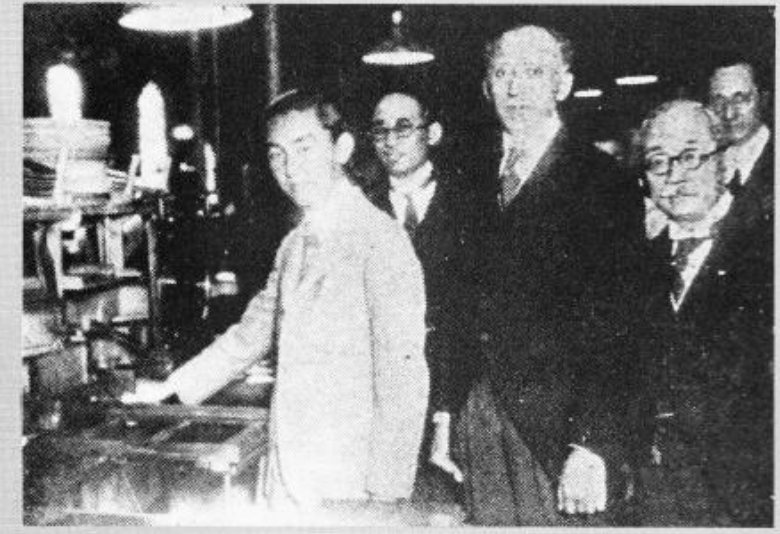
タイトル
「写真で見るわが社戦前史（昭和2年創立～昭和20年まで）」

記事内容
「昭48.9月に創立46周年を迎え、創立時から昭20年までの歩み特集」



16

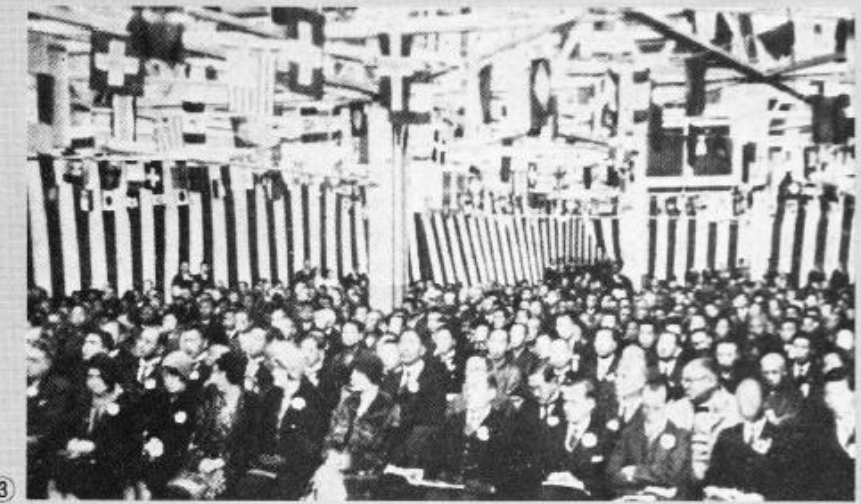
写真で見るわが社戦前史



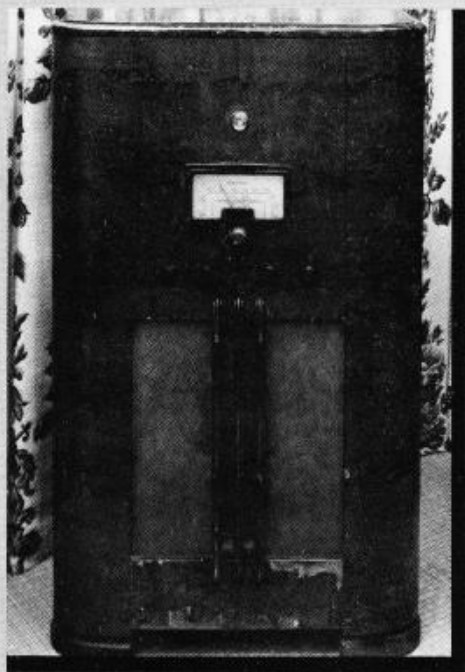
1



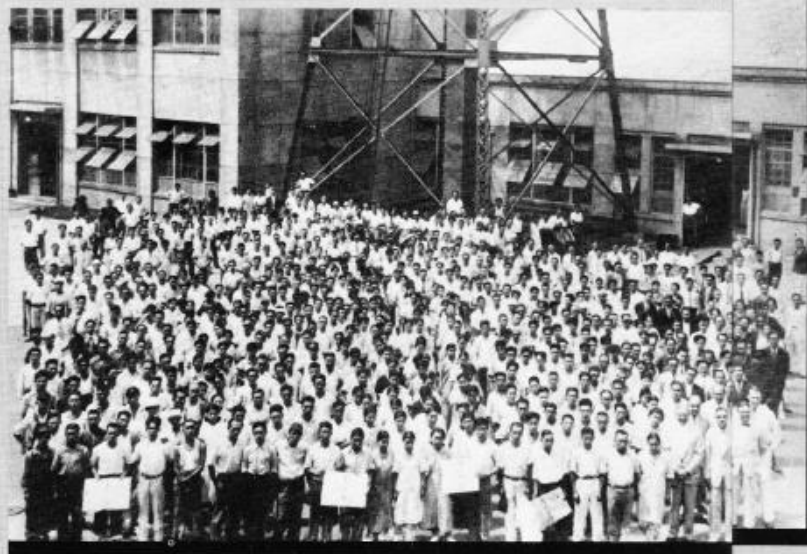
2



3



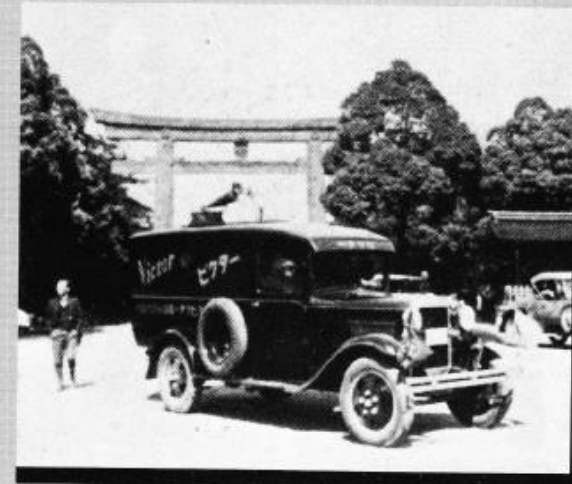
11



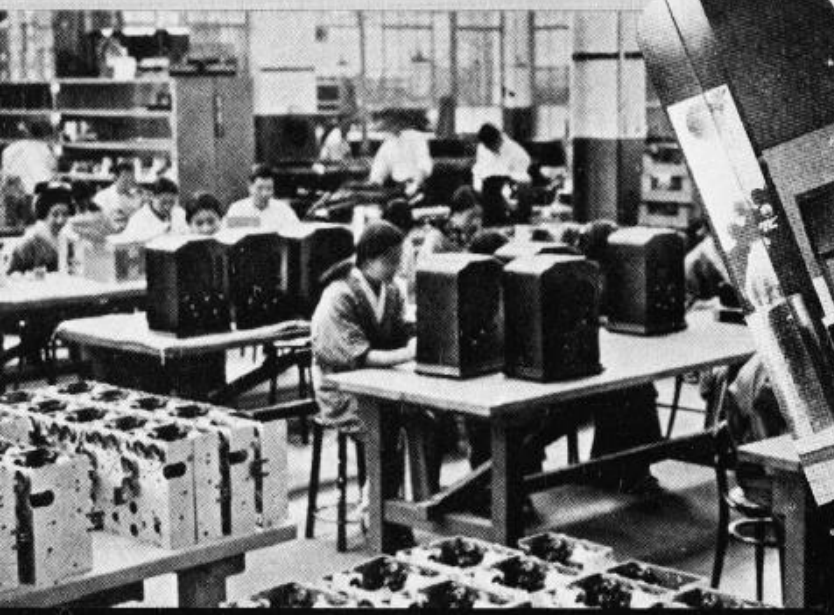
7



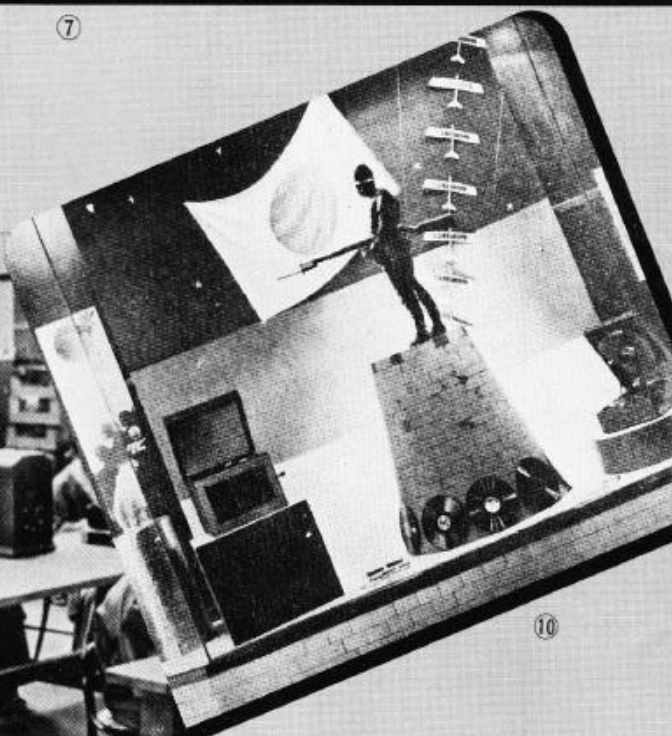
8



4



9



10



6



5

大和-1

発行月日
: 1973年
S48.9

発行NO.
: 233

グラビア

▼昭和18年4月8日、社名を日本音響株式会社と改める。16年12月8日の太平洋戦争はついで以来、英語は敵性語といわれて使用をさしとめられた。

▼昭和19年4月25日、軍需会社に指定される。このころビクターでは電流探知器を制作していた。

16昭和20年4月4日、横浜工場の85%が空襲で焼失。東洋一の規模を誇った大工場も鉄骨だけの残骸に。24年当時のレコード工場

側。巨大なブラウン管にご注意。

◆

13昭和14年9月、東京・日本橋高島屋で行なわれたテレビジョンの実演風景。カメラの前にすわった小唄勝太郎さんの前にある扇風機が印象的です。

14その当時のテレビジョンの裏側。巨大なブラウン管にご注意。

710周年の当時の従業員のみなさん。女性の服装とヘアスタイルが当時をしのばせます。

89昭和11年当時の工場内部。上はレコード検査。下はラジオ組立て。

10昭和12年7月、蘆溝橋事件により日華事変はつ発。シヨウウィンドーも戦時色が濃くなりました。

11昭和12年12月、名器といわれた「RE-48型」を発売。しびれる低音の魅力は「ヨンパチ」の愛称で人気を呼びました。

12昭和14年9月、わが社はわが国初のテレビジョンを完成(左側)。映像は鏡で反射して見るようになっていました。右は翌年10月に発売した第二号機。

13昭和14年9月、東京・日本橋高島屋で行なわれたテレビジョンの実演風景。カメラの前にすわった小唄勝太郎さんの前にある扇風機が印象的です。

14その当時のテレビジョンの裏側。巨大なブラウン管にご注意。

6昭和11年9月28日に行なわれた会社創立10周年記念式典。

1昭和3年5月、横浜工場(当時は横浜市市中村町)を見学した久通宮朝臣王殿下(左・当時)。左から三人目は初代社長のガードナー氏。

2昭和5年12月、新子安に横浜工場完成。一年がかりの工事でした。敷地八千余坪。総経費350万円。蓄音器およびレコード工場としては東洋一と称されました。

3新工場落成のとき行なわれた祝賀式の模様(昭和5年12月6日)

4明治神宮社頭での日本フォード自動車株式会社とタイアップして行なった自動車大宣伝キャラバン隊(昭和6年3月)。車にはエレクトロラが設置してありました。

5昭和8年6月に発表された「東京音頭」は空前の大ヒットとなりました。

●創立46周年を
記念して/創立時
から昭和20年までの歩み
を特集してみました。

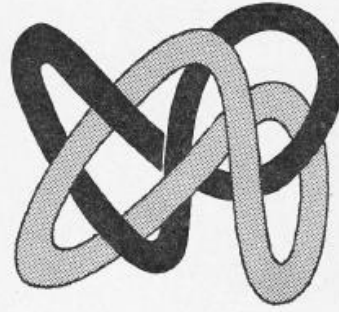
わが社オーディオの開発史を知ろう

0.002ミリに

一年間

苦しむ

ステレオ一号機は33年4月



日本でLPレコードを最初に発売したのは日本コロムビア社。昭和二十七年のことでした。
しかし、これは外国から輸入した原盤をプレスしたもので、音ミゾのカッティングから始めたというものは

ではありません。

当時のわが社は、昭和二十年四月四日に受けた爆撃で横浜工場の八五%を失うという大打撃がまだ尾を引き、原盤の輸入はほとんどとだえたままでした。

迎えて二十八年の三月、わが社の経営に重要な転機がおとすれます。故野村吉三郎氏、百瀬会長、北野社長をそれぞれ社長、副社長、専務として迎えたことです。

さっそく「新しい音の方向をめざして積極的な技術開発を推進する」という方針が打ち出され、LPの情

音楽を愛する者
音楽を精神の糧とする者にとって
音楽は

信仰に似ている

音の再生に 生涯を

捧げるわれらは

限りなく奥ふかい

原音の究明に

悔いなき日々を

生きなければならぬ

この一文をご存じでしょうか。大和工場のステレオ工場玄関に掲げられているものです。

報皆無のなから自社生産に全力が傾注されました。

技術情報はまったくなし。手さぐりの状態から研究をすすめてはなりませんでした。

五〇ミクロン（千分の五ミリ）と

いうひじょうに微細な音ミゾをカッティングするにはあまりにも老朽な研究設備。それは血のにじむような苦勞でした。多くの重要な仕事は、昼間の騒音と振動をさけて夜を徹して進めた、といわれています。

こうした苦勞の結果、ついにその年の九月、わが国最初の全工程国産

わが社四十六年の歴史は、いってみれば音づくりの歴史といえます。

しかも、その歴史をひととき大きく輝かすのは、戦後音楽・音響業界をリードするLP・EPそしてステレオレコード、ステレオの開発をわが国ではもちろん初めて、世界でもアメリカなどとはほぼ同じ時期にやっ

てのけたという実績です。こうした開発技術の蓄積、優秀さが、世界に先がけての「CD-4」システム開発に通じていることはもちろんです。

ここでもう一度、そうした開発のあとをふりかえってみましょう。

化によるLPレコードが完成、十月新語として発売されました。

ハイフェッツの「スペイン交響曲」とコルトーの「別れのワルツ」が、その第一のレコードでした。

当時LPレコードの生産に従事した（レ事）の市川さんは、思い出をつぎのように話しています。

「一日に一枚しか良品が出なかったこともありました。つくものつくるものが不良品でしたね。」

当時のレコードプレスは大変な力仕事でして、筋骨たくましい男でないとつとまらないといわれたもので

その1

大和-2
発行月日 : 1973年 S48.9
発行NO. : 223
面(頁) : 21-23

タイトル

「わが社のオーディオ開発史を知ろう、0.002ミリに1年間苦しむ」

記事内容

「わが社の46年間は音作りの歴史、LP・EPレコード開発、ステレオ発売等」

す。現在の女性だけのプレス職場なんて夢みたいですよ」

EPレコード

開発

昭和28年12月

音には、自ら設計したビクタアンプを用い、自らカッティングしてつくったレコードをかけて、なおかつ満足すべき音が得られないという、どこへも非難のもっていきようのない追いつめられた苦悩を経験した者でなければ知ることのできない何かがある、といわれます。

その意味で、LPレコードの苦悩にみちた経験こそ、そのあとの音づくりに実に貴重なものでした。

九月から三か月あとの十二月、わが社はEPレコードを開発することになります。

といっても、当時日本には四五回転用の録音機が一台もなく、まずそれを設計することから始まりました。つぎにカッティング。LPレコードですでに経験ずみのことでしたが今度は寒さが敵になりました。

ストープひとつないコンクリートのへや。人間は何とか耐えましたが機械がいうことをきかなかったのです。何度やっても、LPのときのようには安定したみぞがききだめないので。

そのうち、うまくいかないのは室温が低すぎるのでは、と気づき、ガストープを用意し、へやをあたたかくしてからやってみたら、大成功。針の部分に約一〇〇度の温度を与えてカッティングするという今日の常識は、このような素朴な体験のなかから生まれてきたのです。

その記念すべき第一号のEPレコードは、ダイナ・ショアが歌う「ブルー・カナリィ」。昭和二十九年の二月新譜でした。

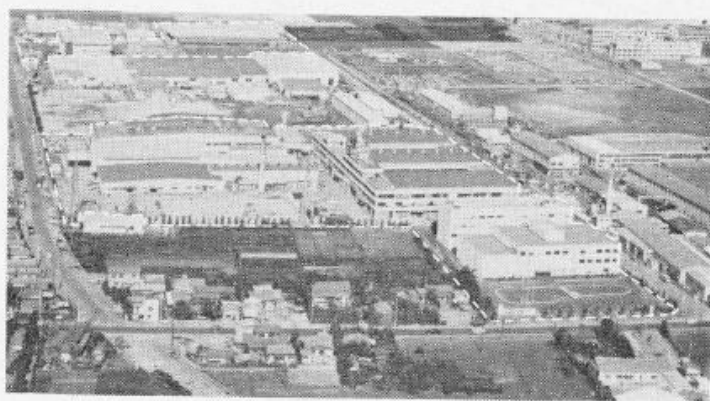
これは、原盤輸入プレスで発売しようとしていた他社よりもわずか数日早く、名実ともに国産EPレコード第一号の榮譽を勝ちとりました。

ステレオ演奏器

昭和33年4月

レコード発売

昭和33年8月



神奈川県大和市に偉容を誇る大和ステレオ・センター

このあと、アメリカのベル研究所などで独自の研究が進められましたが、完成にはいたりませんでした。わが国では昭和二十七年にNHKがラジオの第一放送と第二放送を使ってステレオ実験放送を行なったのが最初です。

このころになると、ステレオ・テープは完成していて放送用のテープが送られているようになりました。わが社の技術陣がRCAから送られてきたステレオ・テープをきいたのは昭和三十一年。圧倒的な音のひびき、ひろがり技術陣に強烈な衝撃を与えました。

そのときからまた、あくなき音への挑戦が開始されました。

といっても、二つの音の信号を使うこと、同時にひろわなければならないことの二点はわかっているものの、そのほかの技術的情報は皆無。

そのため二枚のレコードを使い、二つのビクタアンプで音をひろうという初歩的な試みさえあったそうです。まだ同じレコードに二本の音みぞをきき、二本のビクタアンプでひろうという実験も行なわれました。そしてこれらの実験を通じて結論的にわかったことは、一本の針で二つの信号を同時にひろうしか手法が

ないということでした。

そんなとき、ふとしたことから二つの音の信号をそれぞれ四五度にとったかどうか、というアイデアが浮かんできました。テスト。うまくいきました。昭和三十一年九月のことです。

しかし、それからが大変でした。ヒズミをなくすために、レコードのみぞを〇・〇〇二ミリだけ底を深くしたわけですが、どうしてもヒズミがとれません。

原因はメッキ工程にあったわけですが、この〇・〇〇二ミリのためにそれから一年間にわたって身を切る思いの苦闘がつづきました。

昭和三十三年二月、わが社は45方式によるステレオレコードの完

成を発表しましたが、すべてわが社の技術力だけで開発した偉大さは、「ヒズ・マスターズ・ボイス」のマークとともにオーディオ界のリーダーとして、世間の高い評価を勝ちとりました。

第一回レコード発売はその年の八月。わが国ではもちろんトップでしたが、アメリカでの発表ともほとんど同時でした。

「ピアノ協奏曲第一番変ロ短調／チャイコフスキー作品23」などクラシック数曲が第一回新譜でした。価格は二八〇〇円。

またこれに先立つこと四か月前の四月、わが国で初めてのステレオ第一号機「STL-1S」型を発売しています。

わが社はこのあとも「原音探究」をめざし、日本で初めてのステレオビックアップを完成するなど、ステレオの創成期にあつてオーディオ界の牽引者としてリードしていくことになりました。

◇ ◇

それから昭和四十五年九月二日の〈CD-4〉システム発表にいたるまで、昭和三十九、四十、四十二年の三回にわたる「生演奏とのすり替え実験」昭和四十一年のSEA（音場補正）発表など数々の開発技術を行ない、世界で初めてという〈CD-4〉の開発でとうとうわが社の技術は世界に飛躍したわけです。

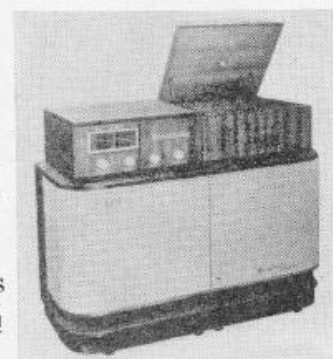
創立四十六年を迎えた今日、わたしたちは「ヒズ・マスターズ・ボイ

ス」の意義を考えるとともに、改めてわが社の底力に自信をもち、V-100プランの実現に全力を注いでいきたいものです。

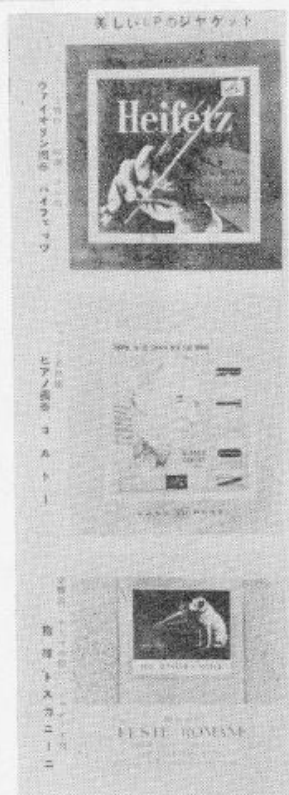
なお、オーディオ以上に忘れてならないのは、テレビ受像機の第一号機を完成したのもわが社で、昭和十四年のこと。これには大正十五年十二月、ブラウン管を用いた世界で初めてのテレビジョン実験に成功した高柳副社長も激賞をおしまなかった、といわれています。（記事作成にあたっては「ビクター」誌七三年四月号、「音その歩み・その夢」を参考にしました）



国産テレビ受像機第一号



わが国初のステレオ「STL-1S」型



最初に出したLPレコード



LP・EPプレス工場

コンポ7機種いっせいで発表

わが社は五月六日、チューナー・アンプ・プレーヤー、スピーカーなどコンポ7機種の発表を一手に発表しました。これは、ことしの4チャンネル化の進展、レオ・ユニタツ七機種を一手に発表しました。これは、ことしの4チャンネル化の進展、レオ・ユニタツ七機種を一手に発表しました。

今回の新商品は、四月五日付のステレオ事業部の組織変更で新設されたコンポ・ネット部初の新機種とあって、いずれが自他作。

イの風潮は単にシン・スピーカなどのユニット個々の性能追求にとどまらず、音場再現のハイファイ性についての徹底追求である。その結果、音場再現のハイファイ性についての徹底追求である。

したがって今回の新機種の発表にあたっては、音場再現のハイファイ性の追求を行なう。ハイファイ性の追求を行なう。ハイファイ性の追求を行なう。

なお、新商品は入表へのとおりだが、このなかでどこに注目されるのは、バックシールド・スピカシステムの「SX-3」。

「無共振」を徹底追求
▲プレーヤー
▼JLB77シリーズプレーヤー・システム・トーンアム・UAFノーターナル・JLB77

▲プレーヤー
▼JLB77シリーズプレーヤー・システム・トーンアム・UAFノーターナル・JLB77

▲プレーヤー
▼JLB77シリーズプレーヤー・システム・トーンアム・UAFノーターナル・JLB77

▲プレーヤー
▼JLB77シリーズプレーヤー・システム・トーンアム・UAFノーターナル・JLB77

▲プレーヤー
▼JLB77シリーズプレーヤー・システム・トーンアム・UAFノーターナル・JLB77



JLB77シリーズ

音場再現を徹底追求

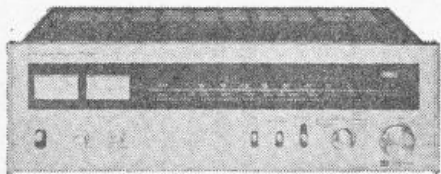
スピカSX-3は業界最高

抜群の選択度特性

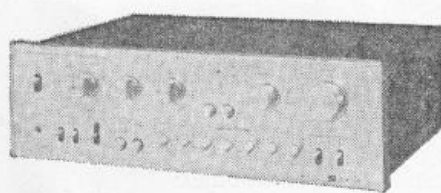
▲チューナー
▼FM・AMチューナー「J-Tuner」
▼FM・AMチューナー「J-Tuner」

充実した回路構成

▼FM・AMチューナー「J-Tuner」
▼FM・AMチューナー「J-Tuner」
▼FM・AMチューナー「J-Tuner」



JLB77



JLB77

充実した内容の取扱説明書 JAS-9のシニア版。

＜特徴＞ ①全段直結純コンパリメンタリ・OCL方式採用②総合110W（エリジックパワー）③SRAシステム五素子型内蔵④低雑音P-N-P-N混成三配置結回路の用途の広いテープモニタ・セレクトター（SRAシステムを通じて録音が可能）

豪華フロアー

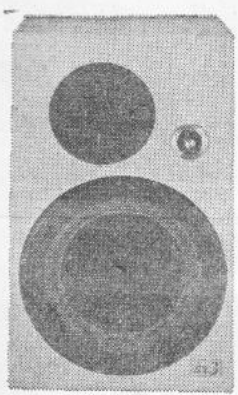
タイプ

スピーカー

▼フロアタイプ・スピーカー・システム「SX-9」

呼吸器の調子から開発されたソフトドーム・ツイーターと超低音域をポイントにおいた30cmと25cmのフリースピーカー・ウーハーを組み合わせた豪華フロアー・タイプのスピーカー・システムです。一連のスピーカー・システムのねらいとして音楽性及び無指向性（自然な音は、ソフトドーム・スピーカーの開発により、より近いものとなり、歪の少ないナチュラルな音再生することができるようになりました。このソフトドーム・シリーズの最高級機といえるのです。

＜特徴＞ ①低音用にKDUコーンを使った30cmフリースピーカー・ウーハーの豪華組み合わせ



SX-3型

②無指向性音楽体の理想である「呼吸器理論」を採用し、実現化したソフトドーム・ツイーター③吸音率が従来の二倍もあるエステルウール（動物性）を吸音材に使用④キャビネットの横方向、縦方向の音の伝播速度を等化、響きを美しくさせる響材の使用⑤キャビネット材は、ピアノなどに使われる米国産針葉樹材、ダークラス・ブーク（低音再生の効果を生み出す）ロケット・ダクト・バスレフ方式採用

＜規格＞ 型式／三ウェイフロア・システム

新 商 品 一 覧

＜表1＞

商 品 名	型 名	標準価格	発売予定
J L B 77 シンテター	U A 77	¥ 13,000	6 月
T H 77 タキ	J L T 77	¥ 53,000	6 月
J L B 55 シンテター	J L C 77	¥ 14,000	6 月
T H 55 タキ	U A 55	¥ 9,000	6 月
J L B 55 シンテター	J L T 55	¥ 29,000	6 月
T H 55 タキ	J L C 55	¥ 10,000	6 月
J L B 55 シンテター	M D 2 E	¥ 8,500	6 月
T H 55 タキ	J T V 9	¥ 83,000	6 月
J L B 55 シンテター	J A S 9	¥ 89,500	6 月
T H 55 タキ	J A S 7	¥ 69,800	6 月
J L B 55 シンテター	S X 9	¥ 140,000	8 月
T H 55 タキ	S X 3	¥ 27,900	5 月

ポートダクト・バスレフ方式スピーカー/低音用30cmフリースピーカー/中音用25cmフリースピーカー/高音用5cmソフトドーム

数々の特徴を秘める

▼ブックシェルフ・スピーカー・システム「SX-3」

デザインは最新、かつシリアルですが、「音楽性豊かな音を再生するため」という言葉をモットーに、数々の特徴を秘めた新しいスピーカー・システムです。より自然な音を再生するために、新しく開発したソフトドーム・スピーカーや、キャビネットの材質をはじめとして、吸音材にいたるまで、徹底的に究明し完成しました。これからの新しいスピーカー・システムの方向づけをするニュータイプといえます。

＜特徴＞ ①欧州の名廠やダイナコ製スピーカーにも使われている西ドイツ・クルトミューラー社のKDUコーン使用②5cmエアナ・ペンションタイプ・フリースピーカー③無指向性音楽体の理想、呼吸器理論を採用表現したソフトドーム・ツイーター④吸音率が従来の二倍もあるエステルウール（動物性）を吸音材に使用⑤キャビネットの横方向、縦方向への音の伝播速度を等化、響きを美しくさせる響材の使用⑥キャビネット材は、ピアノなどに使われる米国産針葉樹材、ダークラス・ブーク（低音再生の効果を生み出す）ロケット・ダクト・バスレフ方式採用

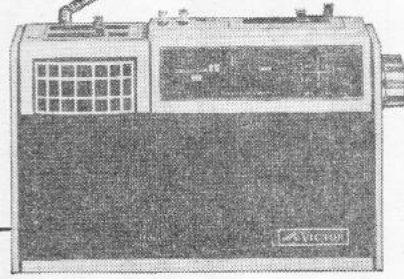
＜規格＞ 型式／二ウェイフロア・システム

シリーズ！

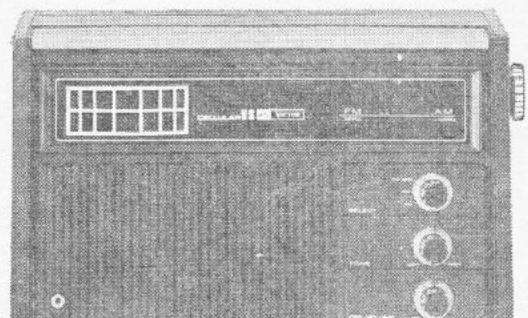
●拡売に協力しましょう

ピーカー・システムによる迫力音！

選がきます



FM・MW・SW 3バンド ポータブル F-130型 ¥16,800

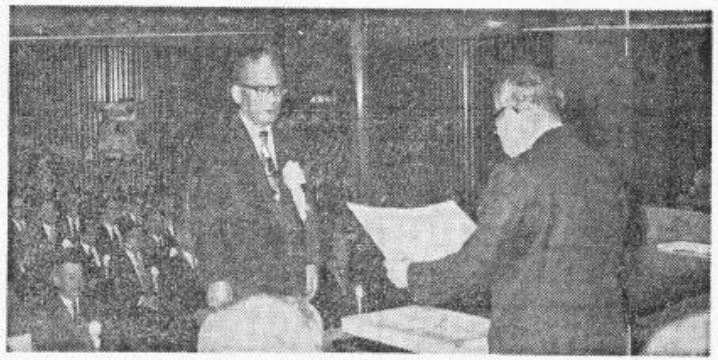


FM・AM 2バンド

その2

ビクター時報-3
発行月日
: 1972年 S47.5.16
発行NO.: 81
面(頁): 2

タイトル
「J」7機種いっせい発表、音場再現を徹底追求、SX-3は業界最高」
記事内容
「チューナー、アンプ、プレーヤ、スピーカーなどCD-4関連技術を生かして商品化」



はえの協会賞をうける北野社長

機械振興協会賞をうける

“世界の商品”裏付けに

△CD-4▽はえの賞状

わが国工業技術の最高賞である「第七回機械振興協会賞」を、わが社の△CD-4▽システムが
 みごと受賞しましたが、さる十一月六日午後三時からこの授賞が行なわれました。会場である東京
 ・芝の機械振興会館には、関係官庁、団体、受賞者など約百二十人が出席、有沢広美副会長が式辞を
 のべたあと、企業表彰の四社、グループ表彰の三グループに表彰状と表彰楯が贈られました。わが
 社からは、北野社長、大塚取締役、井上（音研）長、長谷川（レ事）長、それに（ビクター音産）
 笠島常務のみなさんが出席、表彰状は北野社長が受けられました。

授賞式あと、同会館内で「したが、会場には受賞した△CD-4▽、家庭用メーカで初の受賞だけ」とめられた橋弘作氏が、機械振興
 やかに授賞パーティーが開かれ、△4▽システムが展示、演奏さ

協賛会として済ませておられ
 末が、パーティー会場では、北
 野社長との歓談、「ほんとにおめ
 でう」と技術開発に限りない発
 展を続けるビクターの姿に感無量
 のおもちでした。
 機械振興協会賞は、工業技術の
 最高賞であるだけに、申請はこ
 の四月に行なわれ、その後数回
 にわたる審査を経てきました。そ

の間、現場視察などもあり、さる
 七月三十一日には同協会の機
 械技術研究所の藤田所長や、同協
 会の角部長が（音研）をおと
 すれています。

「いままでは産業機械が受
 賞していたのがあって、家電商
 品はあまり考えがなかった。し
 かし△CD-4▽システムはひ
 じょうに優秀なものであり、こ
 の技術振興のために表彰の価
 値は十分あった。驚くべき受賞
 だ」と、角部長が賞状を授けて
 いますが、△CD-4▽システム
 が世界的開発商品であることが、
 この受賞によって一層裏付
 けられたといえます。

△機械振興協会賞△、独自の国
 産技術で世界的に高く評価される
 優秀な研究開発を行ない、その成
 果を工業化するによって、わ
 が国の機械工業技術の進歩向上に
 いちじるしく貢献した人および企
 業を表彰する制度。昭和四十一年
 から実施されている。

ビクター時報-4
 発行月日
 : 1972年 S47.11.16
 発行NO.: 93
 面(頁): 3

タイトル
 「CD-4が機械振興協会賞をうける、
 世界の商品裏付けに」

記事内容
 「11/6 我が国工業技術最高賞の
 機械振興協会賞を受賞」

CD-4

世界戦略さらに前進

W.E.Aグループ (アメリカ最大のレコード会社) も採用



CD-4 ① 北野社長 (右) と W.E.A.グループ代表 (左) の会談の様子

わが社は、ハッチェンソン方式の世界的な普及をはかるため、各国のレコード社と提携を結んでいます。このうち、アメリカ最大のレコード会社であるW.E.A.グループ(ワシントン・エンタテインメント・グループ)が、CD-4方式の採用を決定し、契約を結んでいます。これは、わが社のCD-4方式が、アメリカでも採用されることを意味しています。W.E.A.グループは、アメリカ最大のレコード会社であり、その採用は、わが社の世界戦略に大きな前進をもたらすものと見られています。

ビクター時報

日本ビクター株式会社
東京都中央区日本橋本町4-1-1
電話(241)7811 郵便番号101
編集 広報室広報部
発行人 松本 隆
印刷 東京サンケイ印刷

昭和48年度経営スローガン
ほんものに徹する

絶対的な信頼勝ちとる

ハリウッドにインゲセンター

W.E.A.グループのCD-4方式は、ハリウッドの音楽界でも、絶対的な信頼を勝ちとっています。これは、CD-4方式の音質が、従来のレコードよりも優れているためです。ハリウッドの音楽界では、音質が非常に重要視されており、CD-4方式の採用は、その信頼の証とされています。

すべてお客さま本位

CD-4方式は、すべてお客さま本位の考えで開発されました。これは、お客さまが最高の音質を聴きたいという願いに応えるためです。CD-4方式は、従来のレコードよりも、音質がクリアで、低音が豊かです。これは、お客さまにとって、非常に魅力的な特徴です。



発表会であいさつする北野社長

世界的な技術水準を示す

CD-4方式は、世界的な技術水準を示しています。これは、CD-4方式が、世界中の音楽愛好家から高く評価されているためです。CD-4方式は、音質が非常に優れており、これは、世界中の音楽愛好家にとって、非常に魅力的な特徴です。CD-4方式の採用は、世界的な技術水準を示すとともに、わが社の世界戦略に大きな前進をもたらすものと見られています。

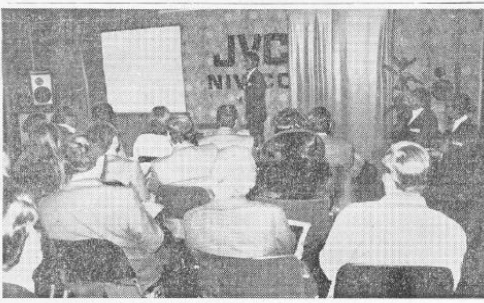
CD-4グループへ参加をうながす

CD-4グループへ参加をうながす。これは、CD-4方式の普及を促進するためです。CD-4方式は、音質が非常に優れており、これは、世界中の音楽愛好家にとって、非常に魅力的な特徴です。CD-4方式の採用は、世界的な技術水準を示すとともに、わが社の世界戦略に大きな前進をもたらすものと見られています。

積極的に販売できる

セールスに強力な援護射撃

CD-4方式は、積極的に販売できる。これは、CD-4方式の音質が、従来のレコードよりも優れているためです。CD-4方式は、音質が非常に優れており、これは、世界中の音楽愛好家にとって、非常に魅力的な特徴です。CD-4方式の採用は、世界的な技術水準を示すとともに、わが社の世界戦略に大きな前進をもたらすものと見られています。



MIDEMでのデモは100人を超す記者のみさんを集めました

欧州でも明るい見通し

MIDEMのデモで大成功

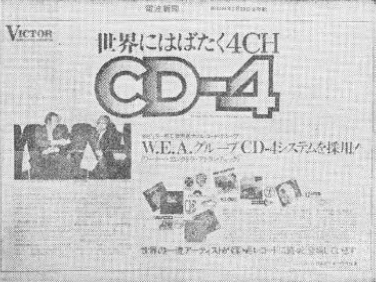


WEAグループ CD-4 システムを採用!

広報活動もぐんと充実

新聞各紙も大きく報道

CD-4方式の採用は、新聞各紙でも大きく報道されています。これは、CD-4方式の音質が、従来のレコードよりも優れているためです。CD-4方式は、音質が非常に優れており、これは、世界中の音楽愛好家にとって、非常に魅力的な特徴です。CD-4方式の採用は、世界的な技術水準を示すとともに、わが社の世界戦略に大きな前進をもたらすものと見られています。



世界にはばたく4CH CD-4

ビクター時報-5
発行月日：1973年 S48.3.1
発行NO.：100
面(頁)：1

タイトル
「CD-4世界戦略さらに前進、WEAグループ (米最大レコード会社) 採用」

記事内容
「2/21日米同時発表、WEAが4ch CD-4方式の採用決定」

商品群のラインアップ強化

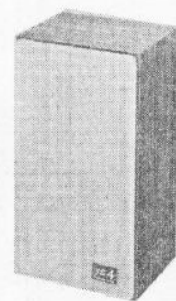
ステレオさらに充実

コンポとDFシリーズ

人間聴覚は、同時に聴くことができる。オーディオは、これに近づけるものとして、わが社でも、よりよい音の再生の質を追求した商品を出していますが、このたびは、ローシャリ・四機種、コンポは五機種を発売しています。

「コンポネント」

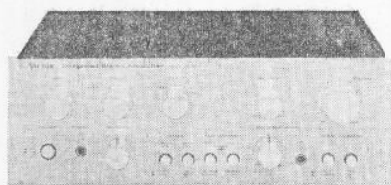
コンポネントとは、オーディオの各機種が、互いに独立して動作し、それぞれが自分の役割を十分に果たすように設計されている。これにより、音の再生が、より正確で、より自然なものである。



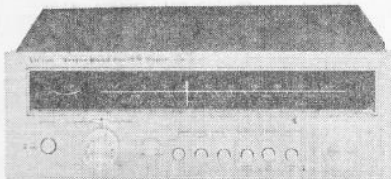
JS-4型 (¥10,500)

コンポネントのオーディオは、各機種が互いに独立して動作し、それぞれが自分の役割を十分に果たすように設計されている。これにより、音の再生が、より正確で、より自然なものである。

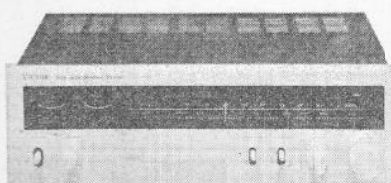
「セパレート」は、高品質なオーディオの再生を実現するための設計。各機種が互いに独立して動作し、それぞれが自分の役割を十分に果たすように設計されている。これにより、音の再生が、より正確で、より自然なものである。



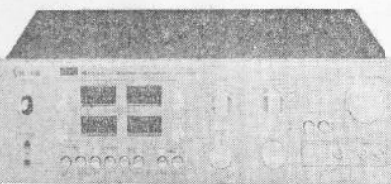
JA-S11型 (¥10,000)



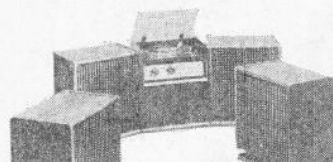
JT-V11型 (¥12,000)



JT-V7型 (¥4,400)



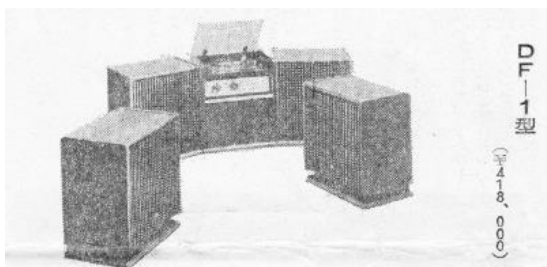
JA-X9型 (¥10,000)



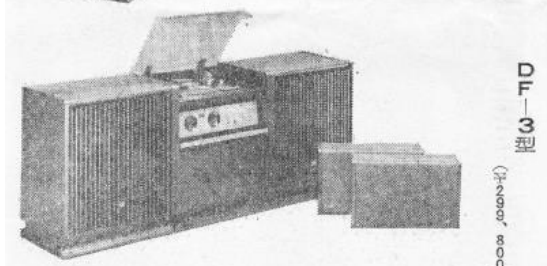
DF-1型 (¥10,000)

この4チャンネルのオーディオは、音の再生が、より正確で、より自然なものである。各機種が互いに独立して動作し、それぞれが自分の役割を十分に果たすように設計されている。これにより、音の再生が、より正確で、より自然なものである。

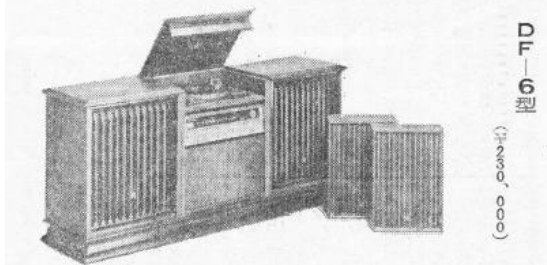
「セパレート」は、高品質なオーディオの再生を実現するための設計。各機種が互いに独立して動作し、それぞれが自分の役割を十分に果たすように設計されている。これにより、音の再生が、より正確で、より自然なものである。



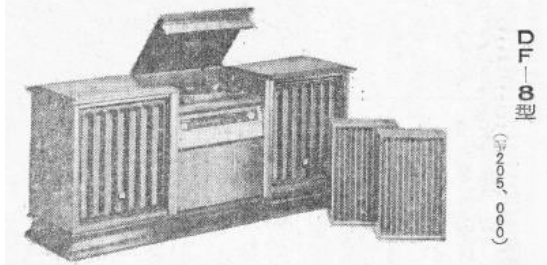
DF-1型 (¥10,000)



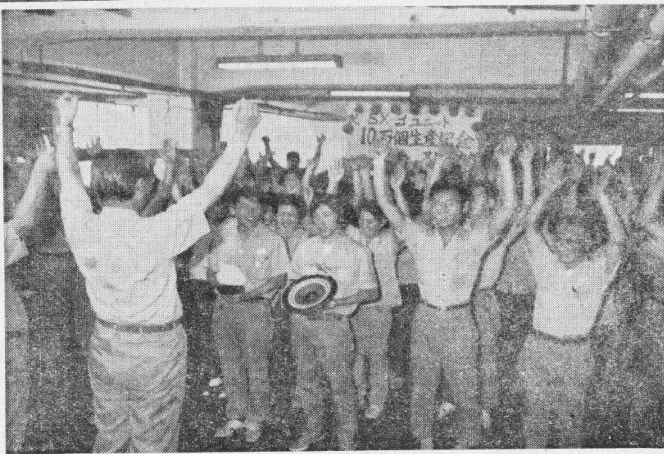
DF-3型 (¥10,000)



DF-6型 (¥10,000)



DF-8型 (¥10,000)

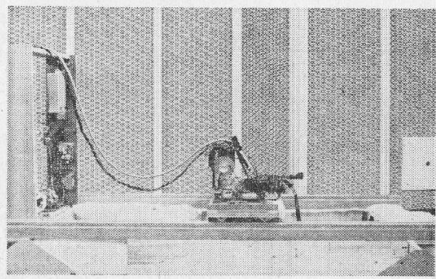


活気あふれる男の職場

作っても作っても売れる

[illegible]

測定法まで独自に考案



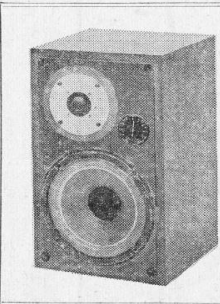
ビクター時報-8
発行月日：1974年 S49.10.11
発行NO.：143 面（頁）：4-5



待望の100,000台目誕生の瞬間

固定觀念破る熱意

妥協があつたらヒットなし

[illegible][illegible][illegible][illegible]

はやくも10万台突破

音のビクター、ここにあり

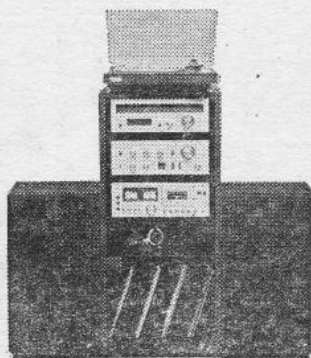
[illegible][illegible][illegible]



ビクター

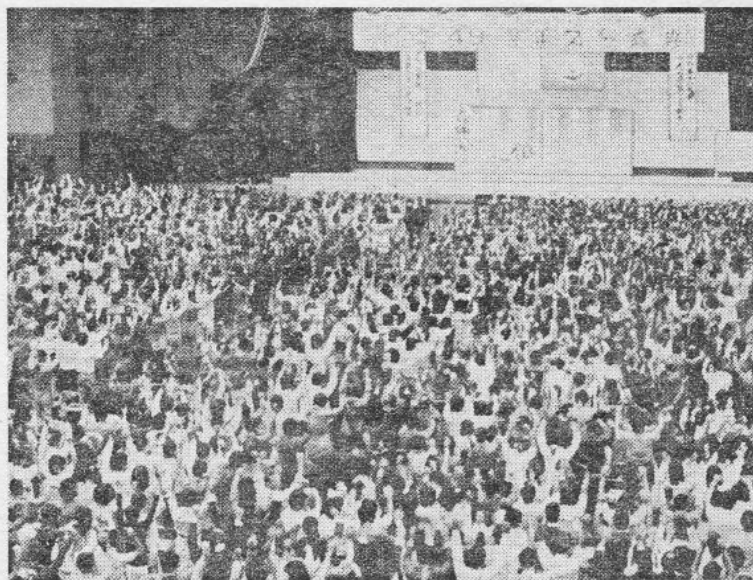
日本ビクター株式会社 東京都中央区日本橋本町4-1
電話(241)7811 郵便番号103
編集・広報 室 印刷 松本 稔
東京サンケイ印刷(株)

毎月 1日、16日、発行



クリエイト・D3D (¥ 148,900)

横浜体育館で
の創立式典



心から50周年を祝え みんなで力を合わせ 創立49周年記念

立五十周年記念の期年
とあって、あいさつに
立った松野社長も「五
十周年の記念日を心か
ら祝賀できると、ビ
クター会員が努力し
よう」と呼びかけられ
ました。

式は国歌および、社歌の斉唱に
はじまり、まず松野社長のあいさ
つ、つづいて、表彰にはいりまし
た。社員特別表彰はビデオ事業部
技術部の藤田光男さんが、また永
年勤続表彰はステレオ事業部製造
管理部長の安西輝夫さんがそ
れぞれを代表して表彰を受けまし
た。

このあと受賞者を代表して、ラ
ジオ録音機事業部長の坊上卓郎
さんが「品質最優先の商品づく
りに徹し、低コストの見直しに
よるコストダウンを実現し、全員
の『和』によって目標を達成しま
す」と力強く誓いを述べました。
これで松野社長のことばが披露

本格的な小型家庭用

「ビデオカセット」表

画期的VHS方式 高性能誇る

HR-3300型

わが社は九月九日、二時間の録
画が可能で本格的な小型家庭用ビ
デオHR-3300型のビデオカ
セットテープを発表、二十五
万六千円の標準価格で十月上旬か
ら発売するところになりました。
この新商品、その名も本格的
家庭用ビデオ時代にふさわしい
「ビデオカセット」。四分の三
（ビデオ・ホーム・システム）。

発表会は東京・酒田のホテル・
オークラ有明の館で行なわれまし
た。午前十一時から四回にわたって
の発表会はいずれも盛況。ソニ
ー、松下をあいっいで発売され
た家庭用ビデオのあと、ビクター
の動向が関係各県から注目されて
いました。

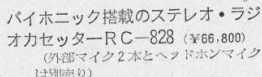
カセット・デッキKD-960
です。（関連記事6、7面）



ビクター時報-9
発行月日
：1976年 S51.9.16
発行NO. : 189
面（頁） : 1

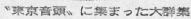
タイトル
「本格的な小型家庭用ビデオカセットHR-
3300、画期的VHS方式」

記事内容
「2時間録画可能、高性能小型家庭
用VTR、256,000円で10/上発売」



発表38件
高柳健次郎先生特別講演
14:30~15:30
主催 研究開発本部
技術推進本部
問合わせ先 横浜工業
(研本) 第 1 内線 37

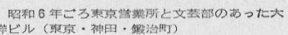
蓄音器も共にセールス



行進曲が叫び、
入社したのに音楽はほとんど風
味のないなつかしい八木澤青年は、な
んとどうも「音」でしかありません
でした。

昭和八年五月、あの「東京音
楽」発売、いまだを我が国の音
節には金鐘で歌い踊れや、音頭
などは日本にや、野村胡堂で
すのひかりや、昭和十一年の
やぐらをどき踊り指導するに
う大倉伝助を展開しました。

「ああ、みなさん、東京音
楽」を、
お願ひまして、指導員の「著手
一投足には音楽が如てこそな
す。それ音楽の、あつた大きな



リュック背負い部品調達

た商品でした。



J R-120

二人は闊別した時代であり、車たが、實に高級品車を持符び、シャシやボディをて、独自の計装をこころい、それがRC-88な、いい、の速のハット・商標に影映と、いいてゐる。

【この頃、今春迄の馬場、久広聖・河島鶴子・藤本との協をいたさした】

オリジナリティ求めて

PGP
シネマ
AC-UP Photophone G-

音と映像技術の源泉

Photophone G-
終戦後はスクラップ整理も一段復興の気運がもり上がりま

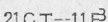
型)、PAP125、25R(トランク型)を発売して、視聴覚教育機器のはりとなりました。

一方、長い耐え生活で娯楽に傾いていた大衆は戦後まず映画にとびつき、第一次の映画ブームが開花しましたが、ここで戦前からのわが社P.G.技術が威力を發揮して東宝、新東宝、東映など各社に光

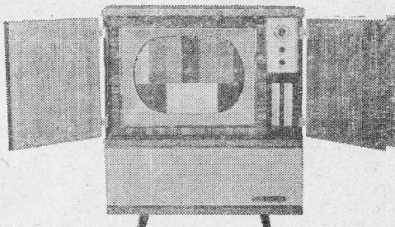
[illegible]

まず重さで苦勞

色のよさ^ク
ゲン 上がる

[illegible]

ツトがあるのだから、ぜひ迫真的なドラマにしたいと、小道具の面



消費を要する方々の価値を格化（二、三円を差し）し、同様なものを販売する時、境界をはかに設けたいので、売掛の中に入らないうちに出せる。

また、金庫、金庫保管料を格化（二、三円を差し）し、同様なものを販売する時、境界をはかに設けたいので、売掛の中に入らないうちに出せる。

また、金庫、金庫保管料を格化（二、三円を差し）し、同様なものを販売する時、境界をはかに設けたいので、売掛の中に入らないうちに出せる。

突然、映像が消える

初公開の前夜、大あわて

わが社は二十二年の昭和三十一年、VYV（ヴァイオフレイ）の発売に着手し、三十四年にスズ・放電管カトラ・VYV（いづ）の発売、調製にかかりました。ところが、夜十二時を過ぎた時、突然生火が起きてしまったのは、三十四年十二月のことです。

原因は何か——十數百日ほど
 去來して、思案をつつ、チマ
 クしてきて、また、かゝる
 思案をばして、原因のふ
 るを、
 奥側寮が、つて明なな
 てきた、四時半をなぞ
 して、よか、一人か二人
 来た。

新需要創造に成功

A black and white photograph showing a large group of people, likely children, seated in rows on a stage or in a large hall. They are facing forward, and a large circular emblem is visible on the wall behind them. The emblem depicts a ship or a similar structure. The people are dressed in light-colored clothing, and the overall scene suggests a formal or organized gathering.

41年二月14日、日本イル
ハバエ一交響楽団の指揮メ
ンバーで構成された四十二人
のロイヤル・フィル・ハバエ三
タック（指揮：摩多喜久）が演
奏するこのレの組曲「アルメ
ン」の「ハバエ二」が再
生にスギ養された途程の瞬
間（スロー・ムービーにカンテ
ーロの表示が与える）。この
公開興業の再生装置はすべて
當時わが社市販中の商品で構
成された。

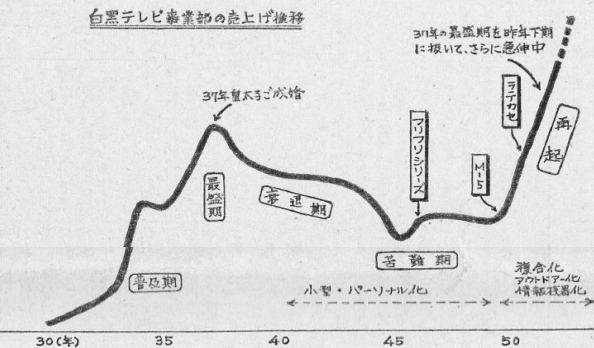
LB77は、数々のすぐれた商品を生みだしています。【取材協力・鈴木理恵】

<7>

最盛期をはるかに突破

昭和二年二月日、Nは、
「レビの本夜を開始しな
さい。その時、レビは最
初、テレ生に入らなれ
ばならぬ。十八分、全
てのレビは、出なけれ
ばならぬ。七時五十分、
三王は、テレ生に入ら
なければならぬ。三時
十五分、レビは、Nに
「レビは、Nと親し
むべき。三王の呼びを
待て。彼は、昭和二年
二月二十六日、まわ
り、三王の「マ
ンツァ」の出現を
「自然な」のイデ
アを記す。彼も、
「レビ」を打出した。

上げ換移



その後、このK-2000は約二百台のうち内は五十余台生産されたが、これが今日のわが社の小型ミオのほりぐといえます。【取材協力・田中（研

発行月日：1977年 S52.9.16
発行NO.：211 面（頁）：6-7

記事内容 「創立50周年を迎え、各事業毎に記念すべき商品を振り返る」

世界の期待にこたえVHSはいま…

VHSビデオは、国内ファミリ16社（ビクター、松下、日立、三菱、シャープ、赤井、海外ファミリ18社（米国のRCA、マクゴブックス、G.R.シルバニア、カネックス、欧州パナ、トムソン・ブラント、ノルデス）が、いま着実に内外の市場に地位を築いて、この遂にファミリーは増加の一途を辿るとともに、VHSが世界のホームビデオの標準規格に向って大きく前進するもの一と想われます。わが社をはじめ、VHSファミリー各社にそれぞれマ

欧州でユーザに大好評

米では非価格競争時代へ

ヨーロッパ

魅力的な新市場
ヨーロッパでは、カセットビデオは、P.A.（Personal Audio）の二種類に別れますが、実際に販売されているのは、VHSとU-Maticの二種類に別れます。また、この二種類のビデオは、互いに互換性がないため、互いに互換性がないという点に注意が必要です。この二種類のビデオは、互いに互換性がないため、互いに互換性がないという点に注意が必要です。

先見性が好結果を生む
わが社は、昨年九月のVHS第一展がきっかけで、欧州市場の調査を開始しました。その結果、欧州市場は、VHSの普及率が非常に高いことがわかりました。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。

VHSの文字消して
イギリスのユーザは、VHSの文字消して機能を非常に高く評価しています。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。また、VHSの文字消して機能は、VHSの普及率をさらに高める要因となっています。

ユーザのVHS評価は極めて高く、VHSの普及率は、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。また、VHSの文字消して機能は、VHSの普及率をさらに高める要因となっています。

ホームビデオの世界規格をめざして力強く前進中



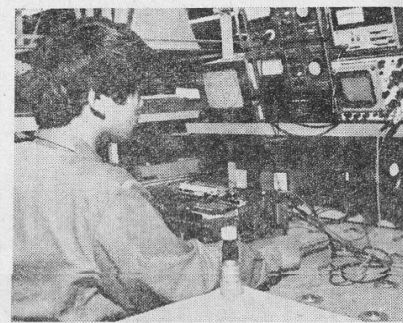
JVCビデオ フランス設立の合意を結んで… (1/20本社で)

アメリカ

価格から機能競争へ
アメリカでは、VHSビデオは、価格競争から機能競争へと移行しています。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。



3時間VHSの英国用ポスター (JVC・UK)



まごころこめて調整～増産にげんめいの(ビ製)ラインにて

VHS伸長への課題

多様化する市場へ対応を

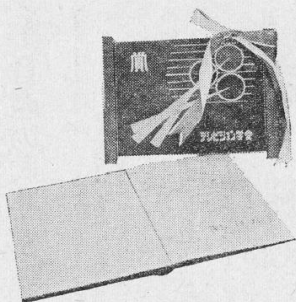
アメリカの場合、二時間以上の連続再生を求めるユーザが増えています。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。また、VHSの文字消して機能は、VHSの普及率をさらに高める要因となっています。

ユーザのVHS評価は極めて高く、VHSの普及率は、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。また、VHSの文字消して機能は、VHSの普及率をさらに高める要因となっています。

VHSに振興賞

テレビジョン学会から

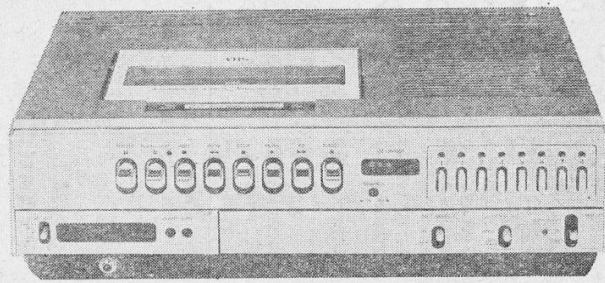
テレビジョン学会は、VHSの優れた性能と、ユーザの好みを高く評価し、VHSに振興賞を授けました。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。



VHSの優れた性能と、ユーザの好みを高く評価し、VHSに振興賞を授けました。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。



JVCのビデオのポスター



欧州規格のVHSビデオ用ポスター (JVC・UK)

責任もって育てよう
VHSの普及率をさらに高めるためには、VHSの優れた性能と、ユーザの好みを高く評価し、VHSに振興賞を授けました。これは、VHSの優れた性能と、ユーザの好みが大きく影響しています。

VHD

標準規格として提案

松下電器産業と共同発表

一月二十一日、わが社は松下電器産業と共同でビデオディスクにつき「VHD方式を日本の標準の一つとして提案する」と発表しました。

発表会は東京と大阪で行われました。東京は千代田区大手町の農協ビル八階で開かれ、松下電器の山下社長、わが社の矢野社長をはじめ関係者が出席、「両社はビデオ方式を日本の標準の一つの原案として提案してゆきます。そして国内外のハード、ソフトの各社の支援を得て日本の標準規格として完成していただき、八〇年代

の新しい情報メディアとして広く世界に普及させたいと希望しています」とことも説明しました。VHD方式がわが社一社ではなく、松下電器産業グループとして採用され、国内をはじめ世界に標準規格としての提案を行ったわけで、今後のビデオディスク規格統一の進展に大きな期待がかけられます。

現在、ビデオディスクの方式として「フリップスーMCA方式（光学方式）、RCA方式（ミソつき静電容量方式）、ビクター方式（VHD、ミソなし静電容量方式）、松下方式（ミソつき電方式）」などがあり、一部ではすでにテスト的ながら発売にみち切っているところもみられます。しかしビデオディスクが民生用に

として広く普及してゆくには、どうしても方式の統一が必要であることはいうまでもありません。今回、両社がビデオ方式と松下方式を検討した結果、両方式とも信頼性、量産性ともに商品としての一定水準に達していることが確認されましたが、多機能により将来の発展性のあるビデオ方式一本に絞って商品化してゆくことに決

まりました。

このことは規格統一問題で非常に大きな意義があるといえるでしょう。山下社長も席上、消費者にご迷惑をかけないようビデオディスクの規格統一は特に重要だ、となども強調されていました。

持株会だより

(54年12月)

参加者数	2,151名
総口数	17,111口
付株価	1,160円
買付口当り数	0.86株

ンク信号をのみとして記録し、これを静電的にとり出す方式。これにより、映像は通常再生のほかに静止、スロー、ランダムアクセス（希望箇所を自由に選んで多種類の動作を行う）など特殊再生も可能で、ビデオディスクの幅広い用途に使えることができる。

またソフト製造も、音のレコーダ盤をつくるのと基本的には同じ装置、同じ工程でつくられるため市場への大量供給も比較的容易であることも大きな特徴。

ビクター時報-16

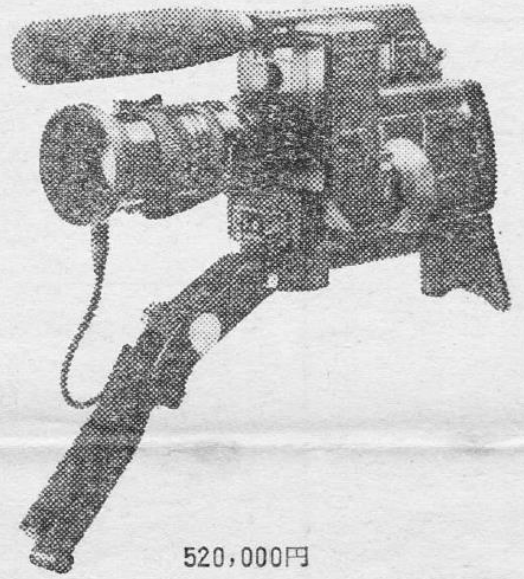
発行月日
: 1980 年
S55.1.25

発行
NO.: 263

面 (頁) : 1

タイトル
「VHD 標準規格として提案、松下電器産業と共同発表」

記事内容
「1/21、ビデオディスク標準方式にVHD提案発表会（東京・大阪）」



サチコン単管の業務用カメラ

CV-S100

テレビ事業部

8 / 10 発売

520,000円

高感度・低残像の一秒サチコン管（ビシコンと同構造だが光電面の材質が異なる）を、業務用のボータブルカラーカメラです。

コンパクト、使いやすさ、低消費電力という単管式の特徴を生かした、業務用の主流の三管式にせまる高性能機で、すでに海外市場では大好評を得ています。

主な特徴①中研開発のトパーフオーマンス

カラーもシステム時代へ

音声多重

AV-20

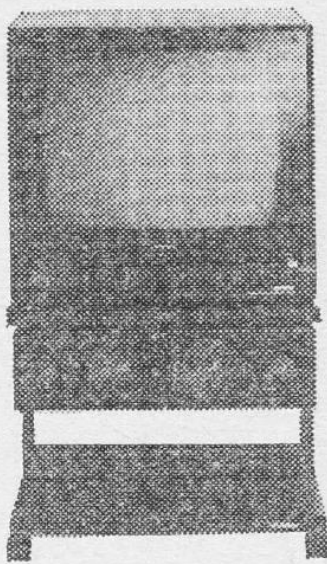
テレビ事業部

9 / 1 発売

ビデオ、ビデオカメラをはシステム化へも対応③くし形はじめ、パソコンやビデオディスク、文字多重放送——と多様な映像を見る映像プログラムヤレスリモコン、オフタイムの新时代。

テレビ事業部ではこれから信チャンネー162（12局プリセット）、音声出力三十三W、一〇ワットピーク二個、電源一〇〇V九七W、高さ四八・三×幅五二・二×奥行四八・八、重量二七・三キ

①家庭用で初



210,000円（本体）

同時掲載記事

ビクター時報-18

発行月日：1981年 S56.9.1

発行NO.：296

面（頁）：2

タイトル

「カラーもシステム時代へ、音声多重AV-20、9/1発売」

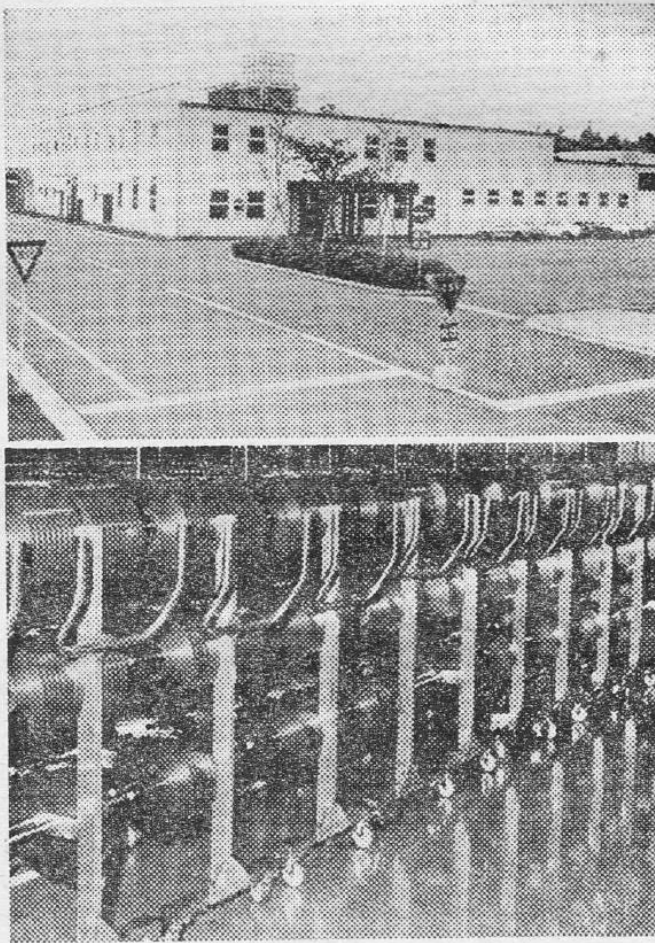
記事内容

「ビデオ、カラー、オーディオシステム対応で21万円、黒いTVで話題の新シリーズ」

VHSテープ増産へ

Vマグネで原反生産も

わが社は八月二十五日、VHS用ビデオテープの生産体制を強化し、来春はじめには月産三百五十万巻と、従来を八割近く上回る規模に拡大することを明らかにしました。



写真④はピクチャーマグネテープ機の全景
⑤は生産されたVHSテープの原反

って増産計画を推進し、高品質ビデオテープによるわが社ビデオのいっそうのイメージアップと、テープ市場占有率の向上を図ることになりました。

生産体制は新設の水戸第三工場の設備完成の度合いに従って段階的に強化されますが、従来はすべて専門メーカーからビデオテープの原反供給を受けていたものが、今回からは全生産量のかなりの部分がVマグネでつくる原反で充当され、わが社テープ事業グループの手による一貫生産が、いよいよ軌道にのることになりました。

飛躍をめざすピク

ターマグネテープ

Vマグネでは、すでに五十四年の設立時からオーディオ用メタルテープの原反生産にあたってきま

最近ビデオの急激な普及と、お客さま一人当たりの購入巻数の増加によりビデオテープの需要はウナギのぼりに伸長、世界的に商品供給不足の状態にあります。そのため海外では、日本の有名ブランド品をソックリまねたニセモノまで出回るあります。業界各

社とも、増産に真剣にとり組んでいます。わが社でもテープ事業部、ピクチャーマグネテープ機などのテープ事業グループが一丸とな

したが、VHSテープ原反生産本格化を機に、いっそうの飛躍をめざしています。

同社では磁気テープおよび周辺技術の研究開発に力をそそぎ、将来に備えるため、年内着工の予定ですでに技術開発棟の建設を決定したほか、新工場の開設も計画中——と前向きな姿勢をうかがい、おり、こんごビデオ普及率一〇割時代での活躍が期待されます。

タイトル

「VHSテープ増産へ、Vマグネ（水戸工場隣接）で原反生産も」

記事内容

「拡大するVHS市場に対応し、VHSテープ大増産体制（来春初め8割増）」

ビクター時報-19

発行月日：1981年
S56.9.16

発行NO.：297

面（頁）：5

新しい年、新しいAVライフの創造をめざして。

わたくしたちは、“これからのテレビ”ネットワークシリーズを、
さらに大ヒット商品に育成しようと努力しています。 テレビ事業部

これはテレビ事業部が2～3月実施するキャンペーンのシンボルマークです。営業第一線の方々をはじめ、全ビクターの力を結集してネットワークシリーズを大ヒット商品に育成したいという願いをこめて作ったマークです。



あけましておめでとうございます。

昨年はカラーテレビをはじめ、コンパクトカラー、ビデオカメラなど、テレビ事業部のお届けする商品にご支援をいただき、誠にありがとうございました。とくにこの中でも、映像新時代を先取りする“これからのテレビ”「ネットワークシリーズ」は各方面から大好評をいただくことができました。

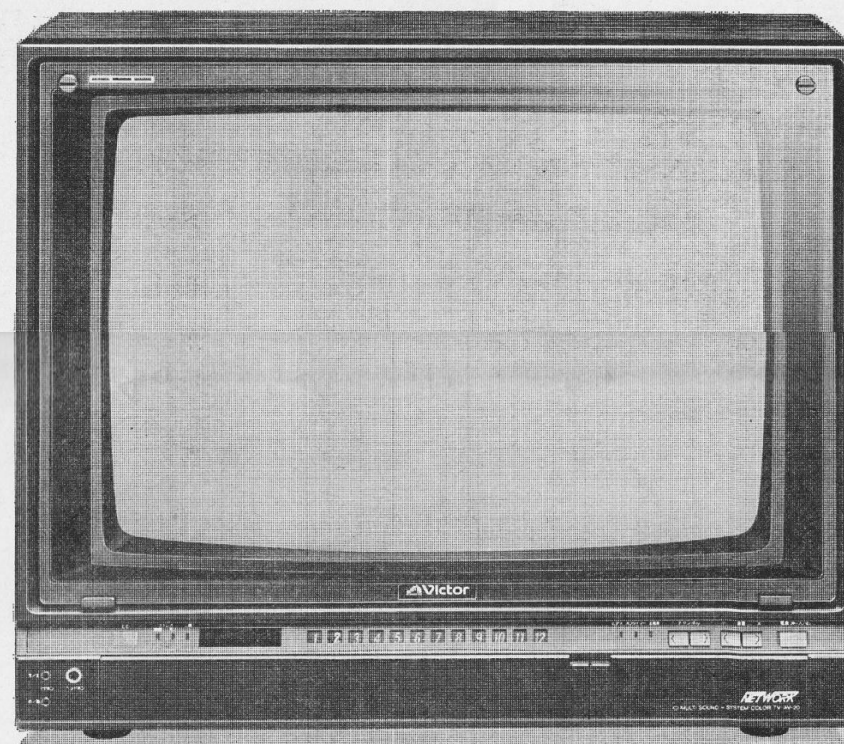
VHDビデオディスクも登場する本年こそ、いっそう「ネットワークシリーズ」が真価を発揮するものと考えております。わたくしたちは、この「ネットワークシリーズ」を、さらに大ヒット商品に育成することを通して新しいAVライフの創造に向い努力してまいります。本年もテレビ事業部をよろしく願いいたします。

2～3月ネットワーク10,000作戦を全社で展開します。

「ネットワークシリーズ」を対象として、この2～3月、“DO! NETWORK”を合言葉とするキャンペーンを実施いたします。これは、市販独社、特機営業所の方はもちろん、本社、ビクターローン、ビクターサービス、そして関連会社の皆さまも含め、文字通りオールビクターの力をお借りして「ネットワークシリーズ」を大ヒット商品に育成することを目的としております。

キャンペーンの詳細は部門ごとにご案内してまいります。我々ビクターマンの力を結集して、「ネットワークシリーズ」で新しいAV市場を創造しようではありませんか。

「あなた——ネットワークしますか?」



AV-20は、そのデザインと性能・操作性の優秀性を認められ、通産省グッドデザイン商品に選定されました。

未来を考えるとテレビはこうなる。ネットワーク。

ネットワーク20型 AV-20・・・¥210,000

※「ネットワークシリーズ」には、このほか26型 AV-26 (¥290,000)、20型モニターカラー AV-20 M (¥155,000)があります。

※価格にはリモコン送信機を含みます。(AV-20Mを除く)また AV-20Mはモニターですから、このままではテレビ放送番組を見ることはできません。

ネットワークは、こんなカラーテレビです。

良くご存知のVHSビデオや期待のVHDビデオディスク。さらに近い将来実用化される文字多重放送やキャプテンシステム、そしてホームコンピューター……いまブラウン管を通じて楽しんだり利用できる“映像ソース”がどんどん増えてきました。つまりテレビは、いままでのように放送番組を見るだけでなく、気分や必要に応じて、いろいろなソースを再生するためのものになりつつあります。こんな時代の変化を先取りして、

- ①これ一台で放送番組を受信できること(もちろん音声多重も内蔵)。
- ②ビデオやビデオディスクなど3種類の映像機器が接続できること。
- ③ソースの画質の良さを充分に楽しめる高性能であること。

を追求した新しいテレビがネットワークです。

ネットワークは、ここがセールスポイントです。

- 音声多重内蔵テレビ チューナーもスピーカーも内蔵していますから、これ一台ですぐに音声多重放送が楽しめます。
- 幅広いシステム化対応 将来テレビに接続するソースの増加を考えてぜひたくにシステム化対応をしています。
- 3系統入力端子 (放送とは別に、3つの映像機器を同時に接続できます)
- テレビ出力端子 (ポータブルビデオのテレビチューナーに使えます)
- オーディオ出力端子 (手持ちのステレオと接続し、より良い音で番組を楽しめます)
- 鮮明なクッキリ画像 プロ用機器なみのく形フィルター採用で、解像度350本を実現。しかも色の滲み(クロスカラー)は殆んど生じません。

市場導入で大反響

優れた品質と供給体制で応える

最近、いろいろな専門誌にビデオ評論家によりG-R-C7がくわしく紹介され、これからビデオムービーを賣おう

「撮影した画質は彩度（色の濃さ）の高いCCD独特のスカッとした鮮明なクレーターの豊富なカラー画像で

す(標準モード)。■中略■
注目のLPモードの画像は、大変画質が向上しており、長時間録画に安心して使用できます。(原正和氏、「テレビ技術」三月号)

「コントラストがかなり強く彩度も高い。まさにたっぷり」という感じで色がのる。メリハリのある画像」(河村正行氏)「発表会とその後の取

小型輕量、高面質

大型店さまの
期待ふくらむ

GR-C7を前に語る上野事業部長

最大の要因——とみられています。

（第四営業所長談）

ミノルタ //

そこで全国の大型電器店さ
ま、有力カメラ店さまでは、
再来とカメ

カメラ店営業
C7の新商品発表

（東京・新宿）を
才事業部の協力を
バックオーダーが独社、事業
ンペーン広告いらい数千台の
C7の発売一週層前の大キヤ

部に寄せられて、わが社空前の
人気商品になりました。

百貨店筋もGR-C7の爆
発的な人気には目をみはり、
一流の会場で、

自社の販売活性化の目玉として大々的に扱う方針が打ち出されています。

「大手デパートさまが、今までにない力の入れ方で、全

店セール商品にとり上げられていきます。これは、ヒット

商品、話題商品、おすすめ商品という条件をすべて満たす

VHS

アイテムの中から首脳部がとくに選定するもので、全店あがての主力商品に決まったわ

JVCカンパニ

たことはたいへんな名譽で、
ぜひご期待に応えるように努
アメリカ(JCA
八日、ニューヨ

力していきたいと思っています」
（東京東ピクター・大森中央
で新型VHSビデオ）

界のヒトになったミノル
フの「ダブル・ユー」一服レ
タ」と同様、これも欲しい
に売れる」といううれし
い声も、各会場で数多く聞かれ
ました。

カメラニアには、毎週に敏
感な方が多く、俳優・藤山寛
美さんもG・R・Cが発表さ
れてすぐ大阪のドット・カメ
ラ・スタジオを通じて「一台手約
3万円、1台2万円」の事務所で更
なり、また「1台1万円」で更

グがアツという店になく
なる
た、カメラ店営業部では補
充におおわらねえ

各地のカメラ店店頭にはわが
社の手約ボスターやノボリが
掲げられる。今回が初めて
で、高まるお店の期待が感じ
られます。

ヨコヨコで
生産に全力

持株会だより	
2 月 度	
加入者数	2,319人
加入口数	23,470口
買付価格	2,220円
一口当たり	
買付株数	0.50

われていへん満足されています。

二年まえにGR-C1を発売した当座はいろいろ苦労しましたが、あのときの半期分の台数をこんなにはか月に売って、まだ足りないとお店からクッパをかけるれるあとがさます。やはりカヌー店関係は、 π で商いのビジネスがひろがっていたわけで、われわれに比べて、 8π ささます。

大型店でも最近では常販売

このように上昇気流にのってではなくGR-C1については、事業部の取り組み姿勢を宇野ビデオ事業部長に聞いてみました。

「おかげさまでGR-C1は営業本部、各社社、広報室などの協力で、市場からおおきな反響が得られました。ただ、評判がよいときこそ事業部は供給におおきな責任を負うような事態です。二年まえのことな事を起こし、このよう、党组の理解と他事

品であることがよく理解いた
けられたからです」

また(比企恵)の資力部長は
はう話しています。

「いま国内市場でビデオテ
ッパは約四〇％の普及率で安
定成長期ですが、ビデオムー
ビーはまだ二割ぐらいに過ぎ
ず開拓期なので、これから売
り方が進みます。

大事なことは、ビデオムー
ビーという商品の用価価値を
正しく消費者にお伝えするこ
とです。その意味で、ポニーヤ

が大切なことをよく認識されているので、たいへん心強く思えます。こんなカメラ店ささいならではのんびり細かいノウハウを生かして販促を展開して、いっそう日H Sムービーをうけとります」（カ店営・加藤部長）

二月末から三月にかけて東京の丸の宮公園に「技術ショー」で、恒例のカメ用品のデモンストラцияが開かれました。会場では業界流通の大手・浅野商会さま

業部、V S Eは各部門の応援もいただいで、生産は日またに上がってきまして、生産ラインも着々ふしつあつた。当事業部としてはかつてない体制と組織うち第一の、必ずや近いうちに第一期のご要望と通りの量が供給できると思います。

今回、なによりもうれしかったのは「ヒューマン」に執念をもつてゐる」ことをマスキ、お店、そしてナビ

ハント」のCMは的を射た内容であり、お店側も非常にいい需要喚起剤としてビクターの姿勢を評価されています。事業部から第一線に、約八十人の「マーケットアタック隊」が出向いてGR—Cの販促にとり組んでいますが、その隊員自身が「C」を買い取れるのですから、これの商品力には自信をもっておすすめできるし、この消化も

VHSビデオムービー
アメリカでも発表

JCA、ゼニスが同時に

（GR-C7の北米バージョン）を一般公開、マジシャンを登場させた楽しいデモをくりひらげました。JICAでは同機をこしの五月に市場導

トリビュタ・ミーティングの席上、このVHSムービーを五月に発売するむねを明らかにしました。

ゼニス販売会社のマッカーシ社長は、多くの検査を重

明しています。

こんご両社のVHSムービーが全米に浸透したとき、ハイテク好きのアメリカのお客さまがどのように評価されるかが楽しみです。



高画質ビデオS-VHS発売へ

「三月八日にわが社が開発を発表していた、世界的に話題をまいてきた高画質ビデオ「S-VHS」の商品化第一弾としてHR-S7000が四月十四日、東京丸の内東京会館で発表され、四月十一日から発売されることになりました。特選の「ビデオ高画質時代の幕開けです。これによりAVを楽しむための画像情報量は飛躍的に高まり、ホームビデオの世界はこれまでよりひとまわりもふたまわりもひろがるのが予想されます。」

近未来の映像文化 構築に大きく貢献

VHSを主とするホームビデオの普及率はいまや五〇％を超え、その使われ方も多様化しています。

とくに最近、従来の20型程度だったテレビ画面をより大きな25型、29型、さらには37型といったビッグサイズで、追真的に楽しもうとする傾向が高まっています。大型でも密で広々ある画像を得るため、くし形フィルタや高性能ブラウン管採用が高級テレビでは常識になりまし

た。

こうした高画質テレビでビデオ録画された画像を再生すると、小型テレビではあまり問題にならなかった画質が、気になります。そこで画質低下を補正するため、HQ方式ビデオやエプソンが開発されてきました。

S-VHSはビデオ録画の際のFM輝度信号を広帯域化することで、映像の情報をフルに記録できるようにしたもので、その背景としては、

VHS開発から十年にわたってつみ重ねてきた技術ノウハウ、そしてビデオテープのたのまぬ性能向上がありま

たらず、夢のビデオなのです。

HR-S7000の特長のかずかず

【高画質の基本設計】
①輝度信号の高域化、広帯域化による高解像度の実現。
②輝度信号のFM周波数偏移動大、非線形サブエンファシス等でS/Nを大幅向上。
③クロスカラーなど、輝度信号と色信号の干渉を低減。

【S端子で発展に対応】
輝度信号、色信号を別々に出力するS端子を装備しカラー画像を向上。こんこのS端子つぎ関連機器との組み合わせが可能です。

【HQ技術なども搭載】
標準VHSモードで記録・再生する時も画質を最高に引き出すHQ技術と輝度信号くし形フィルタを採用。
【ニューエクストラ4ヘッド】
エクストラ4ヘッドを開発させた新型ヘッドで標準、三倍の画モードとも鮮明画像、ノイズのないスロー、ステルやシャトルサーチが可能。

【広帯域受信回路採用】
業界初の広帯域デジタル選局チューナを採用。ニューインターキヤリア方式による音声を重チューナですから鮮明で音もよく録画ができる。
【画質に对应した高品質】
なおこれらは標準VHSで使っても品位の高い録画ができます。

【高品質を両立】
②スイッチングノイズがほとんどないニュータンジェント方式でクリアなステレオハイファイ音。

【高速デジタルサーチ】
①任意の位置に打込んだ信号をもとに高速で頭出しするVHS搭載。

②4ケタまでの数字を打込んで高速で呼び出せるVASS搭載。

【価格】
二十万円(4/21発売)
S-VHS用テープも発売

プログレードの酸化鉄系磁体により、S-VHSにふさわしい高画質が得られるテープも、4/21から発売されます。(S-T130は近日発売)

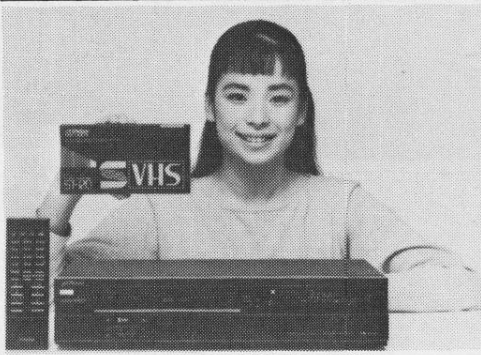
【価格】
二千三百円(120分用)
ST-120(120分用) 三千円
ST-130(90分用) 千九百円

【価格】
二千三百円(120分用)
ST-120(120分用) 三千円
ST-130(90分用) 千九百円

【価格】
二千三百円(120分用)
ST-120(120分用) 三千円
ST-130(90分用) 千九百円

【価格】
二千三百円(120分用)
ST-120(120分用) 三千円
ST-130(90分用) 千九百円

【価格】
二千三百円(120分用)
ST-120(120分用) 三千円
ST-130(90分用) 千九百円



S-VHS第1弾のHR-S7000

は従来の標準VHSで録画されたテープの再生も美しく行えるHQ回路を搭載しておりVHS方式としての連続性を確保していますから、すでにお手持ちのビデオライブラリーはそっくり生かしていらんになります。

S-VHSは、これまでVHSがひらいてきた映像文化をさらに力強く発展させるとともに、新しい需要を創造しハード、ソフトの多彩なビジネスチャンスを世の中にも

ビクター時報-26

発行月日
: 1987年 S62.4.16

発行NO.: 410

面(頁): 1

タイトル

「高画質ビデオS-VHS発売、近未来の映像文化構築に大きく貢献」

記事内容

「1/8 開発発表したS-VHSビデオ第1弾HR-S7000、4月発売(テープも)」

デジタルオーディオテープ



したオーディオ界にとっては
能になりました

やや質難な存在で、広く普及するに足りませんでは、というふうな業界各社では、二、三にマツチするD.A.T.の方向を多年にたり探ってきまわった。わが社五十六年、世界ににさがけてPCMカセトデッキを開発したのも、そのうした努力のあらわれです。五十八年から国内外の六十八社がD.C.懇談会を構成して、真摯な意見を重んじて、

④高価したサブコード・システムにより高速サーチ、ランダム選曲、イントロスキッピング、リビートなど、テープ再生の自在

サリシ・リンク周波数、再生用は
(L)：1.3k Hz、再生用は：
四四・1k Hz、量子化：一六
ビットリニア (L)：二・ニ
ビットリニア、周波数特性
性五・三、〇〇〇Hz (L)：
五・四、五〇〇Hz、電源
100V $\pm$ 3%W 高次一・
二 $\times$ 幅四三・五 $\times$ 奥行三三 $\times$
八・五 $\times$ リモコン付属

テープも同時発表

D40用カセットテープは
わが社独自のメタル粒子体技
術を率先に前進させ、コンシ
ールド・フライン・メタルボ
ウターなど、五つの新技術を
加えた、高性能の五品種で
す。(各、3/23発売)

デジタル再生したデータを書き直してデジタルで録音し、それを再びデジタルコピーは、音質が元々わからないため、ソフトの著作権侵害を疑われる恐れが多分にあります。

そのため、DAAでは録音再生モードでは、CDなどのデジタルソフトとはサンプリング周波数も違っており、またソースにコピー禁止データが含まれている場合は、当然です。直接デジタル録音できないようにつくられています。

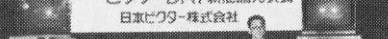
アナログ書法からのデジタル録音は、著作権法の規定に反しない限り、従来のカセットデッキと同様に行えます。

生専用(一・二・三・五・七)	【価格】十九万八千円(税別)
／23分装	【規格】(Lは長時間モード)
録再時間二二〇分(L・二四〇分 いずれもR160テープ)、テープ速度毎秒八・二五(L・四・〇七五、五・二五)	R1120BK 二千円 R120BK 二千円 R160BK 千七百円 R180BK 千四百円 R146BK 千二百円 R146GY //
	ソフト著作 権へも配慮

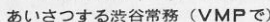
へも配慮

音、デジタル、メタル
テープの技術を総合

後のハイファイビデオの発展に押されたこともあり、またコンパクトなカセットが定着



VICTOR MUSIC PLAZA
ビクター-DAT新商品発表会
 日本ビクター株式会社



「合理化の歴史史」は経営の合意化の歴史史のものですが、と話を切り出るのは光崎事務部長です。

昭和四十五年の不買運動、ドルシヤック、オイルシヤックなどの荒波がやって来き残って来た知見は経営の合理化外にはなかったのです。その貴重な体験が、現在推進中の岩井半信経営体質改善運動の「T・V・E-50」にそのまま生かされています。

この合理化の歴史史の中心になつてきたのがシャシーの開発でVシャシーがベータになったV計画として「V計画」「U計画」「R X計画」と三年ごとに視直しがなされ、大幅な改善を実施してました。

そ狙いは限界利益の向上に目標をおいたものです。例えば、基本シャシーの開発は面積をいかに縮小するかにポイントがおかれておりま

「改め」と「守り」の「二V-150計画」を強力推進
昭和六十一年度の重点推進事項は、「改め」と「守り」による経営改革です。

「改め」としては、一、国内CIVの「倍販計画」をさらに前進させること。二、ディズレーリ事業の「拡大挑戦」をやることです。

「守り」としては、一、輸

面の小箱は、部品点数の削減につながり、材料費の引き下げや作業工程の削減によって不良率の減少、在庫の激減という大きな効果を生み出します。

さらには世界共通ジョーシ一使用への標準化によってコストダウン効果が倍加されることになるわけです。

V150 全員

出CTVの『現地生産体制』を確立すること、そして「TV-50」をやりぬくことの四項目です。

国内CTV倍販計画は昭和六線年上期からスタートし第一線販売店の皆ささんの絶大な関口拡大と占有アップが着実に進められ、特に大型CTV分野に於いては大幅な占有率の拡大を実現しております。

この流れの勢いをさらに強めて行くよう、来期も売れ筋の備け帯に品揃えを網羅、さらにハイテクA、音多付きライトA、V端子付きベリースーツ商品の各カテゴリーにエス商品を揃えタイミンクよく発売できるように準備が

進められています。
高品質、高価格を要求されるディスプレイ事業の拡大挑戦は近い将来、必ず家庭用CTVにもスライドされる重要な技術内容を持つことから積極的な技術開発と市場開発に取組むよう、事業部長の機がなでんでいます。
輸出CTVの現地生産体制の確立では米国で5年前にスタートをしたJTCによる現地生産に続き、ヨーロッパに本年二月半ばから生産も順調に立ち上りました。
「TV-150計画」については、今日のTV-150の挑戦テーマとしてE材料に海外部品調達を含めた材料費の大幅コストダウン運動と

設計からはじまりの品、作業員にいたる一貫した高質向上運動をベースとした、業界第一位の品質レベルの確保、さらには効率五割アップを目指す生産性向上運動。そしてロス削減運動を推進しております。

明日のTV-150では伝統的な経営合理化の柱である

改善

テ 事

基本シャーシー開発計画を推進しており将来を見通しての基本シャーシーづくりがすすめられております。

●L作戦で見る運動

岩井工場は「基本工場稼働二十周年（昭和六十一年）」と今年の「ビクター創業六十年」を念頭において昭和五十一年から全員参加の見直し運動を推進してきました。

名付けて「L作戦」。この作戦実行による成果で会社にもみなぎる意味を運ばたらしうという意図を込められた。キ&ラッキの頭文字で別名、宝探し作戦とも言います。発足当初は、五十四グループでしたが、いまでは一七〇以上になり改善活動を展開。その成果として昨期ごとに行なわれるボーイ・ラン賞の上位入賞者に皆昇格の場の人たちの名前が多くとれます。また、昨年は昇昇工場稼働二十周年記念行事としてL作戦、国際QC展大会が開かれJMCや台湾、大内の協力工場のみならず、それぞれの国の言葉で発表を行い大きな反響を呼びました。

このL作戦の活動の推進には、L実行作戦室があたり、「Lニュース」の発行、大型ポスターによる呼び掛け、五段階に分けた表彰など積極的な動きを行います。

V150 全員で岩井^{工場}の体質改善
—TV—150をやりぬく—

テ 事

ビクター時報-27
発行月日：1987年 S62.3.1
発行NO.：407 面（頁）：1

記事内容 「3/23、DATデッキとDATテープ発売、他社も発売(松下、ソニー、シャープ)」

わが社のビデオ生産 3000万台を達成

社長、副社長も出席して

喜びのセレモニー

平成元年の経営懇談会が開かれた一月十二日の午後、わが社のビデオ生産が記念すべき三千万台の大きな節目を迎えました。

00で、当日午後四時に横浜第一工場19ラインで誕生しました。

これを祝って垣木社長、高野副社長、上野常務(ピ事)長、大曾根(ピ二事)長をはじめ第一・第二事業部役職、従業員のみなさんが集まり、達成記念のセレモニーが行われました。

千月号機が無事完成するとふたつのクス玉が割られて、全員の大きな拍手、紙吹雪と共に達成記念の垂れ幕が下がり喜びにいろいろりを添えましました。

昭和五十一年九月にVHSの生産を開始して以来の横浜・横須賀・伊勢崎工場のデッキ、ムービー、キットを合わせて、十二年四か月でこの偉業を達成したことになります。

三千万台目となったのはS-VHSデッキHR-S77

ラインでの最終工程として社長、副社長、上野常務、大曾根事業部長が一本ずつ最後のピス止め作業を行って、三

垣木社長は「ビデオでこれだけの生産を達成したのはソフトにはありますが機械では初めてで大変な数字です。開発、製造、販売に努力を重ねてこられた皆さんに感謝します。次の四千万台、五千万台に向かって今後がんばってください」



㊤垣木社長の挨拶 ㊦ピス止めする高野副社長

また、高野副社長は「三千万台おめでとうございます。これだけ作らせていただいたのは、ビクターの商品をかわいがって下さるお客さまとお店あったればこそです。これからも品質の良いビデオを作っていくって欲しい」と、それぞれあいさつしました。

上野常務も、お客さま、お店、国内外の営業部門のご支援に感謝、これを通過点としてますます事業を大きくしていきたいと話していました。

ビクター時報-29

発行月日
: 1989年
H1.1.25

発行NO.: 446

面(頁): 7

タイトル
「ビデオ生産3000万台達成、社長、副社長も出席して喜びのセレモニー」

記事内容
「1/12、横浜1工でS51.9月生産開始以来3000万台、関係者一同で祝う」

キーパーツを商品力の決め手に

部品事業の新展開

十月一日付で「部品事業推進室(室長＝飯島取締役兼務)」が新設され、全社経営戦略の一環として部品事業を本格的に見直し、中長期に向けて強力に推進することになりました。

近年のAV市場にあつては、どのメーカーでも容易に調達できる普通の部品を、使つて回路技術の力だけで占めた商品が、他社が追いついて対抗商品を出すため商品の優位性が短期間で失われ、企業収益に十分寄与できないままに商品寿命を終える結果となりがちです。

メダル商品の名にふさわしい市場で上位にランクされ、一定期間その地位を安泰に保つには、他社がすぐには追いつけない一歩先鋒に、キーパーツが必要なのです。

しかも、そうしたメダル商品の核になる「切り札」を業界に先がけて早期に開発する全社の各部門による組織的な連携のもとに、総合力でキーパーツ、キーデバイスを開発・生産を進めることが望まれます。

わが社の部品事業の現状

それは、現在全社でどの部門においても、部販売されて、部品事業の体質向上が図られていきま

この中には、小山電子のように高純度偏光ヨークで、すでに業界世界占有率五〇％という例もあり、それらの部門の努力で、光り物が育つていきま

経営面から見ると、全体としてはまだ利益が出る段階には至りませんが、坊上社長の「二年で会社を変えろ」方針に沿つて多角的な改善の手が打たれ、収益性は昨年度に比べ大幅な回復を見せています。

戦略的な連携で部品事業再構築

このほど横浜第四工場内、特定の商品事業部の需要を満たすため、いわば縦の関係の中で育ってきた部門から、個々の部品事業部はあまり交流がありませんでした。

これからは、部品事業推進室が統括する分野別フリーキンググループをコアとして、部品事業部門と完成品事業部門、部品事業部と研究開発部門や生産技術セ

中長期に向けて経営戦略、基礎技術、生産技術など部品共通の課題に対応できる体制も、徐々に整ってきました。

これからは部品事業に携わる人たちの持つ力がフルに発揮できるように、組織的な連携を密に共に進めたいと考えています。

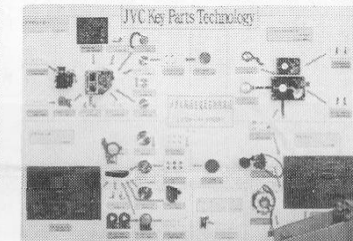
早く出ていたら状況は一変していただと思われま

その下、V90の「と」

と取り組みま

ビクターグループの主な部品事業

部門	担当の品目	社内用	外販
モーター事業部	ビデオ、オーディオ、情報機器向けの各種モーター	○	○
精密部品事業部	プリント回路基板、ホール素子、超小型水晶発振器等	○	○
テレビ部品事業部	テレビ用偏光ヨーク、フライバックトランス、HDDヘッド等	○	○
(ビ事)ヘッド部	ビデオ用ヘッド、フェライト単結晶等	○	○
精機事業部	ビデオ用ドラム、ガイドローラ等	○	○
オーディオ事業部	CDプレーヤー用光ピックアップ	○	—
小山電子	CRTディスプレイ用精密偏光ヨーク、高圧モジュール等	○	—
カナリヤ電	フェライト単結晶等	○	—



メダル商品を支える社内部品



飯島取締役兼務の部品事業のお話

九月のビクター時報で部品の輸出は、前年比二一・八

ソフトはサザン、B・B・クインズのCDが百二十万枚を突破VCTもパ

「部品の輸出は、前年比二一・八

好調の輸出が支える2上中間決算を発表

平成二年上半期の間中決算が十月二十六日に発表さ

この実績は、上半期売上では五年ぶりの記録更新で

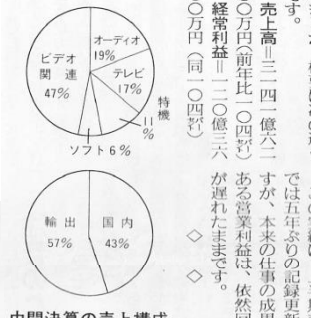
したが、本来の仕事の成果である営業利益は、依然回復が

この実績は、上半期売上では五年ぶりの記録更新で

したが、本来の仕事の成果である営業利益は、依然回復が

この実績は、上半期売上では五年ぶりの記録更新で

したが、本来の仕事の成果である営業利益は、依然回復が



中間決算の売上構成

主なニュース

- 2面 ケルソンのフォトキナに出席
 - 3面 「正念場を迎えた品質向上」
 - 4面 全日本オーディオ・フェア
 - 5面 ラル・映画の製作進む
 - 6面 森進さん25周年リサイタル
 - 7面 「CGマーケティング」に五商品が選定
- 特本・情報機の納入事例に評価

ビクター時報-30
発行月日
: 1990年 H2.11.1
発行NO. : 483
面 (頁) : 1

タイトル
「部品事業の新展開、キーパーツを商品力の決め手に」
記事内容
「部品事業の現状と戦略的な連携で再構築、飯島取締役のお話」

ることにつながり、部品事業が民生商品、プロ商品、ソフトの各事業と同等の立場で全社の業績向上に貢献するのを可能にします。グループの部品事業は現在のところ、年間四百億円強の売上規模(全社売上の約六分に相当)ですが、全社経営戦略に基づく部品経営戦略・ビジョンを確立して構造改革と体質強化を図り、今後中期的には年間一千億円をめざします。二十一世紀のビクターを支える部品事業の構築は今、力強くその第一歩を歩み出したのです。

ビクターニュース編

(平成3年～平成14年)

NO.	西暦	年 月 日	タイトル
1	1991	H 3. 7. 1	テレビ横型革命はじまる、21世紀に向け16:9の文化を推進
2	1992	H4.10. 1	DVカラオケが大きな反響呼ぶ、ハード、ソフト一丸で10/1から発売
3	1993	H 5. 1.22	映像新時代へ、次世代ホームビデオW-VHS、ハイビジョンテレビ発表
4	1993	H 5. 2.10	新生ビクターの創造に向けてテクノフェアが開花
5	1993	H 5. 2.10	最新の開発技術を一堂に「テクノフェア」
6	1995	H 7. 4.15	D-VHSフォーマットを開発規格化、デジタル放送をそのまま記録
7	1995	H 7.10.15	この秋、ビクターは元気がいいぞ、注目の新製品が続々登場
8	1995	H 7.12.15	GR-DV1いよいよデビュー12/9発売、ムービーの流れを変えるぞ！
9	1996	H 8. 5.15	デジタル化MM時代をリードする新技術、D-VHSなど相次ぐ技術発表
10	1996	H 8.11.15	〈特集VHS20周年の集い〉その知恵と想像を未来へ継承、発展
11	1997	H 9. 5.15	DVDハードソフト同時発売、ビクターらしい商品と市場で高い評価
12	1997	H 9. 6. 1	さらに小さく軽く、世界最小最軽量フラッシュボケットムービーDVX新登場
13	1997	H 9.10.15	〈特集C&D事業グループ〉これがビクターの部品事業・7つの驚き！
14	1997	H 9.11.15	明るく美しい大画面！2つの自信作、新D-ILAスーパープロジェクター
15	1998	H10. 4. 1	V70記念事業CD-ROM社史、70年のあゆみを映像と音と文字で
16	1998	H10. 5.15	S-VHS ETを開発、VHSテープで解像度400本以上の高画質記録
17	1998	H10. 8. 5	MDプレーヤー他強力MD4機種、再生専用ポータブルMD市場に参入
18	1998	H10.10. 1	放送業務用デジタルS発売、市場動向踏まえた高画質化
19	1999	H11. 4.15	D-VHSでソニーと提携・共同開発、互いに強みを生かした新コラボ
20	1999	H11.11.15	〈特集ビクターらしさの復活〉JD-99ここがポイント！ビクターの強み
21	2000	H12. 8.15	MDの長時間対応モデル発売、業界に先駆け7月にフルラインナップ投入
22	2001	H13. 3.15	小型化はビクター！ポケットeムービー誕生、遂にやった！世界最小最軽量
23	2001	H13. 8.15	オーディオ技術を映像技術に応用、DVD-K2新技術を開発
24	2001	H13. 9.20	新世代高画質テレビ技術「DET」を開発！
25	2002	H14. 8.15	V75商品で下期への流れを作ろう！大画面プラスマとシアターシステム

注目をあびるDVカラオケ

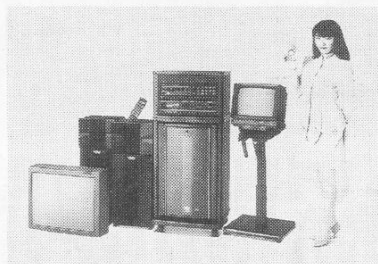


わが社とビクター・音楽産業は九月十七日、東京・箱崎のロイヤルパークホテルで、六月にCD動画カラオケとして発表した技術を生かし、商品化が待たれていた12枚CDに最大七十四分のデジタル動画とデジタル音声を取録可能にした従来のビデオディスクカラオケにかわる新時代のカラオケ・DV（デジタルビデオ）カラオケシステムのハードとソフト、モニターテレビなどの関連商品を十月一日から発売することを発表、マスコミ各社をはじめとして、各方面から注目を集めています。

また、特約店様に対する発表会でも予想以上の大反響に関係者は確かな手応えを感じています。

DVカラオケが 大きな反響呼ぶ

ハード、ソフト一丸で 予定を10/1から発売 繰り上げ



DVカラオケ

内覧会が大盛況

マスコミ発表翌日の十八日、前日と同じロイヤルパークホテルを会場に、DVカラオケシステム内覧会が、会場ではビクターカラオケ・イメージ・ショール、テレビ・特機営業本部とビクター音ビ番組・平成教育委員会・音楽産業の主催で行われ、予定の約3倍・一八〇〇人の

お各様が来場され期待の高さを示しました。会場ではビクターカラオケ・イメージ・ショール、テレビ・特機営業本部とビクター音ビ番組・平成教育委員会・音楽産業の主催で行われ、予定の約3倍・一八〇〇人の



超満員の会場で説明する高田万由子さん

わずか12枚のCDと同サイズのディスクで七十四分のデジタル動画とデジタル音声の再生を可能にしたのは、高能率符号化（圧縮・伸長）技術を活用しているためで、デジタルビデオ（DV）の画面がユーザーニーズに合わせ、デジタル映像で四十秒間しか記録・再生できず、高能率符号化技術（MPEG）を

世界初の実用化に成功した。会場では、特機営業部長は、米国・CUB社と共同開発した大規模LSIをはじめとする諸々の開発技術をお見せしました。

また、CD12枚のCDサイズに15から18曲の動画カラオケソフトを取録。③十月一日発売第一弾は200タイトル・3400曲、以降月2タイトル（30から34曲）。

④価格はハード・ソフトともCDGと従来の動画カラオケとのほぼ中間（上坊上社長と音産・金定取締役）。

一つの文化として世界中に広がっています。今回のDVカラオケはマルチメディア時代の一つの核となる技術・MPEGを世界で初めて実用化し、市場のニーズである動画面志向、小型化、多曲化、省電力化、低コスト化に対応しただけでなく、デジタル記録のメモリーを生かし、世界の放送方式に対応しています。

今年に入って低迷気味のカラオケ業界に、わが社のハード、ソフトが一体となって取組み、年末に向け、業界再活性化の一翼を担いたいと考えております」と話しました。

また、音取録・ソフト事業本部長は「マルチメディアの一つのカテゴリとしてまずカラオケビジネスに特化して商品化したのが今回のDVカラオケシステムです。」

また、②12枚のCDサイズに15から18曲の動画カラオケソフトを取録。③十月一日発売第一弾は200タイトル・3400曲、以降月2タイトル（30から34曲）。

④価格はハード・ソフトともCDGと従来の動画カラオケとのほぼ中間（上坊上社長と音産・金定取締役）。

DVカラオケ システムの主な特徴

①多曲化時代に小さく対応できる業界最多360枚のコンパクトなオートチェンジャー

ビクターニュース-2

タイトル

「DVカラオケが大きな反響呼ぶ、ハード、ソフト一丸で10/1から発売」

発行月日

: 1992年

H4.10.1

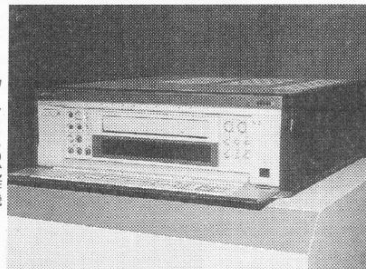
記事内容

「音産と連携しDVカラオケシステム発売、9/18にはDVカラオケ内覧会」

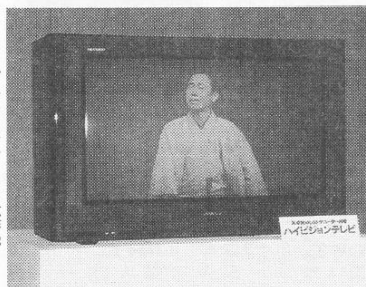
発行NO.: 520

面(頁): 1

W-VHSの試作機



ハイビジョンテレビの試作機



ハイビジョン時代の家庭用映像システム 次世代ホームビデオW-VHS/ハイビジョンテレビ

日本ビクター株式会社



わが社は一月八日、横浜・高精細を特徴とし、世界各国が実用化に向けて取り組んでいる次世代放送に対応した家庭用VTRとしてVHSが更に進化・発展した新技術「W-VHS」及び、日本における次世代放送・ハイビジョンテレビのキーテクノロジー「MUSEデコーダー用新LSI」の開発と、このLSIを使ったMUSEデコーダーを内蔵した三六〇のハイビジョンテレビの試作機を発表しました。（開発を発表する坊上社長）

映像新時代へ 次世代ホームビデオ、ハイビジョンテレビ



大森（三研）長
わが社は昨年のハイビジョン試験放送開始以来、第一世代のハイビジョン機と、一連のワイドビジョン



横山（三研）長
従来の映像資産にも次世代放送にも対応

今回の発表は二つの新技術、いずれもわが社の技術開発の基本思想である家庭用映像システムとしてあるべきことを追求し、消費者ニーズはもとより将来のメ

ディアの進展をも視野に入れた、長期的観点から開発されました。

W-VHSは家庭用ビデオとしてすでに全世界に広く普及しているVHS、S-VHS方式と連続性のあるシステムで、両方式の録画済みソフトが再生できる

ほかに、生産面からも現行VHSの技術や生産基盤がそのまま活かせるため、普及価格にも商品化が可能で

また、ハイビジョンテレビについては家庭用の三六〇のハイビジョンテレビ

AV市場の低迷を打破する活力に

超満員の発表会場で、坊上社長は今回の発表の趣旨

上社長の今回の発表の趣旨

独自の発想で普及性の高いハイビジョン

今回新しく独自の発想に

受像機を発売してきまし

が〇〇メガピクセルの大画面

を前提に二〇〇メガピクセル

域で設計されたものを

MUSEの基本機能は損な

うことなく家庭用の三六〇

程度に画面に最もふさわし

い性能とコストを目標に検

討した結果一六〇メガという

第一世代のハイビジョン機と、一連のワイドビジョン

新開発のMUSEデコーダーは第一世代のものとは

べてLSI数で1/10、実

装面積で1/4にできま

す。これは従来のデコーダー

様々な新開発技術により同

からNTSC方式の2番

組同時記録・再生、2カメ

ラ同時入力による立体ビデ

オ、超ワイドビデオ記録な

ど新たな用途への拡大が可

能です。また、基盤となる

高画質技術を利用し、民生

世紀にも展開できる画期的

な技術といえます。

を以上性能が有り、家庭用

のフラウン管方式テレビに

は十分対応できるものと考

えます。

このハイビジョンテレビ

とW-VHSを組み合わせた

像の録画・再生が家庭で

最新の開発技術を一堂に テクノフェア

二十一世紀に向けた全社 構成されます。

また解像度を引き上げると

ともに、画像ファイルやフ

の方向性を意思表示し、お
客様にこれからのビクタ
ーの元気を一掃したいだ
き、わが社の新事業・新
風商品の新鮮な魅力を感じ
ていただくというテクノ
フェアの展示の一部を、紹
介します。

① 高能率符号化技術
一般には圧縮技術といわ
れ、記録の長時間化・高
密度化、伝送の低コスト化
と幅広い分野での活用が期
待されており、わが社はこ
の分野で世界の最先端を走
っています。

② 高密度記録技術
磁気、光の両面から①と
連動した形で開発を進め
ています。

③ 高精細イメージング・
サウンド技術
④ 高インテリジェントイ
ンターフェース技術
使い勝手を良くし、高度
な内容のものでも誰もが簡
単に使えるための技術。

⑤ ソフト制作技術
プロからアマチュアまで
それぞれの段階にふさわし
いカタチでハードと一体と
なったソフト制作環境づく
りを展開します。

高能率符号化技術



CD動画カラオケシステム



DVカラオケ



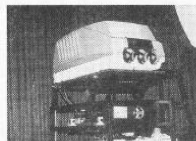
ハイビジョン圧縮

1/1500圧縮

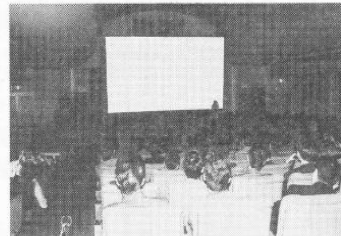
高精細イメージング/サウンド技術



プレゼンテーションルーム



ILAプロジェクター



シアター



ILAリアプロタイプ



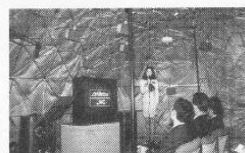
次世代プロジェクター書込技術



ハイビジョンテレビ



EDTVテレビ

ドルビーサラウンド
デジタルVTR

会場シミュレーション

高インテリジェントインターフェース技術



新F/Cコンパチビデオ



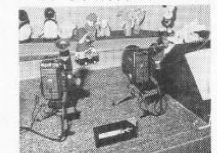
ワンダーバッド



パーソナルAVセンター



マルチメディアプレーヤー

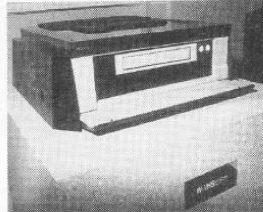


自動追尾ムービー



オーディオコーナーホームシアター

高密度記録技術



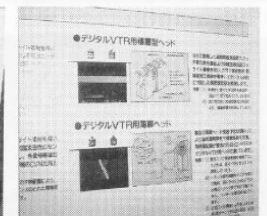
W-VHS



デジタルビデオディスク



圧縮動画ゲーム



デジタルVTR用薄膜ヘッド

ビクターニュース
-5
発行月日
: 1993年
H5.2.10
発行NO.: 528
面(頁): 2-3

タイトル
「最新の開発技術
を一堂に「テクノ
フェア」」

記事内容
「高能率符号化、高
密度記録、高精細イ
メージング・サウンド等技
術展示」

その1

続き

ソフト制作技術

テクノフェアへ
のご協力、ご支援に
感謝します



古市常務

創立65周年を契機に『もっと気持ちを、そっと技術で』をキーコンセプトに開催いたしましたテクノフェアは成功裡に終了いたしました。

2万5千人を超える多数の方々が来場され、21世紀へ向けてのわが社の基本姿勢とキーテクノロジー、そして開発技術や商品化提案の数々をご覧頂くことができました。

坊上社長の「技術に生きるビクターの再構築を」「商品で会社を変えよう」との基本方針を受けて、2年半に及ぶ準備期間中、コンセプトワーキンググループや部門実行責任者の方々を始めとして、多くの皆様の情熱に支えられ、文字どおり全社員の心を結集したテクノフェアを開催することができました。

ご来場頂いたお客様方から『ビクターの技術の底力を改めて認識した』『方向性が明快になりましたね』と高い評価を多数お寄せ頂きました。

テクノフェア推進にご協力、ご支援頂いた多くの皆さまがたに紙面をお借りして厚くお礼申し上げますと共に、ここに結集し発揮した総合力を日常の業務に活かし、一人一人が『お客様の心に感動を呼び覚ます業務』を心掛け、業績回復へ向けて日々邁進していただきたいと存じます。

ありがとうございました。

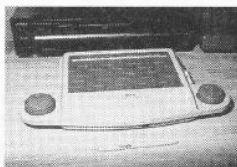
テクノフェア担当 常務取締役 古市 敏朗
テクノフェア推進委員会 委員長 松浦 仁
テクノフェア推進事務局 ー 同



リアルタイムエンコーダー



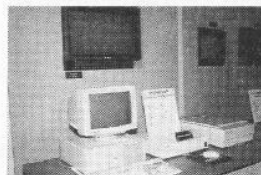
デジタルAVミキサー



ビデオエディティングコントローラー



ハイビジョン静止画作成装置



ハイビジョンデロッパー



コマ撮りS-VHS

D-VHSフォーマットを (VHS新方式) 開発、規格化



満員の記者で熱気が高まった発表会
H S技術を基礎にし、
この「D-VHS」はV
HS技術を基礎にし、
記録方式を採用
ビットストリーム
記録方式を採用
この「D-VHS」はV
HS技術を基礎にし、
記録方式を採用
ビットストリーム
記録方式を採用

4月4日、当社はデジタル信号をそのまま記録できる新VHS規格「D-VHS」を発表しました。これはマルチメディア時代対応の発展型のVHS規格で、既に松下、日立、トムソンなど電機メーカー12社やテレビメーカー6社の賛同も得ており、来年末にも商品化される予定です。

マルチメディア時代に対応、現行VHS互換
VHSレボは昭和51年の発売以来、これまでに全世界に5億台が出荷されており、今や社会や家庭にはなくてはならない存在となりました。一方、通信や情報分野でのデジタル化が急速に進展する中で、将来の放送メディアやAV機器の発展に対応できる次世代記録メディアアシスタムが求められており、今回の「D-VHS」はそれらのニーズに応えて開発したものです。

録方式の「D-VHS」は、また大音量、安価という特徴を生かし、マルチメディア時代の大量データ・ストレーミングなど多くの用途が期待できます。主な特長は、高画質デレブS VHSテープを使用し、方

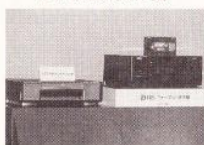
り、新たなVTRの方向性を示すと共に、社会に大きく密着できるものと期待が寄せられてきました。続いて清水本部長より商品紹介や今後の展開などが説明され、会場に集まったマスコミ関係者からは大きな関心が寄せられました。

続いて大型発表の連打
また4月6日には業務用高画質記録方式「デジタル・プロS」開発を発表。民生用と続き、プロ・ビデオ市場に向けても、新たな提案を行いました。【詳細内容は次号掲載】

デジタル放送をそのまま記録
業務用「デジタル・プロS」も開発
高画質

また、今回の発表は欧米でも行われ、4月5日には英・独発表会場と横浜を衛星中継し、約20の箇所に清水本部長が英語で対応。終了後、各会場からは「開発おめでとう」の大きな拍手が響き、JVCの姿勢イメージが十分にアピール出来、大成功でした。

D-VHS試作機



試作デモ機でD-VHSの素晴らしさをアピール

4月から新組織、新体制が動きだし、平成7年度上期スタートに当たり4月3日、4月度経営会議が開催されました。その中で社長から平成6年度黒字化見込み報告とV・V実現への3つの改革の要諦、主要部門長からは新年度方針が説明され、経営課題の共通認識と上期目標必達之意を固めが確認されました。【詳細記事2面、組織変更4〜5面、人事異動7〜8面】

新しい体制でV・V推進

変革の時代に対応

ビクター・ビジョン

4/1付役員人事の新委嘱内容



グローバル、トビを長
タルな発想で
ディーナーな
要請する守衛
要請する守衛

平成7年度はV・Vの初年度、つまりビクターの再生と復活に向けた本格的取組みがスタートする重要な年です。一方、注目の平成6年度実績は速報によれば、売上げ収益共に計画達成し、念願の黒字化が実現できる見通しです。

「変革の時代に対応した考え方と発想を持ち、世の中や業界の変化を高感度に捕らえ、ワールドワイドな視点から判断し、スピーディーな行動でビクターを変革していく」とお話されています。

代表取締役常務取締役 金子 信一 代表取締役常務取締役 佐々木弘忠 代表取締役常務取締役 藤本 正昭	管理・生産担当 技術・システム担当 総合企画・IL・A・マルチメディア・マーケティング・渉外・広報担当 システム事業本部長兼システム営業担当 知的財産担当兼VHS標準センター長兼海外部長兼ビクターテクノプレーン時代取締役社長
取締役 五味 英毅 取締役 廣田 昭	システム事業本部長兼システム営業担当 知的財産担当兼VHS標準センター長兼海外部長兼ビクターテクノプレーン時代取締役社長
取締役 岩崎 正憲 取締役 則岡 和雄 取締役 清水 宏紀	ビクターアークス株顧問 生産本部長 兼環境担当 (ビ本)長 兼(比事)長 兼(オ本)長 兼(才事)長
取締役 酒田 彰 取締役 海老 泰	(盛本)長 兼(JAI)社長 兼(ブランドメディア)事長 (営本)長 兼(営本企)長は解職

〈新入社員入社式〉

可能性に挑戦し
明確な自分を形成

4月3日、本社工場第5ビル4F会議室で平成7年度新入社員入社式が社長、経営幹部の出席のもと開催されました。今年は16名と少数でしたが、社長より「厳しい環境の中で若い人は育つもので、私も若いころの苦しかったことや辛かったことが自分の血となり肉となって自らに返ってきている。わが社のさらなる



度新入社員入社式
入すつ辞令交付される社長

る発展を目指したビクター・ビジョンの実現に向け、皆さんの若い力を十分発揮して欲しい。これまで蓄積してきた能力を外に出して応用、実践していく時です。常に可能性を求め、何事にも積極的に挑戦し、明確な自分を形成していただくことを期待と激励を込めた訓示が述べられました。これを受け、酒井康利さんが力強い答辞を読み上げました。

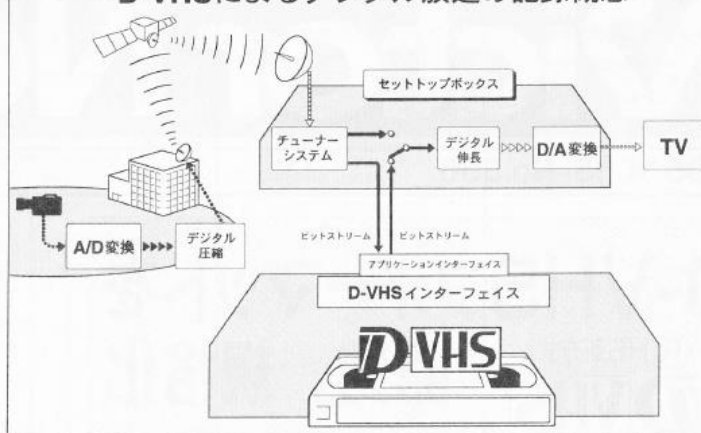
ビットストリーム記録

デジタル放送などの既に圧縮やスクランブル加工された信号をそのままの形でテープに記録し、出力された信号と同じ形で入力された信号と同じ形でストリーム記録。従ってビットストリーム記録機はアナログ・デジタル変換、圧縮・伸張などの機能はなく、そのまま再生しても画や音にありません。テレビ再生にはデータ・映像・音声変換器を経由する必要があります。

その1

続き

D-VHSによるデジタル放送の記録概念



PHS事業に参入

第一弾公衆用携帯端末を発売

4月1日に発売したパーソナルインフォコム事業部はこのたびPHS(パーソナル・ハンディホン・システム)事業への参入を発表しました。今後のマルチメディア時代に対応した通信手段として需要拡大が期待されているPHSは、5年後には年間1200万台という大きな市場規模が見込まれています。こうした有望な市場へ向けて、これまで培った電話機のノウハウを生かしながら積極的に関連

分野へも取り組み、事業拡大を図っていく方針です。当面の商品展開としては、今夏のPHSサービス開始に合わせて、まず公衆用携帯端末商品(DII系)を発売。販売チャネルも従来の家電売り場以外にも新ルート開拓に取り組んでいきます。パーソナルインフォコム事業部では、本誌「モバイル・アライズ」の一つに育成すべく、市場拡大と差別化商品展開で、当面シェア10%を目指します。

ソフトの市場情報をサービス

～米サウンドスキャン社のノウハウ導入～

当社では音楽・映像ソフトの市場情報を提供する事業へ参入、今秋からサービスを開始します。これは米国ソフト業界の情報分野でもっとも権威と実績のあるサウンドスキャン社とのライセンス・コンサルティング契約により実現するものです。事業化に当たっては、システム開発と運営を関係会社である「株SIP」に委託。サービス内容はPDS導入店から店頭消化情報を得て、サウンドスキャン・プロ



元氣な話題が続くビデオ事

主な特長・基本仕様

〈基本コンセプト〉

- VHS互換性～従来のVHSテープが再生可能
- ビットストリーム記録～デジタルデータをそのままテープに記録/再生(圧縮・伸張しない)

〈仕様概要〉

- 使用テープ～S-VHS(D-VHSカセット)
- 記録モード～STDモード(最大7時間)
- HDモード(最大3時間30分)
- LPモード(最大49時間)

●機構系～現行VHSメカ及びドラム

〈主な特長〉

- デジタル放送のタイムシフトが可能
- マルチメディア時代に対応したデータ記録可能
- 現行VHS方式との互換性を維持
- 家庭用としての普及・発展が可能

〈フォーマットの技術的特長〉

- メタルフォスフォーマット(自己変身型)
- アドレスコードによる高速アクセス
- 強力誤り訂正 ●フォーマット識別コード付き
- MPEG2トランスポートパケットストリーム

その2

ビクターニュース-6

発行月日

: 1995年 H7.4.15

発行NO.: 556

面(頁): 1-2

タイトル

「D-VHSフォーマットを開発規格化、デジタル放送をそのまま記録」

記事内容

「現行VHSと互換性あるD-VHS発表、4/6、デジタル・PDSも発表」

この秋、ビクターは元気がいいぞ



◀「ILA-M200G」990万円
10/31発売
▶左にリア型、右フロント型が設置されたIIA発表会場

注目の新商品が続々登場！

いよいよ本格的な秋を迎え、業界ではオーディオフェア・エレシオンに向けた新商品発表が活発化。当社も最大需要期の年末商戦を控え、注目の新商品を相次いで発表。9月末には「新型IIA」、10月初めには「DVC」さらに「液晶プロジェクター」というように「元氣イッパイのビクター」に各方面から大きな関心と期待が集まっています。



小型・輕量
低價格化

月大規模映像システムとして好評を博している「ニール・A」[M20G]が発売される。

9月26日、東京・日本橋・東京会館にて多数のマスコミ記者を集め、盛大な発表会を開催。これははじめて在々本報特約員「IILA」はハイビジョン・マルチメディア対応なとレンドームに当社も1人への事業転換に不可欠な商品であり、価格もオースもこなった新型IILAは積極的に打つてある」と語られた。その出ると意志P.S.社長より商品特長と説明やまが行われ一段と向上するものと高解像度でアップグレードされました。

ILA ニューモデル発売
 続いて液晶プロを投入

- ◆ビデオカメラの使い方を大きく変える小型・軽量化を実現
—新1/2インチサイズ、文庫本より小さく、重さ3ポンド
- ◆デジタルならではの高音質・高画質で、画質の劣化なし
—ニジミ・ジッター(ぬれ)がなく、音はCDと同レベル
- ◆多彩な用途に使える、撮るとさも見るとさも楽しい充実機能
—従来の演出効果に加えて、再生時のズームアップも可能
- ◆基盤など全社総合力を注ぎ込んだ最新技術・高度加工技術
—6層基盤、超小型スライドモーター、硬質耐材使用のボディ

妥協を許さぬ伝統のビクタースピリット——
ビクターだから出来た『DV1』



使い方が変わり、楽しみ方もグリーンと広がります

【DV1の主な仕様】

- 電源DC3.6V●消費電力
5.4W●記録方式デジタルコ
ンポネント記録/PCM
●音声記録1/1/3CGD
57万画素・レンズF1.6
●ファインダー0.55カラー・ス
クリーン20倍（最大100倍）●映
像効果13演出18場面切替/連写
/記念写真モード●最低照度
7ルクス●手ブレ補正装置
外形寸法/43×148×88mm●重
量/本体450g（バッテリー含
0g）●アクセサリ/ドッキ
ングステーション、ACアダ
プター・チャージャー、バッ
テリーパック、リモコン、ソ
フトケース●本体価格22万円



新しいパスポートとほぼ同じ大きさのポケットに入るDV1と話す清水本部長

世界最小・最軽量デジタルカメラ

へお待たせしました。本命機はビクターから

マルチメディア時代にも対応した期待のデジタルビデオ

た10月5日、東京・丸の内／

・評論家など各方面から予想を上回る計500名という多数の来場者で満席、熱気あふれる

大変な盛況ぶりでした。

長は「DV1は小さいことを徹底的に意識し、VHSの蓄

積した技術と高密度記録技術を駆使した自信作。ムービーへの様々な要望に、これだけの答えを出していきたい。ポイントとは3つ、①旅の友の

DV 1 誕生

マルチメディア対応
液晶プロジェクター

その中で、喜志 P.S 事
長は「ハイメスディエ時代の新しい機能（パソコンやハイビジョン入力対応）を備え、小型・軽量・高性能を実現したりきれいで、面白いものを出したい」と、夢の扉を開いて、画面の投写が可能。新映像システムとして I.L.A. や客席プロジェクトなど、お客様のニーズ、用途に応える商品ラインナップが充実し、今後の販売拡大が予想されています」と話されました。

450gの手帳サイズ、12/月上旬発売！

テープもさらにコンパクト

- ◆ミニデジタルビデオカセット／薄膜蒸着テープ、高精度シェル採用◆60分／1,100円、30分／900円、ヘッドクリーナー／1,500円◆発売 12月上旬



カセットサイズ66×48×12.2mm

▲上の青い枠が原寸大(カタログ値で突起部含む)。実際の外形サイズは、内側のグレーアミ部分です。

※LA等の詳しい商品説明は次号で紹介します。

これが
原寸大

今号の
主な記事



- ・期待の大型商品発表～DVC、ILA ～1面
- ・10月度経営会議(10/2)／海外新工場設立他 ～2面
- ・カラオケ配信／トップス／営業最前線～九州支店 ～3面
- ・10/1付組織変更のポイント～各部門別変更内容 ～4、5面
- ・新商品紹介／エリシオンCD-ROMプレゼント ～4、5面
- ・ソフトインフォーション／関連会社～VAC ～6面
- ・人の動き／QCフォーラム案内／TVF審査員紹介 ～7面
- ・人の動き ～8面



終了後も大半の方が前に集まり、
実物を手に取り、熱心な質問続出

Victor News

95年度 経営スローガン
明日を拓く
市場に学ぶ心はひとつ
Victor JVC

'95/12/15 No.570

本紙は再生原料を使用しています。

日本ビクター株式会社 広報室
〒221 横浜市神奈川区守屋町3-12 ☎045(450)1403

発行人 中村 誠
印刷 ビクター産業株式会社プリント部

日本ビクター・社内報
(月2回発行)

●ハイビジョンの電気設計取りまとめを担当。今年はH V-32E Z5、28E Z5と2モデルを揃え、実に多い年でした。新商品は他部門の協力による開発ハワーの集約で生み出されるもので、大型商品では特に重要な要素です。取りまとめの苦労は尽きませんが、ゴールをめざし頑張ります。



(技術)国内G
塩田一貴さん
(テレビ部門)

●高密度6層基板の開発を担当。回路層間のレーザー接続のため精度向上に装置を改良し、業界初のプリントボードが可能。それがD V-1小型化に寄与。開発から1年の短期間で出来たのは、D V-1搭載の業界最先端プリント配線板という事で、全員が前向きに取り組んできた結果です。



(精機サ技)技G
矢内正訓さん
(C&D部門)

●今年度6層基板の開発を担当。回路層間のレーザー接続のため精度向上に装置を改良し、業界初のプリントボードが可能。それがD V-1小型化に寄与。開発から1年の短期間で出来たのは、D V-1搭載の業界最先端プリント配線板という事で、全員が前向きに取り組んできた結果です。



(PJVM)
川島繁夫さん
(ビデオ部門)

●今年度17年目、購買を担当。11月、創立18年を迎えてオーストラリアのハブ工場の役割を果たしています。国際購買センターとR&Dも充実し、現在取得を目指しています。来年は中身の伴った世界一のVTR工場の夢の実現に一つ近づきたいです。



(JES)
Yen Seok Minさん
(オーディオ部門)

●カメラ量販、大手D S担当。今年度は準備ダウンとの戦いに明け暮れましたが、よかったのは担当法人の売場改装に私案が採用されたこと。徹夜5日でした。ビデオの売上は前年2割増。実績は30カ月連続100%達成など納得できる結果に。来年はMDなどM Mにも注力。



(Vダイナ東京営業)
津田雅之さん
(営業部門)

●情報通信ルートと興隆ルートを担当。今年度はI L Aを11台販売し、100%以上達成で社長表彰受賞。V S R事業部S I部、支店のSSGグループなど皆さんの協力を借り、S I事業を果敢に挑戦してきました。今後ともI L Aを核に社内SE、S Iをまとめ、システム提案営業をしていきます。



(近畿エシ三宮)
森 勇さん
(営業部門)

今年も開・生・販一体でガンバリました

開発・生産・販売各部門を代表して6名の方に、1年間を振り返っていただきました。来年も一丸となって頑張ります。

<デジタルポケットムービー>

GR-DV1 いよいよデビュー

12/9発売、元気よく街へ飛び出す



待ちに待たれた秋葉原・特約店様に登場、売場のハイライトに

ムービーの流れを変えるぞ!

発表以来、大きな話題を巻き起こし、全国のユーザーや特約店様から人気沸騰のデジタルポケットムービー「GR-DV1」がいよいよ登場。店頭に詰めかけました。特約店様からもこれまでに、全国各地の特約店様の声が届く一方、「注文に間に合わない、次はいつ入荷?」との厳しい要望もいただきました。このようにDV1は、ビクター再生・復活の大きな起爆剤として、流通では市場活性化の目玉として、また業界からは新時代のムービーとして大きな期待が寄せられています。

12/1 横須賀工場出荷式

「DVCで満ちあふれる時代が必ずやって来る」

12月1日、横須賀工場にてD V-1出荷式が行われ、D V-1の生産ラインや技術、営業など関係者約300名が参加。横谷総長の司会では、はじめに土井副事業部長から佐々木(営業)長にD V-1の1号機が引き渡され、引き続き清水本部長、奥村事業部長、土井副事業部長、土屋副事業部長、河田開発部長により元氣よくクスマが割られました。

清水本部長は「D V-1は今、蝶が脱皮して飛び立とうとする時です。関係者の皆さんには大変な苦労をかけていますが、今は苦みの苦しみです。数年後、世の中はD V大ヒット・大増産を誓う」

次に長老・宮本部長からの祝電披露、奥村事業部長のお話、多田二(製)長の決意表明が行われ、最後に、原工場長の万歳三唱で「大ヒット・大増産」を全員で誓い合いました。世を代表する出荷式は無事終了しました。



土井副事業部長から佐々木本部長へ



6名のチームワークよくクスマ割り



最後に全員で心を一つにハンザーイ



今号の
主な記事

- ・DV1 いよいよデビュー/みんなで大盛りしました ~1面
- ・パブリシティ受賞/営業販促/カラオケフェスタ ~2面
- ・HJT経営権取得/ハイビジョンフェア好評開催 ~2面
- ・製造フォーラム/WLレポート・ベルギー/トピックス ~3面
- ・JVCソフトグループ紹介 ~4、5面
- ・新商品紹介 (10/30~11/20発表分) ~6面
- ・ソフトインフォーメーション/関連会社ビクター不動産 ~7面
- ・DV1 体感会/クローズアップマン~長島さん ~8面

東京駅の特大型広告ボードに「小さなDV1が大きく」登場



たて3m×よこ8mの大型ボードが4個の連続広告。テーマも、ひよこ、ジバン、エプロン、上着と異なったもの。

Victor News

96年度 経営スローガン
実のある山を築く
 しかる/磨る/拓く
Victor JVC

'96/5/15 No.578

本紙は再生原料を
 使用しています。

日本ビクター株式会社 広報室
 〒221 横浜市中区山下町3-12 電話(45)430-1433

発行人 中村 誠
 印刷 ビクター興産株式会社印刷部

日本ビクター・社内報
 (毎月2回発行)

デジタル化対応 マルチメディア時代をリードする新技術

昨年はDDシステムなどの新技術やDV1、マルチメディアワイドTV、MDミニコンなどのデジタル関連商品など世の中に当社の健在ぶりを示しました。今年もD-VHSを始めとする一歩進んだ新技術により、元気いっぱいのビクターを積極的にアピールしていきます。

D-VHSなど相次いで技術発表

D-VHS (STD)技術仕様を決定

当社は昨年4月、開発発表したD-VHSについて、このほどスタンダード(STD)モードの技術仕様を決定しました。今後の商品展開により、来るべきマルチメディア時代に対応した記録メディアとしてVHSシステムはさらに発展していきます。

「D-VHS」はVHSメディアを基礎としたマルチメディア時代の新しいVHSフォーマットで、現行機能に加えデジタル放送などのデジタルデータをそのまま記録する「フラストリーム」記録方式を採用。今後は大容量で安価というテープメディアの優れた特性を生かして、デジタル放送や双方向デジタル通信など、マルチメディア時代の家庭用大容量データストレージとして新たな用途展開が可能になります。

＜D-VHSの特長＞

1. 現行放送(NTSC、PAL方式など)のアナログ記録に加え、ビットストリーム記録によるデジタル放送のタイムシフトが可能。
2. 大容量のテープメディアの特性を生かし、マルチメディア時代に対応したデジタルデータ記録が可能。
3. 全世界に蓄積された膨大なVHS映像資産の再生が可能など、現行VHSとの互換性を維持。
4. 現行のVHS技術や部品、生産設備が共用でき、家庭用としての普及、発展が可能。

今回決定したD-VHSスタンダードモードは、世界的潮流になっている「IEEE」

E国際デジタルインターフェースを採用し、幅広いデジタル機器のシステム結合を見据えた仕様になっています。

《D-VHS STDモード基本技術仕様》

- 使用テープ：S-VHSを基準、新グレード設定
 - 使用フォーマット：D-VHSカセット(専用表示、識別用)
 - 記録時間(巻数)：標準DPR-300(5時間、31.7GB) 最長DPR-420(7時間、44.4GB)
- 
- テープスピード：16.67mm/sec
 - ヘッドアジマス：±30度
 - ドラム回転数：1800rpm
 - フォーミング方式：CTLトラック

400億円の転換社債発行 VV実現に向けて 設備投資などに充当

今年、Vの2年目、実行の年として、ビジョン実現に向けたテーマが今後積極的に取り組まれていきます。そのための資金調達として、当社は、国内外の設備投資や関係会社への出資などに充

当することになりました。

これは95年度で営業利益が

字化を果たし、課題含みなが

らも業績が向上きに転じつつ

あることから、経営基盤安定

化と将来への布石としての先

行投資を目的とするものです。

使命と責任は重要です。つまり、社会からお預かりした大切な資金を有効に活用すること、業績を上げ、株価を上げる。そのことにより社会の公器としての責任を果たすことが出来ます。

▲具体的発行内容V

- ・無担保転換社債 6年償200億円
- ・9年償200億円 計400億円
- ・募集開始 4月23日
- ・払込期 4月30日
- ・利率 6年償年3.5% 9年償年3.5%



◀今回発売のシステムVGS-100(980万円)は、写真やグラデーション機能が付加。当社A3昇昇フルカラープリンター接続でポスター、レストランメニューなど用途が拡大。会場全体のサンプル展示に注目が集まりました。

レストランメニューも短時間でフルカラーに

発表会で説明される
 つくばソフト研究所
 ・染谷社長▶

マルチメディアプリントがバージョンアップ
 ～拡大ポスターが写真も可能に
 新たな活用、用途が広がる～



◆ビットストリーム記録
 圧縮やスクランブルなど加工された信号をそのままの形で記録再生(入出力)する方式。

◆IEEE1394デジタルインターフェイス
 高速リアルタイムデータ転送が可能なデジタルAV機器間を接続して40Mbpsまでの高速データ転送が可能。

DVDとHDTV デジタル画像圧縮装置 MPEG2技術を応用

またデジタル動画圧縮のMPEG2を応用した「DVD用エンコーダー」と「HDTV高品位VTRコーデック」という画像圧縮装置を開発。(DVD用エンコーダー)

この新開発エンコーダーは、動画の2次元平面画像に時間軸(動き)を加えた3次元符号化で、効率的にデジタル圧縮して高画質を実現しています。これによりDVDやオーサリングシステムの構築、デジタル放送やビデオ・オン・デマンドなど、業務用途での活用が見込まれます。

この可変伝送レート技術とは、複雑で動きの早い画像は多くのデータを、単純で動きの少ない画像には少ないデータで表現されます。

今回のバージョンアップのポイントは、写真も取り込みプリントが可能になったこと。その発表会が4/10/12の3日間、28Sギンザで開かれ、延べ1000人、200名の来場者、説明・デモの後の質問や商談など連日大盛況でした。

ビクターグラフィックスでは「マルチメディアフロントシステム」をバージョンアップした「ニューマルチメディア・プリントシステム」と、「拡大ワープロシステム」「ホテレスシステム」などの専用システムを発表します。

サトイモ科の多年草で水辺に群生。地下茎は太く、葉は剣状で厚く香がある。初夏には茎に中程に淡黄色の小花をつける。端午の節句に用い、根茎は健胃薬。



今号の 主な記事

- ・店頭応援報告会/DV1コーナー
- ・変わる変わる3(情シ)OAセンター
- ・66着デグ/コンパ/ナB96/トピックス
- ・<特集>ハイビジョン版(W版)
- ・<特集>インターネット活用事例
- ・新商品紹介(4.5~4.25発表分)
- ・(宮本MM)トレーニングルーム開設
- ・環境会議/環境月間/計画月間
- ・ソフトインフォメーション(パイオトラ)
- ・関連会社紹介/Vグラフィックス
- ・通信教育修了者/クローズアップMAN

- ～2面
- ～2面
- ～3面
- ～4.5面
- ～4.5面
- ～6面
- ～6面
- ～7面
- ～7面
- ～8面

【特集のページ】

記念講演 電通顧問 工学博士 和久井孝太郎氏

『世界的メディアVHSについて』

～デジタル時代を迎え、
VHSの位置づけ～

●VHSビデオ誕生20周年、誠にありがとうございます。今日までの大成功には、本日お集まりいただいた皆さま方が寝食を忘れてご尽力された結果の賜物であり、改めて長年のご努力に心から敬意を表します。
【以下、講演内容(要旨)】

◆1. VHSは「世界最大の映像インフラ」を形成、「文化」の領域に到達。
・世界で10億台突破のTVと8億台のVHSのネットワークは世界最大の映像インフラ
・文化：権威と伝統の継承・発展、自己完結的
・大衆に支持されたデファクトスタンダード

◆2. 「より良い未来は、過去の反省と想像(創造)の上に築かれる」という教訓。
・TVの元祖RCA社がホームビデオは試練
・業務用ビデオ成功とビデオディスクの撤退
・映画資産なく、タイムシフトが重要な日本

・業界各社が皆で一生懸命となり努力が結果

◆3. 「デジタル」といっても『3つの異質の段階』が同時進行～改善・刷新・変革
・デジタルは情報処理の壁に風穴をあける
・在来メディアの改良・改善、文化の発展に
・インターネットなど刷新(イノベーション)へ寄与
・調和の世界を実現する変革(レボリューション)へ寄与

◆4. 21世紀は『2つの世界が出現』～
「土の上(リアル)」と「電子(デジタル)」の上
・メディア：パーソナル、ビジネス/マス
・サービス領域：ユニバーサル/選択的
・調和のパターン：創造、自由、エンジョイ
・VHS文化の精緻化と継承・発展

1978年(昭和51)9月9日、ビクターはVHS方式ビデオを提案、第1号機HR-3300を発表しました。その1つの出来事が、その後の日本の、いや世界中の文化、社会を大きく変えたのです。
テレビ番組を記録・再生する楽しい文化をビデオソフトを好きなときに見るという生活をカメラで撮影し、みんなとコミュニケーションする社会を

その後、高画質S-VHSビデオなど、常にVHSの進化発展へのあくなき追求から新しい価値を創造し、映像文化の発展に貢献。こうして誕生後20周年を迎えた今日、全世界でVHSビデオ累積出荷台数8億台、VHSソフトは200億巻以上にこのようなVHSの今日までの発展には、ハードメーカー、テープ・部品メーカー、ソフト会社、協力会社そして特約店の皆様など、各方面の多くの方々のご協力、ご支援があったからこそ成しえたことです。
11月1日、東京・帝国ホテルでファミリー各社などお世話になった皆様を中心に「VHSビデオ20周年記念の集い」を開催、記念講演とパーティーによる有意義な素晴らしい催しとなりました。

VHS20周年

その知恵と創造を
未来へ継承、発展



なごやかな
記念パーティー

常に新しい価値を提供、映像文化を
創造してきたVHS。その歩みの中に
21世紀のテーマが学びとれる



VHS第1号機HR-3300(本体256000円、別売タイマー10000円、テープ120分6000円、60分4000円)



76年9月、VHS発表会



86年1月世界最小最軽量ムービーGR-C7(本体2800円)

【社長の挨拶(要旨)】
世界から期待されるVHSに
映像文化の発展に一層の努力

●ご多用中のところ、ご列席を賜り誠にありがとうございます。本日はVHSのハード、ソフト、部品など幅広い産業で多大に貢献された方々をお招きし、ご苦勞に感謝いたしますと共に、一堂に会し、互いの交流を深め、また新たなステップを踏み出したいとの思いから、この集いを開催させていただきました。
●この20年間、VHSによる情報伝達と文化の交流が独自のインフラを作り、世界から期待されるVHSの役割は大きいものがあります。21世紀に向けたVHSとして、当社はデジタル時代を見据えたD-VHSを開発、今後はマルチメディアの一翼を担うべくVHSのコンセプトを引き継がれていくものと思います。VHS産業並びに皆様方のご発展を祈念いたします。

VHSを通じた仲間が一堂に、感謝と交流
お客様からは故高野副社長の思い出話も

【実況挨拶(要旨)】シャープ株式会社社長

世界の多くの人に
ビデオの楽しみを
与えてくれたVHS

●今やビデオのない生活はあり得ないほどに、世界の万人にかけがえのない楽しみを与えてくれたVHSの功績に、心より敬意を表し感謝致します。
●高野元副社長はVHSを世界の規格に育てようとの心を注いで努力されました。常に業界のため、ユーザーのために会社を越えて強力なリーダーシップを発揮され、その熱意と誠意に本当に心を打たれました。また当時からビデオは情報端末に発展すると言っておられたことを私は決して忘れません。ビデオ事業では後発の当社に基幹部品供給で本当に助けていただきました。
●改めてここに感謝申し上げますと共に今後の益々の発展を祈念いたします。

【実況挨拶(要旨)】松下電器産相談役

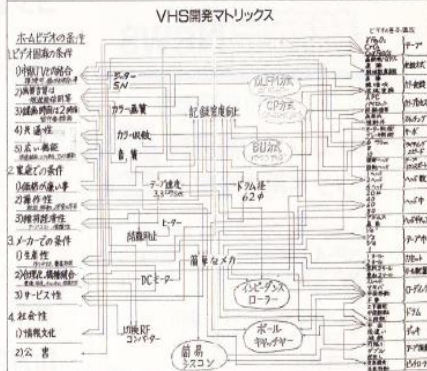
これからの時代は
競争のなかでの
協力と調和が大切

●本日はVHS同窓会のように大変嬉しく思います。高野さんもさっと別のところから笑顔で現れていると思います。
●VHSを1つの規格にまとめる時、必ずそこに人が関わり、その中心に高野さんがいたんですが、時には譲る所もあってチームワーク作りに努力されました。そこで人の大切さを学び、また幸之助相談役からも競争の中にもどこかに調和の大切さを教えられました。
●世の中が大きな変化の時代を迎えた今、今後日本が世界の中で認められるためには、競争の中での協力と調和が大切だと思います。VHSの歴史もこうして新しく発展しながら、その上にまた生まれてくるものと信じます。

◆ビデオ事業部は20周年を記念したビデオテープを制作。清水本部長の挨拶、主要モデルのTV-CMを収録。



▲記念の集いの会場入口には「D-VHS」をパネルとデモ映像で紹介しました



VHSの開発はこの1枚の
チャートから始まった

商品発売 VHSヒストリー 技術開発

●第1弾 HR-3300
●倍速ビデオ HR-3600
●初のポータブル HR-4100
●4ヘッド8時間 HR-6700
●小型ポータブル HR-2600
●大型ポータブル HR-7100
●HIFI1号機 HR-D725
●HQ搭載 HR-D565

●VHS-C日米同時発表
●第1弾「CITY-JACK」

●VHS規格・基本技術
●VHS欧州規格
●可変再生(スチルスロ倍速)
●ポータブルシステム
●長時間(3倍モード)
●電子タッチ、高速サーチ
●ステレオHIFI方式
●HQ技術(画質改善)

●VHS-C方式

●ムービーオートフォーカス

●ムービーCCD素子採用

●S-VHS高画質技術

●S-VHS欧州規格

●FCコンパチメカ

●S-VHSデジタルオーディオ技術

●デジタルAV技術

●簡易番組予約システムビデオプラス(Gコード)

●デジタルTBC

●W-VHS(ハイビジョン記録、HD、SDモード)

●DVC超小型化

●D-VHS開発

●DDシステム

●DDスロースタート

●DVC超小型液晶技術

●W-VHS(ハイビジョン記録、HD、SDモード)

●DVC超小型化

●D-VHS開発

●DDシステム

●DDスロースタート

●DVC超小型液晶技術

●W-VHS(ハイビジョン記録、HD、SDモード)

●DVC超小型化

●D-VHS開発

来賓の祝辞

「VHS20周年記念の集い」記録ビデオを貸出します

◆この記念の集いを記録したビデオテープを制作中。
11/22より貸出し予定。
◆貸出し希望者は、(広)社内報Gまで
Tel(内) 8-40-3771
(外線) 045-450-1493

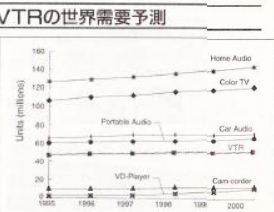
「人工天才」とVHSの開発

●テレビの父、高柳先生(元副社長)が米国の論文を引用し昭和47年に社内で話された「人工天才になるには」というメモがあり、そこでは人工天才になるため「15の要素」が必要と述べておられます。
●15の要素は、①建設的な不満②オリジナリティーとビジョン③勇気④専門知識⑤一般知識⑥分析力⑦統合力⑧常識⑨情熱⑩説得力⑪忍耐力または障害を乗り越える決断⑫エネルギー⑬インシアティブ⑭ユーモアのセンス⑮協同

知識⑯情熱⑰説得力⑱忍耐力または障害を乗り越える決断⑳エネルギー㉑インシアティブ㉒ユーモアのセンス㉓協同●VHS開発マトリクス(右上)もプロジェクトメンバーも発想の原点がこの要素に共通した強い信念があったものと思われまふ。

2000年を経て
VTRは
さらに成長
テープも同様
成長を継続

・20周年を機にVHS標準センターでは世界のVHS関連企業の相互コミュニケーションを図る目的で「センターレポート」を創刊。



●日本電子機械工業会(EIAJ)の「2000年までのAV7品目世界需要予測」によると、VTR(据置デッキ)は1995年から2000年まで5000万台水準を維持し続けると予測されています。
●日本記録メディア工業会(JRIA)もブランドテープは成長継続と予測。

ビクターは89年に取組を始め、徐々に番組特性に合った商品が登場させ有効にバブ展開

最近の登場番組から



95.7-9「餅子のかげらたち」(TBS 22:00-22:54)/藤井フミヤがDV1を使用、ドッキングステーションも登場



同「餅子のかげらたち」/フミヤの恋人役の松雪泰子もDV1を使用、ドラマでは丸い電話機TN-S303も登場



95.8「日曜ビッグSP・久本雅美の初ハロウィン豪華秘体験ツアー」(NTV 14:30-16:00)/久本がDV1使用



95.9「笑っていいとも」(フジ)2:00-2:54/ゲストの菅野美穂が司会のタモリにDV1プレゼント



95.10「ゆずれない夜」(フジ)22:00-22:54/高杉早苗、工藤静香など出演。DVC他登場予定

今後、D-J1を強力に仕掛けてます

小さい・見やすい・使いやすい

ニューコンセプト電話機 DJ1

◆電話機の新しいカタチと新機能
<ここが特長！>

1. 省スペース、アップライト型
小さく置いてカワイイ形
2. クリクルダイヤル100人電話帳
名前を表示、すぐかかります。
3. PHSが家庭でも生かせる
PHSエリア拡張機能



愛称「ミニでん」
◆TN-DJ1
価格38,000円
11月1日発売
ブルー、ブラック/設置面積は従来の60%(奥行168mm)

●特集●TV番組パブリシティ

89	94	96/上	96/下
商品・ブランド名の露出	特長ある商品の露出	戦略商品を中心とした露出	プラス用途提案型の露出
●ビクター商品の認知度を拡大(AV機器)全般	●他社商品との差別化(電話機、ワイドなど)	●差別化を訴求(特にDV1に絞った展開)	●使い方で差別化訴求(便利さ、メリット等)

'97/5/15 No.599

本紙は再生原料を
使用しています。

日本ビクター株式会社 広報室
〒221 横浜市神奈川区守屋町3-12 ☎045(450)1493

発行人 中村 誠
印刷 ビクター興産株式会社プリント部

日本ビクター・社内報
(毎月2回発行)



▲4/21発売、DVDプレーヤー
XV-1000 (93,000円) 展示写真は
秋葉原・ヤマギワ物産東京本店4階

4/21、DVDのプレーヤー、ディスクの予定通り発売を機に、ハード・ソフトの連携と開発・生産・販売の一段と強い協力関係を発揮していこうとの目的で4/25大和工場で開催されました。

これには(技開本)(オ事)(D事)(テック)(営本)(VE)などDVDの開・生・販に関連の14部門の関係者約60名が参加。はじめに(DVD)長・星野取締役から開会挨拶があり、続いて清水常務から、計画どおりハード・ソフト同時発売できた喜びとギリギリまで続けた苦労に対し、お礼と感謝の言葉がありました。

3部門からは、ディスク：藤木(メ本開一)長、プレーヤー：海津(オDVD)長、

DVDハードソフト同時発売

ビクターらしい商品と市場で高い評価

DVD総合事業推進決起大会

**開・生・販のチームワークを
一段と強固に、次への挑戦!**

ソフト：浅山(テック)常務から、発売までの大変な苦労と、深夜に及ぶ努力を重ねてきた経過が報告されました。

関係部門みんなの努力が実る

続いて、商品引き渡しと決意表明が行われた後、海老取締役からは「皆さんの熱い気持ちをきちんと市場に伝える事を誓います」との挨拶。佐々木専務からは「関係部門のチームワークで本当に良くやってくれた。今後も一層の頑張りを期待する」との激励の言葉がありました。

最後に大森(技開本)長、中村(ソ本企)長の発声で全員の結束を固めました。

ビクターの
強味を発揮

〈DVD事業
推進ポイント〉

- ハード・ソフト・メディアの総合力
- 音も映像もトップ水準の技術ノウハウ
- 豊富なソフトと一貫したディスク生産体制



ハード&ソフト一体の広告宣伝
新聞：4/20朝日・読売、4/21日経



日程確保に対するねざらいを
込めて挨拶する清水常務



藤沢(D事)長より柴崎(VMP)
部長へディスク引渡し



平林(オ事)長より坂井(東都
支店長)へプレーヤー引渡し

ビクターニュース-11

発行月日：1997年 H9.5.15

発行NO.：599 面(頁)：1

タイトル 「DVDハードソフト同時発売、ビクターらしい商品と市場で高い評価」

記事内容 「4/21 DVDプレーヤー発売と共にハード・ソフト部門連携でビクターの強み発揮」

'97/6/1 No.600

本紙は再生原料を
使用しています。

日本ビクター株式会社 広報室
〒221 横浜市神奈川区守屋町3-12 ☎045(450)1493

発行人 中村 誠
印刷 ビクター興産株式会社プリント部

日本ビクター・社内報
毎月2回発行

さらに小さく！さらに軽く！ 《世界最小・最軽量》※

フラッシュポケットムービー DVX 新登場

DVC市場をさらにリード、拡大

業界初、「オートフラッシュ」

自動発光、暗くても安心

待ちに待った新液晶ポケットデジタルムービー「GR-DVX」が遂に登場！
今度は“さらに小さく、さらに軽く”
なり、フラッシュポケットムービー
「DVX」として、6月10日発売。そして、
またまたビクターが「世界最小・最軽量」
(液晶タイプでテープ・バッテリー含む)
の記録を塗り替えました。



5/20、帝国ホテルで開かれた発表会にはマスコミ関係者など総勢約300名が集まり、会場は熱気にあふれ満席の状態。発表会はILAの映像を中心に、光と音の演出によるプロローグでスタート。

冒頭、清水常務から挨拶があり「今回のDVXはDV1やDVM1の利用実態をもとに、新しさ・使いやすさを盛り込



大きな会場に10台のDVX、部品なども展示

んだ自信作。システム性など幅広い拡大を図っていきたい」との話がありました。
続いて、土屋(ビ事)長より「発売の狙いと企画意図」の説明、並木(ビ商企)長より「商品特長と機能紹介」について、デモを交えた説明が行われました。

これによりビクターDVC戦略は今後一段と強化され、6月国内発売で攻勢をかけ、8月以降欧米へも投入の予定です。

▼下の青線ワクが **原寸大** (カタログ寸法、グレアミ部は厚さ)
対DVM1比較：高さ25mm、厚さ10mm、幅1mm小さく、重さ(撮影時)140g軽い

ビクターの総合力発揮！VIL 8層基板など超高密度加工技術

＜主な特長＞

1. **世界最小・最軽量※のポケットサイズ**
(※液晶モニター付きでテープ、電池込み)
2. **業界初「オートフラッシュ」**～暗い場所の静止画撮影に強い
3. **長時間撮影にも対応**～LPモード搭載、長時間バッテリーケース
4. **デジタルで多機能**～100倍ズーム、再生ズーム、映像効果など
5. **液晶モニターとカラービューファア搭載**
6. **パソコンなど拡張性**～ドッキングステーション連動



6/10
発売

◆外形寸法：
49×131×93
(mm、液晶モニターフ
ァインダー収納時)
◆質量：
本体約500g
撮影時約590g
◆価格23万円
(別売アクセサリキット25000円)

●JLPIビデオキャプチャドッキングステーション
GV-DS2 44,800円(6月発売)
(詳しくは次号(6/15)掲載)

“ペンギンCF
第3弾” 強力な宣伝展開

＜主な仕様＞

- ◆録画時間：最大90分(別売LPモード)
- ◆連続撮影時間：液晶モニター使用時約40分、ファインダー使用時約45分(バッテリーBN-V907フル充電)
- ◆モニター：2.5型、16万画素ポリシリコンTFT液晶パネル
- ◆撮像素子：1/3インチ57万画素CCD
- ◆レンズ仕様：F1.6
- ◆ズーム倍率：光学10倍、デジタル100倍
- ◆電源：DC6.3V(ACアダプター)DC1.2V(バッテリー)
- ◆消費電力：6.2W(ファインダー17W(液晶))

＜DVX宣伝計画＞

- テレビCM**：TVスポット
(6/21～7/6、全国主要都市)
提供番組CF(6月中旬～)
- 交通広告**：JRドア横(6/5～14)、
地下鉄ボード(6/24～7/14)
私鉄ボード(6/4～6/24)
- イベント**：大阪・日本橋でんでん
タウン(6/21、22)、東京・新宿
駅(6/6～8)、秋葉原(7/18～27)

ビクターニュース-12
発行月日：1997年 H9.6.1
発行NO.：600
面(頁)：1

タイトル
「さらに小さく軽く、世界最小最軽
量 フラッシュポケットムービー-DVX新登場」
記事内容
「業界初オートフラッシュ搭載6/10発売、
多層基板、精密加工技術でリード」

ビクターの6事業分野の1つである「コンポーネント&デバイス事業(C&D)」は、現在めざましい発展、拡大を続けており、今後大きな柱となるべき重要な事業です。しかしながら、個々の事業の実態や商品への活用事例など、意外と知られていないのでは?そこで、皆さんに理解を深めると共に、今後の事業拡大にご協力いただくために、今回7つのポイントから実例をあげ、分かりやすく現状の取組みを紹介します。



◀高島取締役(C&D本)長

——高島本部長に経営のポイントをお聞きしました。

“3つの満足、3つのゆとり”の追求 『自己完結型の責任経営』の実践!

Q▶C&D事業全体の経営概況は?

——現在5事業部体制で、分野別にはモータ/精密加工部品/基板/ディスプレイ部品/電子デバイス/光ピックアップなどを関係会社を含めて国内外16工場で生産(右図参照)。社内他多くのAV・情報通信メーカーに外販しています。VVでも示されているように、事業規模は連結ベースで1000億円を目指しており、売上・収益ともにお陰様で経営を支える事業体へと成長してきました。

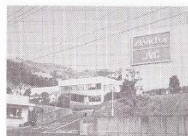
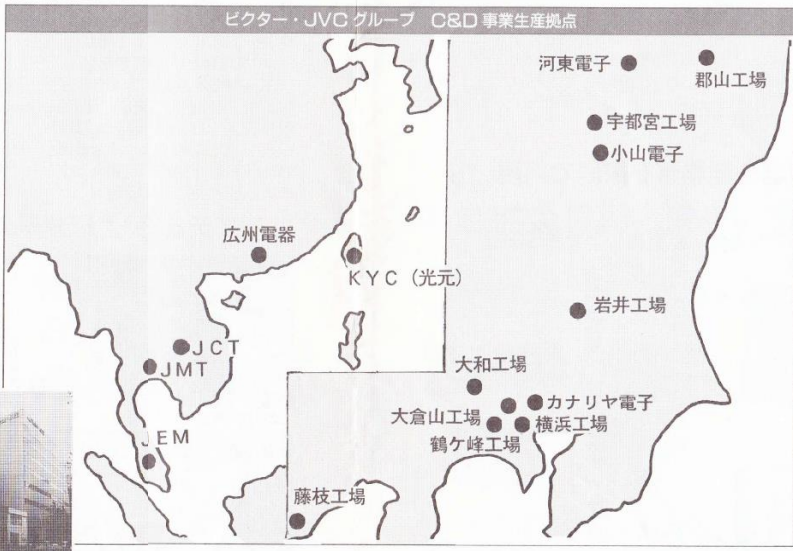
Q▶これからの事業展開の基本的考え方は?

——マルチメディア時代の中で、(技術開) (生技研) や各事業部との一層の協力・連携により、情報・通信関係を中心に強化していきます。お客様の要望にあった製品開発を進め、品質・コストで信頼に応えることが大切です。

Q▶経営の基本ポリシー、経営管理のモットーは?

——モットーは「3つの満足、3つのゆとり」で、お客様・従業員・会社の満足と収益・開発・心のゆとりを創り出すこと。そのため「自己完結型経営の実践」で、分権責任と現場主義を重視し分野別事業の確立を目指すことです。

C&D事業全体組織	
コンポーネント&デバイス事業本部 (C&D本)	
モータ事業部 (モ事/藤枝)	
精密事業部 (精機事/鶴ヶ峰・大倉山・横浜)	
テレビ部品事業部 (テ部事/岩井)	
電子デバイス事業部 (デバイス事/郡山・宇都宮)	
オプトイカルコンポーネント事業部 (OC事/大和)	
(関連会社)	
河東電子株・ビクター小山電子株・カナリヤ電子工業株	
(海外生産現法)	
JEM(マレーシア) JMT(タイ) JCT(タイ) 広州電器(中国) KYC(光元)(台湾)	
(販売部門)	
C&D営業本部(本拠)▶(海外拠点:米・台・シンガポール)	



藤枝工場/モータ



若井工場/DY(偏光ヨーク), FBT(フライバックコア)



カナリヤ電子(横浜)/単結晶フェライト



JEM(マレーシア)/モータヘッド・VTR機構部品



鶴ヶ峰工場(横浜)/精密機構部品



小山電子(栃木県小山)/DY



大和工場/光ピックアップ・CD-ROMメカ他



JMT(タイ)/DY・FBT



大倉山工場(横浜)/多層基板



河東電子(会津若松)/DY



KYC(光元)(台湾)/DY



JCT(タイ)/DY・モータ・光ピックアップ



横浜工場/多層基板・C&D本



郡山工場/ヘッド・デバイス



宇都宮工場/デバイス



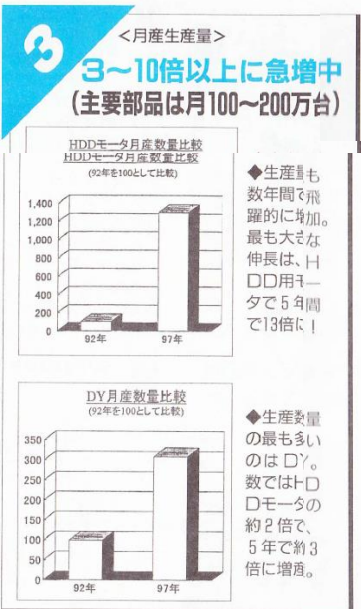
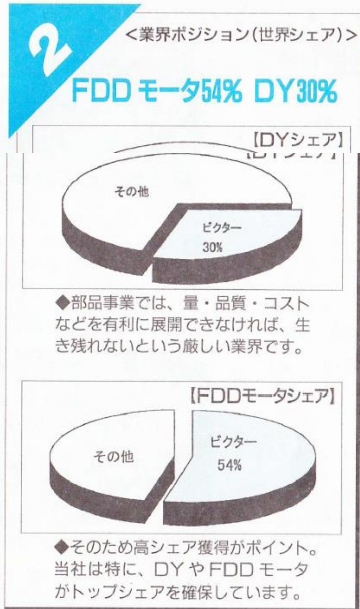
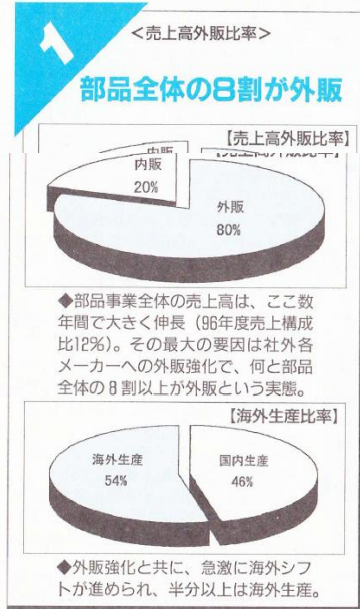
広州電器(中国)/VTR機構部品・モータヘッド・デバイス

これがビクターの部品(C&D)事業

ビクターグループ・コンポーネント&デバイスの開発/生産/販売活動

7つの驚き!

新たな発見 意外な実態



5 <国内外生産拠点数>

アジアに5カ所、国内11カ所

海外現法	5	マレーシア・クアラルンプール/タイ・バンコク、コラート/中国・広州/台湾
国内工場	8	藤枝/郡山/宇都宮/岩井/大和/横浜/大倉山/鶴ヶ峰
関連会社	3	河東電子(会津若松)/小山電子(栃木県小山)/カナリヤ電子(横浜・鶴見)

6 <事業に携わる従業員数>

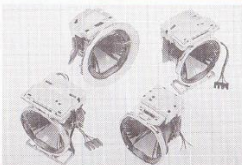
部品事業全体で1万人

海外	6400	国内	3300
JCT	3100	全事業部	2750
JMT	1400		
JEM	1000		
光元	350	関連会社	550
広州電器	550		
		<海外>	6400
		<国内>	3300
		<総計>	9700



マルチメディア時代・デジタル化の夢を実現する高精度・高信頼パーツ

偏向ヨーク(DY/ティフレクションヨーク)



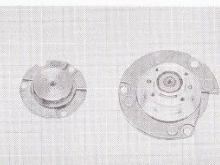
◆独自の捲線ノウハウを駆使した高精度ディスプレイ用偏向ヨーク

フライバックトランス(FBT)



◆ディスプレイ用高圧トランスで高圧設計回路技術で小型化、一貫生産

HDDモータ



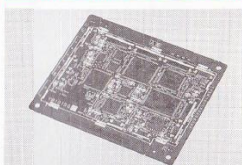
◆超精密特殊軸受で業界NO.1の低NRR。長寿命・耐衝撃性・低雑音

FDDモータ



◆独自IC開発と新たなインデック方式で小型・薄型・高効率を実現

高密度ビルドアップ多層基板



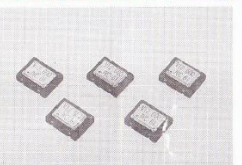
◆レーザー孔明けなど独自精密加工技術で高精度・高信頼性・高密度化

VTR用精密機構部品



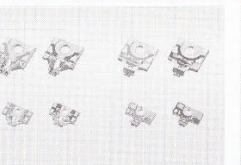
◆VHS開発メーカーの蓄積された精密量産加工技術で高信頼精密部品

表面実装デジタル水晶発振器



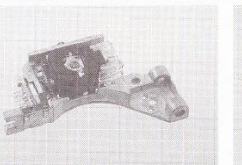
◆水晶発振器の長年実績で温度補償型で安定性の高いD-TCXO開発

VTR用ヘッド



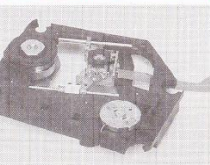
◆独自の単結晶フェライトを使用、超精密加工で高出力・低ノイズ実現

光ピックアップ



◆独自の仮想軸回転方式で薄型軽量。CDプレーヤー他高速アクセス対応

CD-ROM用トラバースメカ



◆独自の流体軸受採用で高速低振動メカ。高性能3CDチェンジャーも

'97/11/15 No.610

本紙は再生原料を
使用しています。

日本ビクター株式会社 広報室
〒221 横浜市神奈川区守屋町3-12 ☎045(450)1493

発行人 中村 誠
印刷 ビクター興産株式会社プリント部

日本ビクター・社内報
〈月2回発行〉

明るく美しい大画面！2つの自信作がデビュー

D-ILA素子搭載マルチメディアプロジェクターと小型・軽量の新ILAスーパープロジェクター



会場にはILA-M100G(左)とD-ILA(右)を設置

今年の70周年記念商品の中でも大きな期待と注目を集めている「D-ILAプロジェクター」が、ついに日本でもデビュー。先にドイツで開催されたベルリンショーで出品され、開発発表されたD-ILA素子搭載のマルチメディアプロジェクター「DLA-G10」として来年1月中旬、テレビ事業部から発売されます。

発表会は予想を上回る約250名が来場

その発表会が11/5、東京一ツ橋・如水会館で開かれ、予想を越える多数のマスコミ関係者約250名を集めて盛大に行われました。



新ILAは全社をあげた戦略商品 2000年までに年率40%で積極展開

冒頭、挨拶に立った佐々木専務は「ILAはシステム事業の核であり、全社あげての戦略商品として積極的に取組み、2000年頃には年率40%、3年で3倍の事業規模にしていきたい。今回の2モデルは業界でダントツの自信作で積極拡販していく」と大型映像事業に力を入れる強い決意をアピールしました。

続いて、喜志(テ事)長からは「開発意図、市場背景、発売の狙い、次への展開の考え方など」の説明。

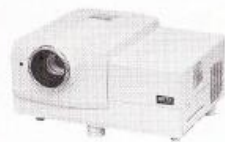
さらに館(テ事)副長より「新モデルによる充実のフルラインナップ紹介、新商品2モデルの商品説明、そしてD-ILAの特長について」様々なパターンでのデモ映像を交えながら、詳しい説明が行われました。

説明が終わっても、会場からは多くの質問が相次ぎ、また正面に設置された2モデルを多く人が取り囲むなど、来場者の高い関心と注目を集めました。

MM時代の大型映像事業の確立を

92年、当社は米・ヒューズ社との合弁会社HJTを設立、ILAスーパープロジェクターの取組みをスタートし、昨年ILA素子の自社量産化へと積極展開を進めてきました。今回のD-ILAと新ILAの発売によって、マルチメディア時代に対応した本格的な大型映像事業へ向けた新たな取組みがスタートします。

新ILA2モデルの主な特長



DLA-G10

168万円
98/1月中旬発売

フルSXGAの高解像度で世界最小・最普及価格を実現

- 超小型D-ILA素子でフルSXGAの高解像度を実現
- 新開発キセノンランプや照明光学系の改善で1000ANSIルーメン達成
- フルSXGAで世界最小サイズ、トップレベルの軽量化
- バリアブルスキャン(可変走査82kHz)ハイビジョン信号も再現
- 独自の配向技術で250:1以上の高コントラスト・クリアな映像



ILA-M100G

680万円
11/10受注開始

従来の2/3に小型・軽量化、さらに高輝度・高解像度

- 光結合部のFODプレート、高性能ランプ採用で1500ANSIルーメン実現
- ILA素子縮小などで小型・軽量、1投写レンズを採用
- バリアブルスキャン(可変走査135kHz)でMM用途対応
- 照明光学系の新開発で周辺出力改善、光出力均一性向上
- 垂直配向技術で高コントラスト・奥行き感・メリハリ感



ビクターの歴史が1枚に！
見たい所を気軽にアクセス

70年の歩みを映像と音と文字で

マルチメディア時代の社史 ビジュアル&インタラクティブ

◆V70記念事業の5つのテーマの1つである「CD-ROM社史」がこのたび完成し、発刊の運びとなりました。
◆これは、日本ビクターの創業から今日までの70年の歴史を1枚のCD-ROMに収めたもの。マルチメディア時代の「ビジュアル&インタラクティブ」なもので、従来の“読む”から“見る、動く、聞く”社史となっています。
◆中身は5つのテーマで構成され、映像・音楽・ナレーション・テキスト(文字)で、大変分かりやすい内容です。
◆企画編集はV70社史編集グループ(丸茂リーダー、古橋さん、近藤さん)が担当。製作にあたっては、デザイン部やディスク事業部などグループや社内関連部門が総力をあげ、密接な連携と協力体制によって完成いたしました。

テレビの父・高柳健次郎先生も登場！

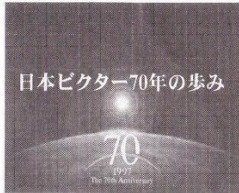


収録曲65曲でタイムスリップ

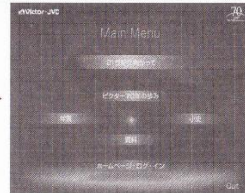
●<主な曲名>波浮の港/東京音頭/異国の丘/有楽町で逢いましょう/潮来笠/世界は二人のために/てんと虫のサンバ/襟裳岬/UFO/いとしのエリー/Glass など全65曲

TV-CMの名作も

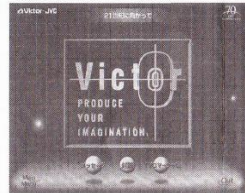
●なつかしいテレビコマーシャル、ヒット商品の名作CMもいくつか収録。テレビの父・高柳先生の元氣な姿もテレビのコマーシャルで登場(写真)



イントロダクション：過去から現在までを走馬灯のように登場させます



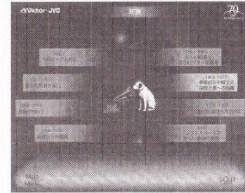
21世紀に向かって・70年の歩み・年表・小史・資料・ホームページログインの6項目で構成



ビクターからのメッセージ、社長対談(L・ベッソン監督)とテレビCM



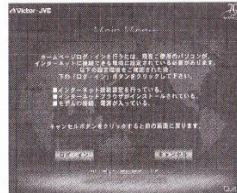
V70企業イメージ広告で映画フィフス・エレメントと連動したTVCM



年表：経営・ハード・ソフト・業界／社会に分類。懐かしいヒット曲も

MAIN MENU	
●21世紀に向かって	●70年の歩み
●年表	●小史
●資料	
21世紀に向かって	
●メッセージ	
●対談(守随社長：リュック・ベッソン監督)	
●テレビCM(V70企業イメージ)	
年表(経営・ハード・ソフト・社会)	
●犬のマークと共に	
●音の昭和史を拓く	
●激動の戦時下	
●虎雄からの復興	
●新しい経営と音のビクターの躍進	
●事業部制の確立と国際企業への飛躍	
●映像記録文化を世界に	
●ハードとソフトで新しい価値の創造へ	
70年の歩み	
フォトストーリー(写真と音声による物語)	
●1800～1927 犬のマークと共に(前史)	
●1927～1938 音の昭和史を拓く	
●1938～1946 激動の戦時下	
●1946～1953 虎雄からの復興	
●1953～1966 新しい経営と音のビクターの躍進	
●1966～1978 事業部制の確立と国際企業への飛躍	
●1978～1993 映像記録文化を世界に	
●1993～1997 ハードとソフトで新しい価値の創造へ	
小史	
●製品技術	
●エンターテインメント	
●国際化	
●プロモーション	
資料	
●役員	
●資本と経営の推移	
●資本金の推移	
●売上・利益推移	
●従業員の推移	
●組織概要	
●国内拠点	
●海外拠点	
●関係会社	

ホームページ ログ・イン



Windows, Mac 別に設定条件を確認。ログ・インボタンをクリックするとブラウザを自動立ち上げし、ビクターホームページへオートログイン



従業員向け申込みのご案内

●各部門・職場で必要に応じて閲覧できるよう、4月中旬に職場単位に配布いたします。個人的に希望される方は、今号折込みの申込み用紙で申込んで下さい。

国内・Domestic

TOPICS・トピックス・TOPICS・トピックス

海外・Overseas

京浜地区一斉の総合防災訓練



本社に設置された全社防災委員会

早大卒業・入学式にILAが活躍



3/25の卒業式は明るいILAで好評

国内6番目のISO14001取得



3/12の本審査でマニュアル規定を説明

横浜/本社工場・3.4

当初、京浜地区一斉の総合防災訓練が横浜を中心に実施され、本社、大和、林間、横須賀、久里浜、鶴ヶ峰、大倉山、(営本)神奈川支店の8事業所とVDS、NRC、カナリヤ電子など5関連会社の13事業所対象で行われました。続いて全社防災委員会が本社工場で開催され、災害対策本部と現地間で報告や確認が行われた後、避難訓練や通信方法などが無事終了しました。(総/三重野さん提供)

東京/アイレック・3.25

今年3回目となったILA使用のマンモス卒業式(1日2回)で、2台のM320Sからステージ左右の大型スクリーン(200インチ)に投写された迫力ある映像が大好評。4/1の入学式も同様、ILAが使用されます。これは、シ営本・PS事・アイレックなど全社の見地からの対応で、既に1台納入(常設)に加えた次の販売や他大学へ波及効果へもつなげていきます。(アイレック/武藤さん提供)

水戸/メ本・3.25

メディア事業本部・水戸工場(精機事含む)のISO14001の取組みは昨年からの本格化、1月初動審査に引き続き、3/11～12でJACO本審査を完了。3/25判定委員会が正式に認証登録されました。水戸は電力、石油の大量消費と多量の有機溶剤使用から当社で最も環境負荷の高い工場。この認識にたち、長年の環境改善活動の結果が今回の成果に結びついたものです。(メ本/長谷川さん提供)

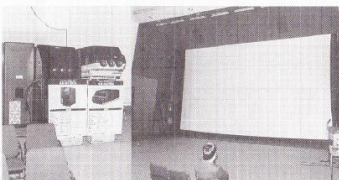
ILA・デジタルS・カーオーディオ・DVCで元氣なJVC



JVC コースターが付けられたフォルクスワーゲン

スペイン/JSP・3月
春爛漫のパレセロナから明るい話題イッパの「GOOD NEWS」をお届けします。
●今年の夏、リスボンで開かれる20世紀最後の「万博でJVCのILAが大活躍」。スペインとベネズエラ、トルコの展示館で、ILA8台とTV他多数の契約がまとまりました。
●期待の「デジタルSは大手製作会社に納入」。これは国営放送：TVE傘下の高視聴率製作会社で、これを足掛かりに今後、国営放送本体やその他にも鋭意売込みを仕掛けています。
●「カーオーディオがフォルクスワーゲン・スペイン社へ納入決定」。初年度は2万台強の出荷で、今後はモビール事業部の協力のもとで、新しい芽を大事に育てていきます。
●「DVCはシェア55%(GfK調査会社)でJVCがダントツTOP1」。まだDVC比率は低いものの「DVC is JVC」をスローガンに、今後もトップの座を死守します。(JSP/MR. MARINO, MR. BARTRAさん提供)

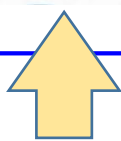
ILAでサッカー中継をテスト視聴



12000ルーメン(M12KSC)と400インチの大迫力

大和/TEPS統・3.1

テレビ事業部・プロジェクション統括部では、大和工場視聴室(400インチ大画面)でILAによるサッカー中継をテスト視聴。当日開催のサッカーダイナスティカップ98・日本対韓国戦(横浜国際総合競技場)の模様をNHK、NTTなどの協力でデモ中継。これには佐々木専務、喜志(子事)長はじめ、営本、シ営本、海営本など関係者約80名が集まり、今後の実施に向けた問題や課題を話し合いました。(テ新事聞/古田島さん提供)



タイトル「V70記念事業CD-ROM社史、70年のあゆみを映像と音と文字で」
ビクターニュース-15
発行月日：1998年
H10.4.1
発行NO.：618
面(頁)：2-3

記事内容「70周年記念事業の1つ「CD-ROM社史」が完成、主な2-3を紹介」

同ページ開催記事：3件

部品事業は今！

C&D事業グループ
最新線レポート

カナリヤ電子工業株

事業部の一員になりきり体質強化・意識改革

【カナリヤ電子工業株の沿革】
・1958年創立 カナリヤレコード工業(株) 横浜工場近くの横浜市鶴見区(現地)にレコードプレス専門工場として誕生
・81年 ビクター出資100%、社名変更
・82年 フェライト単結晶炉の稼働
【事業概要】
・ビデオヘッド用基幹素材の単結晶フェライト生産加工(結晶生成、切断加工)
・販売先：郡山工場へ全数量を納入(製品は外販多数)・従業員：約60名
【単結晶フェライトとは】
ビクターが開発、シェア50%以上
●Mn, Zn, フェライト単結晶はビク

変化に即応した計画的生産体制を

①2001年に向け、MINI-RIAL 手法による体力(コスト)ある生産体制の構築
②急激な市場変化へ追従のため、ビクターと一体で生・販・在の一元管理の推進
③働きがいのある、明るい職場づくり(製造が物作りに専念でき、成果が明確に見える事が経営の基本・原点)
【今後の課題】
●更なるコストダウン、積極的な新商品開発で、小さくとも世界の一流をめざす。
●現業フェライトで確実な利益確保。新商品(NON-MAG, LBO)の早期事業化。
●売上目標：月商1億円を目指す。
●今年は40周年、全員で意識改革
●今年は創業40周年。全員が意識改革に燃え、元氣あふれる活動に取り組んでいます。(郡山工場見学交流会など実施)

好評です！W杯ビデオテープ「HG3本パック」

★ここがポイント (プランク官/幹部さん談)
①W杯録画のための専用モデル(限定品) <パッケージにトロフィーをデザイン>
②ケース：青/白/赤3色&三角外ケース：2色 <130分：青ケース、168分：白ケース>
③全出場国が揃ったオリジナル大型ラベル <カラーの国旗など、日本国旗は3枚>
★いよいよ4月から全国店頭で登場！
★お店からは大好評。ファンの反響も必至。
★どうして？ 130分と168分の3本パック →試合の前後シーンや延長戦にも安心です
★本数が不足なら、もう1パック買って！



右フェライト単結晶インゴット(同筒状)
右円筒からマッチ棒位の薄片にして出荷検査
フェライトプレートの切断・溝入れ工程

S-VHS ET [S-VHSの拡張機能] を開発

VHSテープで解像度400本以上の高画質記録

（技ビ開）＝技術開発本部・ビデオシステム開発研究所では、S-VHSの拡張機能としての新技術「S-VHS ET [Expansion Technology]」を開発しました。これは通常のVHSテープ（ハイグレードやスタンダード）で、解像度400本以上の高画質記録を可能にしたもの。デジタル化が進む放送メディアの高画質化やディスプレイの大画面化に対応したこの新技術によりS-VHSの新たな普及・拡大が期待されます。

その技術発表会が4/27、東京・帝国ホテルで開かれ、集まった多くのマスコミ記者を前に、清水常務からVHSの進化と発展、VHS全世界需要と発展性、放送メディア・映像環境の変化、S-VHS ETの技術解説と今後の展開などについて詳しい話がありました。その後（ビ技一）石井さんより、2台のモニターによる映像比較（VHS:S-VHS ET）とS-VHS ETの優位性について解説とデモが行われました。



発表会で挨拶する清水常務。企画意図など含めて説明

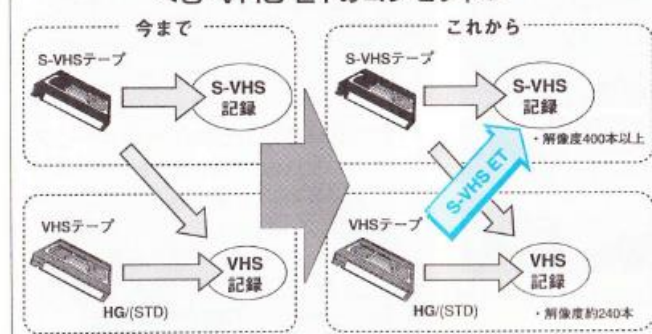
3つの新技術（記録方式・ヘッド・プリアンプ）

●「S-VHS ET」は、VHSの約1.6倍という広帯域記録が必要となるため、3つの新技術システム ①高解像度記録方式、②ET対応高性能ヘッド、③ET対応プリアンプ を確立しました。これによりVHSテープでもS-VHSと同等の解像度400本以上（標準モードも3倍モードも可）が実現。但し、カラーS/Nなどが低下するため、HGテープの使用を推奨します。

「S-VHS ET」搭載デッキは今夏発売予定

●「S-VHS ET」を搭載したVTRデッキは、今夏ごろ発売予定で、価格は従来型S-VHSデッキにわずかにアップの見込み。今後、NTSC方式のガイドラインを策定、ハード・ソフトメーカーに提案し、広く採用を呼びかけると共に、PAL方式にも順次対応していく予定です。また海外メーカーにもSQPB機能（S-VHS簡易再生）の採用・普及を積極的に働きかけ、国内外での拡大展開を図っていく方針です。

<S-VHS ETのコンセプト>



<S-VHS ETの互換性>



日本ビクター・社内報（月2回発行）
日本ビクター株式会社 広報室
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12
☎ 045-450-1493 Fax 045-450-1498
発行責任者/中村 誠
印刷/ビクター興産株式会社

ポータブル MDプレーヤー他、強力なMD4機種 再生専用ポータブルMD市場に参入

キャラクターに「LUNA SEA」を起用

オーディオ事業部は、MD戦略を強力に推進する期待の新商品「ポータブルMDプレーヤーほかMDオーディオ4機種」を発表。その発表会が7/23、28'SギンザB1ホールで開かれ、多数の記者が詰めかけました。

はじめに(AVM本)の新本部長に就任した海老常務から挨拶があり、MM時代を迎えたビクターのニューAV商品にける取組みの決意が示されました。

次に平林(オ事)長より「今回は音の良さへのこだわりとメカトロニクス技術で、ビクターらしさを盛り込んだ。今後MDを中心に積極的な面展開を図っていく」というMD戦略の考え方の話、続いて商品企画/清水さんより、商品特長説明とデモが行われました。

女性の商品説明・デモが分かりやすいと好評

今回は女性による初めての商品説明で、ユーザー調査など自ら実際に行った体験に基づいた説明や分析結果による企画の狙いがハッキリと示され、記者からは分かりやすかったと大変好評でした。



発表会のはじめに挨拶する(AVM本)長の海老常務

最後に、営業担当/平塚さんより、「宣伝の目玉はイメージキャラクターに「LUNA SEA(ユニバーサルビクター)」を起用。ユーザーキャンペーンに加え、アルバム発売や全国コンサートツアーなど積極的なタイアップを図る。ビクターグループのハード&ソフト一体の販促を展開し若いファン層を攻略する」との力強い説明がありました。(関連記事：6面)

◆海老(AVM本)長の話(要旨)

「独自の開発技術とマーケティングに力を入れた商品づくりで、多様化するユーザーの期待に応えていく。今回のポータブルMDは市場では後発となるが、それだけにユーザーの声を反映し、ビクターらしい商品に仕上げた自信作。今後は、MDをはじめ「D」のつくDVC/D-ILA/D-VHS/DVD/MDの5つのニューAV商品を一層強化していきたい」



商品企画の狙いなど、ユーザー調査結果をもとに分かりやすく説明する清水さん

「ヤツに勝つMD」
重(黙)低音で差がつく
ビクターのMD自信作!

■ポータブルMDプレーヤー

XM-P55 35000円(9/1発売)
スリムで軽い(薄さ16mm
約103g)。高音質・多機能のMDジャケットサイズモデル。3色展開

■ポータブルMDプレーヤー

XM-PJ1 35000円(11/2発売)
本体に蔵電池で業界最長
16時間連続再生。ディスクの取り出しが簡単な新開発メカ搭載。2色展開

■パワードウーハー CD-MDシステム

RD-MD5 62000円(9/21発売)
10cmスーパーウーハー・2
本搭載。新提案のCD-
MDシステム

■コンパクトコンポーネント MDシステム

MX-MD700 117000円(9/1発売)
3枚MD&CDチェンジャー、Wカセット搭載のオールインワンMDコンボ

'98ヨーロッパアワード受賞

<EISA> Awardsに3モデル!

- ★コンパクトシステム UX-MD9000R
- ★カーオーディオ KD-MX3000R

ビクターニュース-17

発行月日 : 1998年 H10.8.5

発行NO.: 625 面(頁): 1

タイトル 「MDプレーヤー他強力MD4機種、再生専用ポータブルMD市場に参入」

記事内容 「7/24、MDオーディオ4機種の新商品発表、CD-MDシステム、コンパクトコンボ等」

放送業務用デジタルS「ブロードキャストシリーズ」発売

市場動向をふまえた高画質化で国内市場にも注力

プロビデオ事業部は、放送局やハイエンドプロダクションなどに向けた業務用デジタルビデオ「デジタルS ブロードキャストシリーズ」を発売します。

今回発売される「ブロードキャストシリーズ」は、現在の「スタンダードシリーズ」、ローコストタイプの「セレクトシリーズ」に加え、最上位にランクされる高画質・高音質タイプで、今後の中心モデルとして力をいれていくシリーズです。（詳細は次号10/15）

VTR一体カメラ、レコーダー、プレーヤーの3種

発表会は多数のマスコミを集めて9/8、28'SギンザB1Fで開かれました。はじめに、中田(PV事)長から「このシリーズは300万円クラスの高画質・高音質タイプで、お客様の声を反映し操作性も向上させた。国内市場強化の中心モデル。2000年に向けたデジタルTV対応デジタルS100MHzカムコーダー、デッキも今後投入していきたい」と力強く挨拶。続いて、詳しい技術説明が(PV技)西本さん、河野さんから行われ、デモ映像や比較視聴、カメラの軽量化などが実演されました。最後に(PV営)関さんから、今後注力していく営業戦略などについての説明がありました。

●前号(9/15)特集「プロジェクト2000」でご案内のように、昨年の70周年で打ち出した21世紀ビクターのアイデンティティー＝“ハードとソフトで新しい価値をプロデュースする企業”の実現が「プロジェクト2000」の目標。今後、社内外に新デザインロゴで21世紀ビクターのメッセージを発信していきます。

◆21世紀ビクターのアイデンティティーを伝える「コミュニケーションキーワード」＝



発表会の画質比較をデモ。終了後も質疑が続きました

<ブロードキャストシリーズ>

- 3 CCDカメラレコーダー「DY-90」240万円(11/1発売)
- ビデオレコーダー「PR-D92」305万円(9/16発売)
- ビデオプレーヤー「PR-D52」240万円(9/16発売)

<主な特長>

1. 高画質デジタルビデオフォーマット「デジタルS」採用
～4:2:2/50Mbpsコンポーネントデジタル処理、独自の圧縮伸長技術
2. 高音質4チャンネルPCMオーディオを装備
～16ビット48kHzサンプリングの高音質デジタルサウンドを4チャンネル装備
3. 小型・軽量3 CCDカメラ/VTR一体型レコーダー(DY-90)
～2/3インチ3 CCD搭載デジタルカメラを一体化、質量約6.9kg
4. スワップコントロール機能(PR-D92)
～レコーダー側の操作でプレーヤー側VTRコントロールが可能
デジタルVTR「デジタルS」は、発売2年で累計約1万台を受注、200局の納入実績を上げています。
今回のシリーズ強化により、デジタルSは国内外へ一層の攻勢がかかり、さらなる拡販が期待されます。

デジタルダイレクト(マスターテープレス構想)により
原音に限りなく近いソフト制作を実現

DIGITAL K2



Digital K2 システムユニット

CD、DVDオーディオの音質向上 新技術「DIGITAL K2」開発

技術開発本部(マルチ開研)とビクターエンタテインメントの録音・制作部門は共同で、CDやDVDオーディオなどのデジタルオーディオメディアの音質向上を図る新技術「DIGITAL K2」(デジタルK2)を開発。このたび、当社の(VE)青山スタジオや(メ本)メディアプロデュース事業部(=MP事)における、CDソフト制作工程(録音、マスタリング、カッティング)の各プロセスに導入することに成功しました。

その発表・試聴会が9/24、青山スタジオで開かれ、(VE二)本津洋楽)植田部長の挨拶のあと(マルチ開研)桑岡主任技師より技術説明。引き続き試聴会に移り、最新の新譜から高音質録音のジャズの名曲などが披露されました。

この「DIGITAL K2技術」は、オーディオ分野だけでなく、コンピュータ、通信、放送など幅広いデジタルメディアへの応用展開が可能です。(詳細記事：次号(10/15)掲載)

PRODUCE YOUR IMAGINATION.

ビクターニュース-18

発行月日：1998年 H10.10.1

発行NO.：628 面(頁)：1

タイトル 「放送業務用デジタルS発売、市場動向踏まえた高画質化」

記事内容 「デジタルS「ブロードキャストシリーズ」発表、高音質4chPCMオーディオ装備」

D-VHSでソニーと提携、共同開発

互いに強みを生かした新しいコラボレーション

当社とソニーは、デジタル放送やネットワーク時代に対応する“IEEE1394（デジタル信号送受信技術規格、下記参照）”を採用した「D-VHSシステム」を共同開発することで、このたび技術提携しました。

その共同発表会が3/29、東京・大手町アーバンネットで開催、当社からは清水専務、ソニーからは井原常務（ホームAVカンパニー・プレジデント）が出席。会場にはマスコミ関係やTV局など多数の記者が詰めかけ、高い関心と大きな注目を集めました。

はじめに清水専務から、①デジタル時代を迎えたホームAVの動向 ②VHSのインフラと進化・発展③D-VHSの特長と今後の展開 ④提携・共同開発の狙いなどについて、技術解説も含めた話がありました。

【清水専務の話（要旨）】 商品化は今年の夏ごろ

●D-VHSはテープメディアで大容量、低コストという有利なシステム。今回の提携でデファクトスタンダード（業界標準）へ一歩前進したことになり、今後は参加メーカーへも呼びかけたい。商品化は今年の夏ごろを予定。海外は著作権問題がクリア後に。次にソニー/井原常務から、提携の考え方と役割、IEEE1394の経緯と今後の取り組みなどの話がありました。その後記者から多数の質問が相次ぎました。

今回の提携は、ビクターの強みであるビデオ技術とソニーの強みであるネットワーク技術を結びつけ、お互い強い分野で協力し合おうということです。

これからの時代の技術開発は、得意とする技術を結びつけて役割分担して協力し合う形（エクステンディッド・コラボレーション：相磯監査役の言葉より）が求められており、これが実現したわけです。今回の提携によりD-VHSシステムの共同開発に加えて、次への展開、発展へとつながることが期待されます。



発表を終え、今後の成功を誓い合って、ガッチリ握手する清水専務（左）とソニー/井原執行役員常務（右）

◆D-VHSの特長◆

1. 現行放送のアナログ記録に加え、デジタル放送のビットストリーム記録が可能
2. テープメディアの特性を生かし、大容量（約44ギガバイト）のデジタルデータ記録が可能
3. 現行VHSとの互換性を維持し、全世界に蓄積された膨大なVHS映像資産の再生が可能
4. 現行のVHS技術や部品、生産設備が共用でき、家庭用としての普及、発展が可能
5. デジタル機器相互のシステム結合を見据えた「IEEE1394」インターフェースを採用

◆IEEE1394(*)インターフェースの特長◆

1. ケーブル1本で接続可能なデジタルインターフェース
2. デジタル化された大容量の映像・音声データを高速に送受信可能
3. データの他、コントロール信号も送受信可能
4. さまざまなデジタル機器と接続でき、連携したアプリケーションが可能

*95年にIEEEによって規格が確定。ユーザーへの認知度向上と普及を図るため、ソニーは97年4月より「i-LINK」の名称・ロゴを提案、現在使用している。

JD99商品は「ビクターを変える原動力であると共に、ビクターらしさを主張する強力モデル。一方、先般開催の「映像メディアの世紀」出版記念イベントは、ビクターらしさをアピールし、今後の復活を勇気づけてくれる意義あるイベントになりました。今回は、ビクターらしさの復活をテーマに、JD99重点モデル各担当者にビクターらしさの自信のコメントをいただき、原画展イベントでは佐藤正明氏講演会を中心にまとめました。

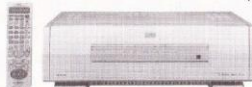
JD99

重点商品

ここがポイント!ビクターの強味

D-VHS コーデック機

HM-DR10000
●最長24時間のデジタル記録ができるLS3モード搭載
●新開発MPEG2エンコーダー/デコーダー搭載、アナログ信号のD-VHS記録可



198,000円



21世紀のデジタル・デファクトスタンダードへ

(ビ商企)
並木 部長

「ビクターはVHSの開発メーカーであり、デジタルにおいてもしっかりと業界標準に育て上げていく責任があります。その意味でD-VHSの開発には、これまでの思いと知恵をすべて盛り込んで取り組んできました。HM-DR10000はアナログ信号もデジタル記録できるオールマイティD-VHSとして市場より絶大な評価をいただきつつあります。第1に、デジタルのメリットである高画質、長

時間記録。第2に、デジタル記録でもノイズレスのサーチを実現したり、番組などの検索に便利なビデオナビゲーション機能など使いやすさの追求。第3に、i.LINK端子を搭載してシステム性を重視するなど、ビクター独自の特色を実現。おかげさまで、すでにバックオーダーが初期出荷台数を超え、高額商品としては異例な反響。すでに生産は月産倍増に拡大しました。まさに21世紀のデジタル・デファクトスタンダードD-VHSを体現する商品です。」

ILA テレビ

HV-D50LA1
●業界最高クラスの高解像度
●世界初「D-ILAホログラム素子」採用による高信頼性
●上下左右に幅広い視野角
●薄型45cmで設置が容易



850,000円



他社に脅威を与える大きな反響

(テ大画面戦)
古田 副参事

「この商品の開発にあたっては、事業部の枠を超えた開発プロジェクトとマーケティング・販売・広報・宣伝などを統合した全社プロジェクト(名称:極(きわ)プロ)の両面からの取組みで商品化に成功しました。商品発表以降は大変反響が大きく、AV専門誌はもちろん、いろいろなライフスタイル提案の雑誌からも取材の申込みが入っています。エリショーでも同業他社からの質問が多く寄せられ、例

えば、単板のD-ILAホログラム素子が業界の常識をはるかに超える高密度なのはどうしてか(1平方ミリメートル当り9000画素以上)など、明らかに他社に脅威を与えています。メーカーによっては大画面戦略を見直す動きもあるくらいです。これから続々とDVD化される映画やいよいよ始まるBSデジタル放送など高品位なソースが揃うことでILAテレビの力がますます発揮されるようになります。世界展開・サイズ展開を図り、大画面の決定版になるように事業部挙げて取り組んでいます。」

インター リンク

"InterLink" MP-C101
●WindowsCE搭載
●幅21cm×奥行き15.3cm×薄さ約18cm、質量720g
●感動のシーンを動画と声で送れるAVリンクメール



オープン
プライス



他社では思いつかない商品に仕上がった!

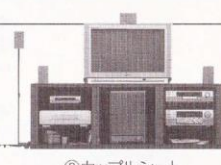
(AVM本情開一)
八子 部長

「9月から市場に導入して大好評のInterLinkですが、最初にダメーを見たときは、今までのモバイルPCとはまったく違ったスタイリッシュなデザインと薄さで、こんなサイズで出来るはず無い! と思いました。世界最薄のモバイルPCを何とか開発することが出来ました。初めてモバイルPCをやったメンバーばかりだったので、最初のESを作ってから動作するまでに何ヶ月もかかっ

たり、電池だと起動できなかったり、部品がはみ出て蓋がしまらなかったりと毎日が苦勞の連続でしたが、事業部、(技マ開)、(マルチ開)をはじめ、プロジェクトメンバーの熱い思いで一つ一つ解決しました。モバイルAVコミュニケーションというコンセプトを掲げ、WindowsCEで動画メールを実現するなど、ハード、ソフトともにPCをやってきた他社では思いもつかなかったような素晴らしい商品に仕上がったと自負しています。今後とも、皆様のバックアップをよろしくお願いします。」

ホーム シアター

DIGITAL ADVANSTAGE
①エグゼクティブ②ファミリー
③カプルスシート④ライブシーン⑤マイルーム⑥ビッグスクリーン⑦ハイパーオーディオの7つのシーンコーディネート



③カプルスシート



ビクターならではのデジタルの楽しさを提案!

(営本販推) 販促G
様沢 グループ長

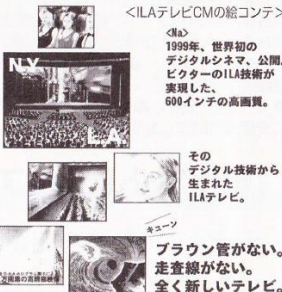
「9月から10月にかけて開催しましたEnjoy Digital Life21(JD99商品発表会)での特約店様の反応は予想以上に良かったです。なかでもD-VHSはデジタル時代に向けまさに取組みたい商品との高い評価をいただきました。ILAテレビへの期待度も非常に高いものでした。しかし、せっかくの商品も単品販売では「感動」を与えることはできません。D-VHS、DVDの高画質をILA

テレビの大画面でしかも高音質で楽しんでもらう動きかけが必要です。ビクターホームシアターシステムは、お客様のニーズに合わせて、さまざまな用途や生活シーンでのシステムを提案するもので、新しい売り方の提案です。また全国の(営本)支店・営業所で統一販促のビクターデジタルライフフェア(ホームシアター感劇体験会など)を展開していきます。JD99 商品・ホームシアターでビクターならではのデジタルの楽しさをシステムで提案し、新しい需要を創り下期の販売確保を図ります。」

年末商戦を強力にバックアップ!

JD99 広告・宣伝 コア商品

- D-VHS&ILAテレビ:日経新聞30段見開きカラー(12/上旬)/提供番組テレビCF(11/末~12/末)/CS番組スポン(映画、スポーツ、ドキュメンタリーCH等)/雑誌
- D-VHS:大型私鉄ボード(11/17~12/7)
- DVC:JR首都圏ドア横額面広告(11/22~28)/首都圏TVスポット(11/27~12/5、11~12)雑誌
- MD:中刷り広告(東京、大阪、11/中~12/中)/雑誌



<ILAテレビCMの絵コンテ>

<ILA>
1999年、世界初のデジタルシネマ、公開。ビクターのILA技術が実現した、600インチの高画質。

そのデジタル技術から生まれたILAテレビ。

ブラウン管がない。走査線がない。全く新しいテレビ。

ビクターらしさの復活!



日経BP社刊。1900円(税抜)

『映像メディアの世紀』著者を5名様に!

★今回の発行を記念して、5名様に抽選でプレゼント!
◇メモ用紙に、所属、氏名と質問 ①「映像メディアの世紀」のどこに興味があるか ②ビクターニュースに掲載して欲しいことを書いて、社内メールで送ってください。

◇送付先:横浜工場・本社(広)社内報G (Eメールも可)
内線 8-40-3437 FAX 8-40-3703(045-450-1498)
アドレス 23514@skt.jvc-victor.co.jp.msato@yh.jvc-victor.co.jp

■ビクター興産からも社内販売中! ~商事部(担当 横島)

◇問合せ: 内線 8-40-5338 外線 045-450-1768まで、代金は給与控除。

~詳しくは社内配布の案内文書をご覧ください。★販売価格1710円(税抜)

プレゼント & 特別販売



5日間で2000名の来場者

- 《映像メディアの世紀・イベント概要(11/1~5)》
- 原画展~日経ビジネス連載のイラスト原画を展示。
同時にVHSの進化・発展、歴代モデル等展示
 - 「D-VHSの秘密」講演会~(ビ商企)並木部長が解説。
 - 西口司郎ブックイラスト展~本のカラーやイラスト作品。ビクターデジタルフェア~D-VHS、ILAテレビ、モバイルPC、ホームシアター等でアピール。
 - 映像メディアの世紀記念販売/佐藤正明氏講演会[右記]。~5日間で約2000名の来場者にイメージアップが図られた。

映像メディアの世紀・原画展から学ぶこと

ビクタースピリット再構築を 21世紀を生き抜く知恵と勇気

日経ビジネス連載「映像メディアの世紀」の単行本発行を記念し、11/1~5まで新橋ビル・ニッパースギンザで原画展や著者/佐藤正明氏講演会などを中心とした多彩なイベントが行われました。この中で、VHS試作機からD-VHSまで進化したモデル展示、VHSの歴史や諸先輩の映像、そして「映像メディアの世紀」著者/佐藤正明氏の講演会などを通じ、デジタル時代となった今、改めて学び取ることで、これからの21世紀を生き抜く教訓や多くの示唆を与えられた場面でもありました。ここではイベント全体の結果概要[左記]と、佐藤正明氏の講演会の内容(要旨)をまとめました。



B1Fでは日経ビジネス誌連載のイラスト原画展



B1FでVHSの進化と発展。歴代のヒットモデルも



モバイルPC「インターリンク」コーナー



話題のILAテレビ。質問も多数



D-VHSやDVCは人気のコーナー



D-VHS講演会は毎回満席(11/3、4)



2Fでは西口司郎ブックイラスト展



▲佐藤 正明氏

■「映像メディアの世紀」著者/佐藤正明氏講演会[要旨]

テーマ ビデオ・男たちの産業史~夢とロマンと不屈の魂~

<佐藤正明氏プロフィール>日本経済新聞社・編集局産業部長を経て現在、日経BP社取締役編集担当補佐兼ビジネス局長。1982年「トヨタ・GM提携交渉に関する特報」、1996年「ホンダ神話 教祖なき後」で「大宅壮一ノンフィクション賞」受賞。他に「巨人たちの握手」など。

デジタル時代に必要な規格の大切さ!

◆日本で開花したビデオ産業

日本は米国の物マネから始まったが、家庭用ビデオは日本で始めて世界をリードする産業となり、VHSがデファクトスタンダードとなった。

その背景として、日本では時差がないのに対し、米国は東西で3時間もの時差があるため、家庭用にはビデオという発想は生まれなかったのではないか。(放送局用は米で開発された) また家電産業として全メーカーが一つの商品に必死になって取り組んだのはVTRが初めて。

◆局用でビクターとソニーは違ったやり方

放送局用VTRは米国アンベックス社が開発、世界各国に納入された。日本ではビクターの高柳健次郎氏が独自の2ヘッドVTRを開発。ソニーは井深氏の方針でアンベックス社を土台にし、後で独自技術を入れるというやり方をとった。つまり先発メーカーの規格を満たさないと、どんなにいい商品を作っても売れない。しかもハードが普及する程、規格の価値は高くなる。

◆家庭用ビデオにおける両社の違い

ビクターとソニーのビデオ戦争といわれた規格争いで、VHSが勝利を収めたのはポリシー・理念の違いである。残念ながら、ビデオについてはソニーの独善性が敗因。これに対しビクターは、明確な企画コンセプト作りと各メーカーが作りやすいように規格化、さらに互換性を重視した。

◆無限の可能性あるデジタルにも落とし穴

時代はデジタル。デジタル技術を持てれば何でも出てしまう。しかし、DVDなど規格統一されず、バラバラで動いている。どこかで線引きし、使いやすい規格が必要だ。無限の可能性があるだけにどこかで歯止めをかけておかないとダメ。ビデオの教訓を生かすべきである。



会場いっぱいのお客様で盛況の講演会

◆語り継いでも、受け継がない経営

経営の神様といわれる松下幸之助。ホンダの本多宗一郎。ソニーの井深大、先日亡くなった盛田昭夫。そしてビクターの高野鎮雄など日本に優れた経営者は多い。[敬称・解説略] 「語り継いでも、受け継がない経営」といわれるが、これからの時代を生き抜くために、先人から多くの教訓や教養を学び取っていくべき。

◆最後に——高野さんの心意気に感動

私が電機業界を担当して間もない頃、VHS対ベータのビデオ戦争が勃発。当時若かった私は、高野さんに取材を申し入れたが、「VHSは共有財産。私個人が勝手に話せない」と断られた。その後、他に取材して書いた本を見せたら「大体合ってるが細部は違っている。でも良く取材したね」と言われた。それから付き合いが始まり、「たとえ会社がつぶれても、規格を守るべきだ」という心意気に感動した。そうした思いでこの本を書いた次第である。改めて高野さんに感謝!



<高野さんの言葉より>

感動によって 人を動かす

- 責任者自らが方針を打ち出し、引く張って行かないと、この動乱期は乗り切れない。そこでトップダウンをやろうとしたら、取り巻きが重要な役割を持つ。周りをイエスマンや現場を知らぬ官僚などで固めたら最悪である。取り巻きは好き嫌いでなく、個性豊かであるいろいろな考え方を持っている連中、多方面にわたる人材を集めて意見を言わせる。
- ビクター全体が浮かれているように思う。社内には澤山のんびりムードはビクターの将来に必ずや過剰を残す。信賞必罰と公正な人事が望まれる。
- 会社には序列やルールがあるから、権力を使えば社員は上の人に従うには当たり前だ。しかし権力やルールで社員を指示しても本当に人が動いてくれるわけではない。権力を使って人を動かすのではなく、感動によって人を動かすのが真の経営者だ。 ~「夢中で…」より抜粋

日本ビクター・社内報(月1回発行)
日本ビクター株式会社(CC)広報室
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12
☎ 045-450-1493 Fax 045-450-1498
発行責任者/一條 裕
印刷/ビクター興産(株)プリント部

2000年 経営スローガン

CREATE OUR TIMES

—新たな道を拓く—

MDの長時間対応モデル発売

新規規格MDLP(ロングプレイ)モードで最大5時間20分(80分MD使用)

AV&Mカンパニーのパーソナル&モバイルネットワークビジネスユニット(AVP)は、MDの新たな規格である2倍/4倍(ステレオ)長時間録音・再生が可能な「MDLP(ロングプレイ)モード」を搭載した強力なMD新商品を4機種フルラインナップで発売します。

(AVP)は、このMD新規規格が決定された時点から商品化に着手。今回の新商品フルラインナップを発表した7/18には、MD規格ライセンスを持つソニーからも同様に商品発表されましたが発売は9月であり、当社は業

界に先駆け、一足早く7月から市場投入するものです。

MD関連構成比75%に拡大、シェアUPを目指す

7/18、主要マスコミへの発表会で、(AVP)BU長の平林取締役は「2001年度のオーディオ事業の方向性として、D&N商品構成比を5割以上とし、この新商品を武器に、MD関連構成比を75%に拡大する。シェアもMDポータブル10%以上、MDシステム/デッキ15%を目標に攻勢をかけていく」と決意を込めて挨拶されました。

業界に先駆け、7月にフルラインナップで投入!

ミニコンからポータブルまで4機種



コンパクトコンポーネントシステム「MX-S55MD」
マイクロコンポーネントMDシステム「UX-A70MD」

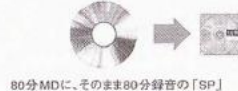


CD-MDポータブルシステム「RC-MD330」
ポータブルMDプレーヤー「XM-P2000」

<MDロングプレイ時代の楽しみ方>

◆音質こだわり派に～

①SPモード:従来の標準録音



80分MDに、そのまま80分録音の「SP」

◆音と長時間の欲張り派に～

②LP2モード:ステレオ2倍長録音



80分MDに、2時間40分録音できる「LP2」

◆たっぷり聴きたい派に～

③LP4モード:ステレオ4倍長録音
(80分MDで最長5時間20分が可能)



80分MDに、5時間20分録音できる「LP4」

欧州のEISA(European Imaging and Sound Association: 欧州映像音響協会)の2000～2001年度アワードのビデオデッキ、ホームシアター部門で、JVCの2モデルが最優秀製品賞を受賞しました。これは欧州でもっとも権威のある賞で、JVCは1996年のポケットデジタルムービーGR-DV1で受賞以来、ビデオ、オーディオ、テレビの各商品が5年連続獲得。今回の受賞も、今後の販売活動やブランドイメージアップにさらなる盛り上げが期待できます。



EISAの2部門で
最優秀賞を受賞!

～96年以来、5年連続～

<ビデオレコーダー・オブ・ザ・イヤー>
HR-9700



<ホームシアターシステム・オブ・ザ・イヤー>
TH-A10R



◆S-VHS ET搭載、新規規格EPモード(従来はLPモード:2倍)で最大録画時間は3倍。高画質と使いやすさが評価された。

◆一体型のDVD/CDシステムでサラウンドサウンドデコーダー内蔵、マルチブランドリモコンも装備しデザイン面も評価された。

ビクターニュース-21

発行月日: 2000年 H12.8.15

発行NO.: 656 面(頁): 1

タイトル 「MDの長時間対応モデル発売、業界に先駆け7月にフルラインナップ投入」

記事内容 「7/18、ミニコンからポータブルまでMDロングプレイ時代をリードしシェアアップを」

小型化はビクター!ポケットeムービー誕生

また

遂にやった!世界最小・最軽量

世界最小・最軽量、新世紀ポケットサイズのデジタルビデオカメラ「GR-DVP3」(愛称:ポケットe-move)が全世界に向けて新発売されました。(日本3月上旬、米4月、欧5月、引き続きアジア)。本体質量340g、Yシャツのポケットにも入る超ミニサイズで、今期の販売上積みへと期待を込めた強力商品です。

新しい試みの発表会で新鮮な感動

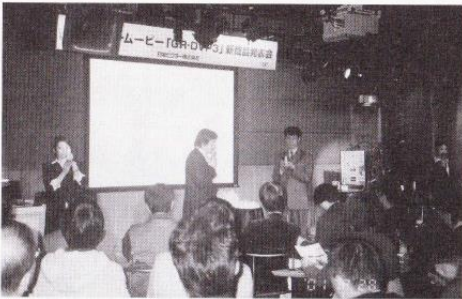
2/28、新橋ビルで行なわれた発表会では、デザイナーと商品企画担当が自ら「開発の想い」を語る、新しい試みで登場感を演出。約200名の報道関係者からも新鮮な感動と大絶賛!

意外性とユニバーサル、携帯性と操作性

■デザインセンター 商品デザイン室/宮森昭彦さん
デザインポイントは、「第一印象での意外性」と「ユニバーサルデザイン」。全然ムービーらしくないスタイリッシュとウエアラブル。携帯性と操作性へのこだわりから、利き手を選ばず左右どちらでも使える集中操作を実現。

キーワード: ポケット、パーソナル、PCネットワーク

■ホームAVネットワークBU 商品企画部/都築邦雄さん
3つの「P」がキーワード〜Pocket Size/Persona /for PC。世界最小・最軽量/個人が気軽に使える日常的な使い勝手の追求/ネットワークコミュニケーションツールとしてPCとの親和性の実現 が商品コンセプトです。



原寸大



DVCの世界シェア35%目指す

〈土屋取締役(AVH)長のコメント〉

●95年のDV1発売以来、一層の小型化を目指してきた。DVP3は2年がかりで開発した自信作! この世界戦略モデルを中心にDVCシェア全世界35%を目指す。

〈発表会の反響〉

●ずっと待っていた。遂にやりましたネ! 小型化はムービーの究極の目標、ビクターの底力を見せられた。
●これは凄い。この小型化はGR-DV1ではなく、Cムービーの

世界戦略モデル

ワイシャツのポケットに入る超ミニサイズ



GR-DVP3 235,000円(本体)

- ◆世界最小・最軽量(2/28現在)、本体質量340g
- ◆優れた携帯性を実現するユニバーサルデザイン〜スライドレンズカバー、クイックパワーオフ他
- ◆水平解像度520本の高精細動画を実現〜スーパーハイバンドカメラ回路搭載
- ◆プログレッシブ静止画(VGA/XGA)撮影
- ◆「ナイトアイ」〜低照度下でもカラー撮影可能
- ◆「MPEG4動画メモリ」機能 ◆USB対応
- ◆SDメモリー&マルチメディアカードスロット

【DVP3の主な仕様】

- 1/4型68万画素CCD ●レンズF1.8 ●ズーム10倍(デジタル200倍) ●2型カラー液晶モニター
- 外形寸法/43×115×80(mm)



3/5横須賀工場・出荷式、大ヒットを狙い、全員で結

ビクターニュース-22

発行月日: 2001年 H13.3.15

発行NO.: 665 面(頁): 1

タイトル 「小型化はビクター!ポケットeムービー誕生、遂にやった!世界最小最軽量」

記事内容 「ワイシャツのポケットに入る超ミニサイズ DVP3全世界発売、シェア35%目指す」

2001年 経営スローガン **Take This Chance!** *High Performance Global Company* の実現に向けて

オーディオ技術を映像技術に応用 **DVD-K2 新技術を開発!**

DVDビデオ／オーディオ／ROMの音質・画質向上を実現

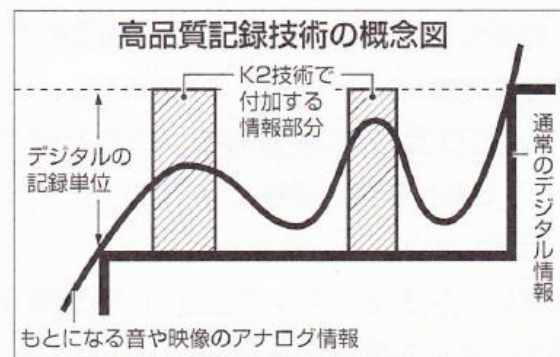
メディアカンパニーでは、オリジナルマスターに限りなく近いDVDディスク制作を実現する新技術「DVD-K2」を開発し、7/6にその技術開発の発表を行いました。

「DVD-K2」技術は、CDソフトの制作過程で培った音質改善技術「DIGITAL K2」を応用し、従来の技術ではデジタル化できなかった微少な音や映像の情報を盛り込むことで、DVDフォーマットの持つ高い能力を活かしたDVDソフトの制作を実現するもの。当社はこの技術をDVD制作プロセス各部門(MA/マスタリング/オーサリング/カッティング)に導入し、音質・画質を向上させた「DVD-K2」版DVDビデオ／オーディオ／ROMディスクの受注を開始しました。

各DVD制作プロセスの音質・画質向上技術であるDVD-K2マスタリング／DVD-K2エンコーディング／DVD-K2カッ

ティングの総称が「DVD-K2」です。(各DVD-K2技術の詳細は12ページを参照)

なおビクターエンタテインメントでは、クラシック・アーティスト村治佳織のDVDビデオソフトに「DVD-K2」技術を導入して今秋発売予定です。



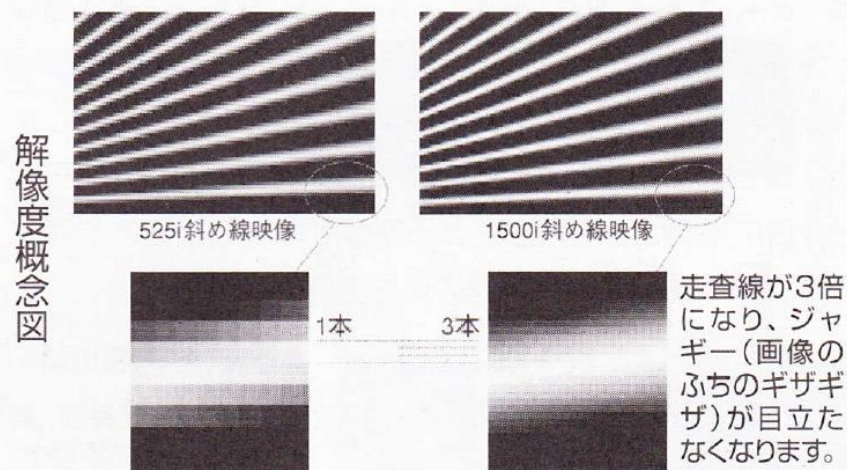
新世代高画質テレビ技術「DET」を開発！

AV&マルチメディアカンパニーは、現行放送やDVDビデオなどのNTSC映像(525i)からBSデジタル放送のD4信号フォーマット(525i/525p/750p/1125i)までの映像入力を上位変換し、総走査線数1500本で高精細表示できる独自の新世代高画質テレビ技術「DET(Digital Emotional Technology)」を開発しました。また主要デバイスとして、DSP(デジタル・シグナル・プロセッサ)および映像変換LSIを開発しました。(関連特許6件申請中)

この技術は、従来のプログレッシブ変換では成し得なかった高精度なIP(インターレース→プログレッシブ)変換を行う基幹技術で、多様な放送フォーマットを常に最適な高精細映像で再生する“統合表示フォーマット”です。

この基幹技術「DET」は、ブラウン管をはじめ、プラズマディスプレイやD-ILA等の大画面高精細ディスプレイに

幅広く応用展開することが出来ます。またNTSC・PAL両方式への全世界展開も可能で、未来型テレビの基幹となる技術として大いに期待できます。なお今後発売する当社のテレビには順次搭載して商品化していく予定です。



ビクターニュース-24

発行月日：2001年 H13.9.20

発行NO.：671

面(頁)：1

タイトル 「新世代高画質テレビ技術「DET」を開発！」

記事内容 「映像入力を上位変換(IP変換)、走査線1500本で高精細画像を実現」

V75商品で下期への流れをつくらう!

上期もあと1ヶ月半となりました。W杯サッカーや映画「陽はまた昇る」の好材料を生かした第1四半期から、第2四半期は話題の新商品の拡販や国内外の総合力を結集して上期の事業計画を達成することが重要なポイントです。



大画面プラズマにピッタリのシアターシステム (6ページ参照)

国内では8月上旬に発売するDDスピーカー採用のシアターシステム(DVDレシーバー/DDスピーカー/サブウーハー)が、DET®搭載のプラズマディスプレイテレビと組み合わせでお求めやすい価格で提供できる新しい提案の新商品として、市場での拡販が期待されています。※DET:海外ではDIST

欧州ではEISAアワードでDISTテクノロジーが技術賞を受賞し、また海外で好調なカーAVの跳躍など、国内外で当社の高音質・高画質技術が注目されています。こうした独自技術の連打や75周年記念重点商品に登録された新商品の拡販により、第2四半期、上期の事計達成を果たし、下期につながる流れを作り出す必要があります。

商品や技術の良さを充分把握し、営業をはじめ、開発、生産、サービスまで全員の力で、V75記念重点商品を強力に盛上げましょう。

東報

96年以来、7年連続受賞 2モデル&DIST・テクノロジー



欧州のEISA(欧州映像・音響協会)アワード 2002~2003年度表彰で、DVDプレーヤー、ホームシアターシステムの2商品とDIST技術が最優秀賞を受賞しました。

●DIST(Digital Image Scaling Technology)~ビデオ・イノベーション・アワード受賞。1250本の走査線と75Hzの垂直走査周波数で、ちらつきの無い高精細映像を実現したDISTは、高精細映像表示技術における大きな前進となりました。※日本国内ではDET

●XV-N5

スリム&小型ボディに機能充実。高解像度と忠実な色再現で高画質実現



●TH-V70

センターユニットは縦でも横でも設置できるユニークなデザインで魅力



V75商品カーAV海外で好調

— 国内でも2年後目標シェア15% —

北米で販売中のV75最重点商品CDレシーバーKD-S580の販売が好調。また欧州でもドイツ、イギリス、フランスで過去最高売上げを記録するなど、世界市場での占有率を上げています。国内でも8月上旬に前面フェイスデザインが変えられる MP3対応MD/CDレシーバーKW-MCD500を発売。今後も新商品を投入し、国内のアフターマーケット(市販)市場で1~2年後シェア15%を目指して取り組みます。



KW-MCD500、下はカスタムズプレート

ビクターニュース-25

発行月日

: 2002年 H14.8.15

発行NO.: 683

面(頁): 1

タイトル

「V75商品で下期への流れを作ろう!
大画面プラズマとシアターシステム」

記事内容

「創立75周年記念商品のDDスピーカーシアターシステム、DET搭載プラズマ等」

～ 編集後記 ～

先月アップしました「高柳健次郎先生社内報資料アーカイブス」に続く第2弾として、社内報「エポック版」を掲載いたします。これはビクターの歴史に残る新技術開発や新商品発売など記念すべき記事からピックアップしたのですが、趣旨等については西郷さんの「今回の企画の背景」に書かれた通りです。

私は岩井工場、西郷さんは水戸工場で、同じ茨城県内事業所の技術部門での所属でした。もちろん西郷さんが大先輩ですが、ある時期仕事を一緒にさせていただく機会があり、以来、約30年近いお付き合いをさせていただいています。俗に言う肝胆相照らす仲であると自負していますが、このご縁があったからこそ面倒なこの共同作業を円滑に、お互い連携して進められたと思っています。来月には最後の「エポック関係（経営編）」を予定していますが、同じく共同作業で進めさせていただきます。

ところで、今回取り上げた中に「テレビ横型革命はじまる-1991年」の記事（見開き）があります。このワイドビジョンの開発意図と技術訴求内容、世の中に与えたインパクトなどについては、4月に再編集アップした「燃える魂-テレビ編」で明らかですが、ここで当時を振り返りながら開発の一側面をご紹介します。

当時、テレビ研究所技術企画室の一員であった私は、MK活動と呼ばれる設計改革活動の事務局として多くの新商品開発プロジェクトに関わっていましたが、その頃のテレビ事業を取り巻く経営環境は大変厳しい状況でした。世界四極（日本、米州、欧州、中近東・アジア）に向けて毎年多数の新機種を開発・設計・生産・供給していかなければならず、リソース不足にあえぎ、綱渡りの開発に追われる毎日でした。そうした中で、ワイドビジョン（AV-36W1）の開発には多大のリソースがすぎ込まれました。簡単に言えば、75万円の横長テレビと25万円のMUSE-NTSCコンバータを組み合わせ「100万円でMUSEハイビジョンが見られます」という強力なコンセプトを打ち出したのです。

当然、多大の開発コスト・工数が掛かりましたが、これは将来に向けた投資であって、当面の飯の種（利益）に貢献するモデルではありませんでした。しかし特筆すべきは、それと並行してMUSEハイビジョンテレビも同時開発（同じく多大なリソースを投入）されており、試作機10台のうち何と2台が450万円で外部に販売されました。こうしたテレビ技術部門の総力を挙げて取り組んだ2大プロジェクトは、その後の「ワイドテレビ、デジタルテレビへの流れを創ったエポック的な商品開発」として位置づけられると思います。

この2大開発にゴーサインを出した当時の経営者の英断と、果敢に開発に取り組み商品化した多くの技術者、事業部関係メンバーの努力と活躍に改めて敬意を表し、今回の最終ページに、付録として「当時のワイドビジョン商品カタログ全ページ」を掲載いたしました。

付録

ワイドビジョン カタログ：2編

1. マルチワイドビジョン
AV-36W1(1991年8月)
2. NEW MULTI WIDE VISION
LINEUP登場（1992年4月）



※JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。

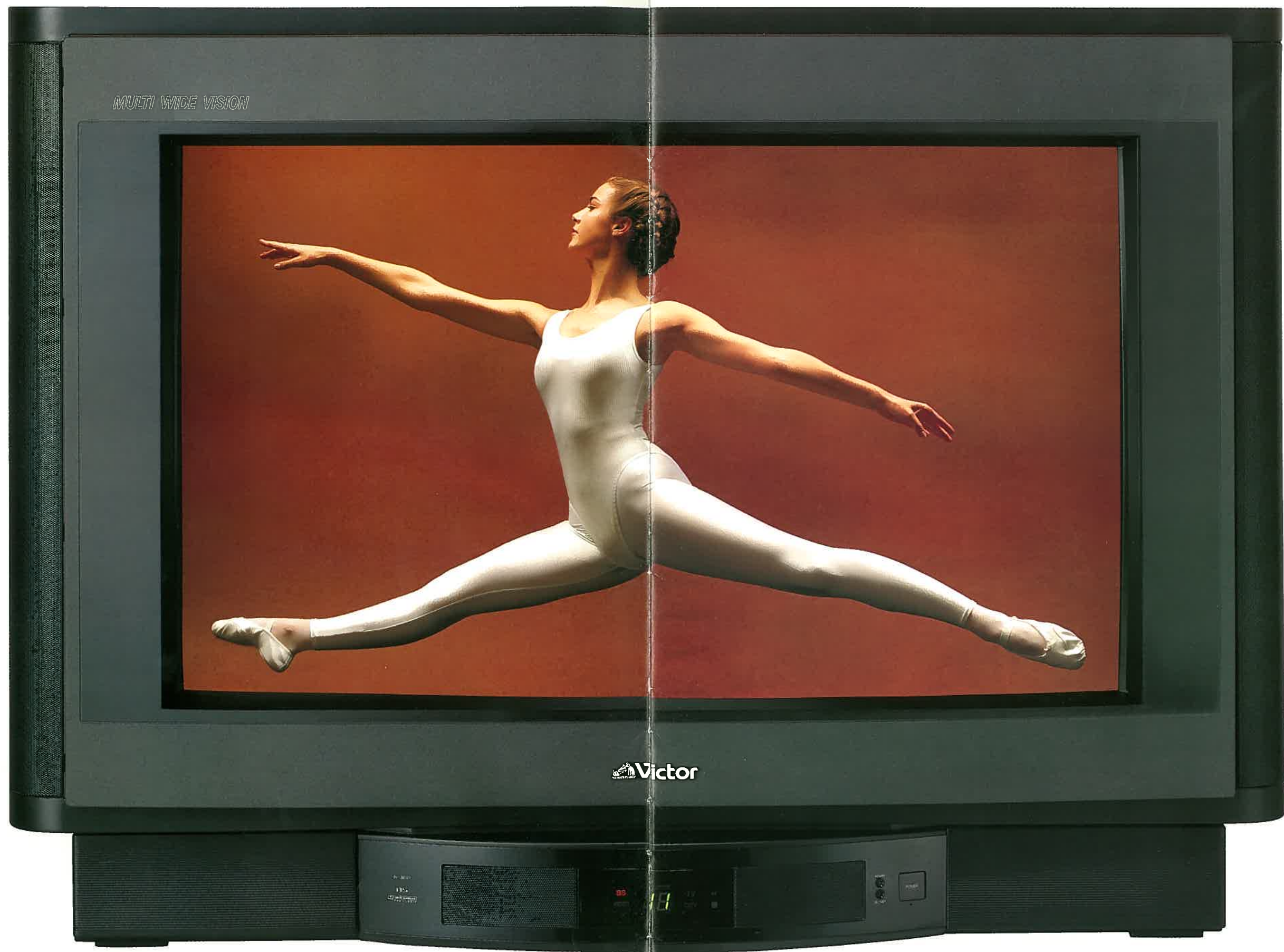
マルチワイドビジョン
AV-36W1

めざしたものの。それは、映画館の臨場感です。

MULTI WIDE VISION

●このカタログに掲載の商品の価格には消費税は含まれておりません。

16:9テレビ横長革命、はじまる。



ビクターから、マルチワイドビジョン誕生。

かつて私たちが目撃したテレビの大きな技術革命に、カラーテレビ誕生がありました。そして1991年。モノクロからカラー化以来の画面比率が現行の4:3から16:9へと横長ワイドへ、しかも現行のテレビ放送から新方式の新しい体験となる、映像と音の臨場感。マルチワイドビジョンは、ただ情報を得るためのメディアから、生活をより楽しむためのすべての性能は、映画館の臨場感をめざして。いま、未来

術革命に、カラーテレビ誕生がありました。新しい革命が、いま、はじまろうとしています。ハイビジョン放送までマルチに映像ソースが楽しめるテレビ、マルチワイドビジョンの出現です。そこからはじまる、新しい映像生活の広がり。映像アミューズメントセンターへと、テレビの価値を変える新ジャンルの一台です。の見えるマルチワイドビジョン、ビクターから誕生です。

思い出の映画を画面いっぱいに映した。

ビスタサイズの映画ソフトを、フルサイズで見ることができます。

映画のワイドな迫力は、ただ、大画面にただで得られるものではありません。テレビと映画の大きな違いは、画面比率にあるからです。ビスタサイズの映画ソフトを現行テレビで再現する場合、画面の上下に黒い帯が入ります。マルチワイドビジョンは、この映画ソフトをフルサイズで再現できる横長ブラウン管を採用しています。映画館に近い画面サイズだから、わが家で見る映画が映画館で見るときのように、フルサイズの感動と迫力で味わえます。

●ビスタサイズの映画ソフトで画面サイズを比較

4:3画面



16:9画面



映画の色彩と気分を存分に楽しむ、新しい機能があります。

それでもひとつ、テレビと映画館の大きな違い。それは、色彩のトーンにあります。映画館は外部から光の影響を受けない暗い室内なので、テレビに比べ必然的に繊細な色彩再現が可能です。そこで私たちは、映画館の映像の色彩表現を徹底的に研究し、テレビにおいても映画に適した色調を自動設定するシアターステータス機能を開発しました。室内を暗くした映画館のように外部の余分な光をおさえた環境で、しっとりとしたやわらかい色調で映画に近い映像をお楽しみください。

●シアターステータス機能

OFF状態



ON状態



その夜は、ニューヨークのコンサート会場にいた。

ハイビジョン放送が、ひとあしはやく楽しめます。

現在、実験放送が開始されており、今後ますます拡充が予想される、ハイビジョン放送。現行のテレビ放送とは放送信号も画面サイズも違うため、従来のテレビだけでは見ることができません。ビクターのマルチワイドビジョンは、MUSE-NTSCコンバーターと接続することでハイビジョン放送のMUSE信号をNTSC信号に変換し、手軽にワイドなハイビジョン放送が楽しめます。迫力ある映像とリアルなサウンド、その臨場感ある放送を、ひとあしはやくわが家のものに。

●ハイビジョン放送に対応
ハイビジョン放送/MUSE方式
(16:9画面)



マルチワイドビジョン/NTSC方式
(16:9画面)



MUSE-NTSCコンバーター

ハイビジョン放送ならではの臨場感が、そこにあります。

ハイビジョン放送で採用している16:9画面を、そのままのワイド画面で見る。迫力ある新世代の映像が楽しめます。さらに、ハイビジョン放送には、フロントの左右とセンター、そしてリアの4チャンネルの音声をそれぞれ独立して送信する3-1方式4チャンネル・ステレオ放送が採用されています。そのため、きわめて臨場感のあるサウンドが再生できます。ビクターのマルチワイドビジョンは、この3-1方式をはじめとするハイビジョン放送の新しい音声方式にホームテレビとして初めて対応しています。たとえば、コンサート会場にいるような、あるいは映画のワンシーンにまぎれこんだようなサウンド体験が、そこにあります。



●MUSE-NTSCコンバーター HV-MC1000(別売)



ムービーで映画作品を撮る。テレビの前で、大観衆のひとりになる。



マルチワイドビジョンから、新しい映像生活がはじまります。

テレビを本格的なホームシアターにする、画面サイズや放送方式にとらわれずマルチ映像ソースを楽しむ。
ワイド画面、ワイド音場から生まれる、新しい体験。
マルチワイドビジョンは、もっと積極的にテレビ映像を楽しむ新しい生活を提案します。

**ムービーのシネマモードで、
映画作品を撮って見る。**

映画と同じ画面サイズで、オリジナルビデオ作品を撮影する。そして、映画館のスクリーンのようなマルチワイドビジョンの画面に映し出す。当社のムービーに搭載したシネマモード(GR-LT5、GR-LT7、GR-LT10に搭載)を使って、本格的映画サイズで自作のビデオを見ることができます。映画監督や映画俳優の気分をお楽しみください。

●ムービーのシネマモードを見る。

4:3画面



16:9画面



GR-LT7

●アスペクトドア



●アスペクトドアを使って4:3映像を楽しむ。



現行テレビ放送を、ワイドに楽しむ。

このマルチワイドビジョンでは、16:9のワイド画面を活かして、4:3画面の現行テレビ放送をズームアップし、ワイドに楽しむことができます。いままでの4:3画面で楽しんでいたテレビ番組が、より迫力あるものになります。スポーツ中継、テレビドラマ、ドキュメンタリー番組で体験してほしい、マルチワイドビジョンならではのワイドな迫力です。

●16:9画面で、ワイドを楽しむ。



**アスペクトドアで、
画面サイズを変化させることができます。**

4:3画面のテレビ放送を見るときは、閉じる。16:9画面で見るときは、開く。画面サイズにあわせてブラウン管の映像面サイズを変化させる、アスペクトドアが装備されています。16:9映像と4:3映像のそれぞれのソースとモード、さらに子画面の入力で自動的に開閉、新しいテレビの楽しみ方がそこにあります。

**デジタル子画面で、
いろいろなピクチャーモードが楽しめます。**

地上放送を楽しみながら、衛星放送を見る。ピスタサイズのビデオソフトをフルサイズで見ながら、ハイビジョン放送を見る。親画面と子画面のふたつの画面が同時に楽しめるPIP、16:9というサイズだからできるPOP、ワイド画面をフルに活かして、さまざまなピクチャーモードが楽しめます。

●4:3 PIP(ピクチャー・イン・ピクチャー)



4:3の親画面の内側に、子画面を四隅にレイアウトできます。

●16:9 PIP(ピクチャー・イン・ピクチャー)



16:9の親画面の内側に、子画面を四隅にレイアウトできます。

●4:3 POP(ピクチャー・アウト・ピクチャー)



4:3の親画面の外側に、子画面を四隅にレイアウトできます。

※このテレビを営利目的、または公衆に視聴されることを目的として喫茶店・ホテル等において、PIPおよびPOP機能を利用し、テレビ画面を2画面の状態にするなど、画面処理機能を使用されますと、著作権法で保護されている著作権者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

マルチワイドビジョンのために生まれた、さまざまな新技術があります。

10年、いや20年。これからのスタンダードとなるようなテレビを開発しよう。

そのために私たちがめざしたものは、画質や音質などの高性能化だけではありません。

技術を通して、ひとの生活にとって新しいテレビの価値を発見したいと考えました。そこで得たひとつの方向は、

テレビをたんに情報を得るメディアという位置づけから、生活を楽しむための映像アミューズメントセンターへと革新するというものです。

マルチワイドビジョンがめざしたもの。それは、本格的な映画館の臨場感を実現するという、テレビの新たな挑戦です。

映像革命 21世紀を見すえて、横長ワイド画面を採用しました。

私たちがまず最初に取り組んだのは、画面サイズの革新でした。現在のテレビは画面比率が4:3ですが、マルチワイドビジョンは横方向に約30%伸ばした16:9横長ワイド画面を新採用しています。これは、画面がワイドになるとひとの視野角に近づき、映像の臨場感が自然に高められるからです。さらに、現在実験放送が行なわれており、1997年には本放送開始予定のハイビジョン放送でも、この16:9画面サイズが選択されています。また、世界の新しいテレビ方式も、16:9画面という流れにあります。さらに、現在の劇場用映画の主流はこのビスタサイズであり、ビデオソフトも年々ビスタサイズが増加している傾向にあります。そこでビクターは21世紀を見すえ、いち早く16:9ワイド画面を実用化。臨場感のあるテレビ画面を採用しました。

ワイド画面の高画質のために。
高精度偏向高圧回路、広帯域映像信号回路を内蔵。
画面比率を横方向へワイド化し、高画質なワイド画面を実現することは、画面の面積比が拡大するため、従来のテレビ技術だけでは充分ではありません。そのためマルチワイドビジョンでは、高精度ワイド画面化のために新たな技術を開発しています。たとえば、画像歪みの少ない安定したワイド画面を実現するための高精度偏向高圧回路。現行テレビの約1/20(当社比)にまで画像の歪みを低減します。さらに、新開発の高出力ダイナミックフォーカス回路により、画面全域において均一で良好なフォーカス特性を達成しています。また、画面をワイド化し現行テレ

●画面サイズの比較



4:3画面



16:9画面

ビ画面と同じ解像度を得るには、約1.3倍に解像度を高める必要があるため、広帯域映像信号回路により、高解像度、高精細の鮮明画像を実現しました。
新開発、NTSC対応16:9、36型ブラウン管を搭載。
生活照度のなかで、見やすく美しいワイド画面を実現したい。マルチワイドビジョンでは、鮮明度を重視した設計のNTSC対応16:9アスペクトブラウン管を新開発しました。ブラウン管単体としての解像度を、ハイビジョン専用ブラウン管と比較して約20%(当社比)の低減に押さえ、明るさは約30%アップ(当社実測値)、コントラスト比は約200%アップ(当社比)させています。また高輝度とシャープなフォーカスを実現するために、現在ビクター・ハイビジョンテレビに使用の広偏向角ダブルフォーカス電子銃(High BPF OLF MPF IカソードDAF)を採用しています。

16:9ワイド画面で4:3高画質画像を再現するために、広帯域アスペクトコンバーター回路を新開発。
マルチワイドビジョンでは、4:3の映像をワイド画面上に再現するために、デジタル処理によって映像信号を12/16(3/4)に時間圧縮しています。私たちビクターは、このデジタル映像処理を行なうために、8fsc(28MHz)クロックの高速デジタル信号処理用LSI、広帯域アスペクトコンバーター回路を当社独自に新開発しました。これにより、4:3画像再現時も鮮明な高画質映像を再現します。

●新開発の
高速デジタル信号処理用LSI



画面位置を変換する機能を採用。

PIP(ピクチャー・イン・ピクチャー)、POP(ピクチャー・アウト・ピクチャー)で再現される子画面は、親画面を見やすくするために四隅に画面移動することができます。また、ビスタサイズの映画ソフトで字幕の位置が下の黒い帯にあるソフトでは、16:9のフルサイズに映したときも読めるよう微調整はもちろん、シネマII機能により画面位置を上部に移動することも可能です。

映画の色彩表現をテレビ画面で追求した、シアターステータス機能を採用。

映画館のようにソフトで味わい深い映像を、テレビ画面で実現したい。そのためマルチワイドビジョンでは、映画館で見る映像に近い色調や画像を自動的に設定するシアターステータス機能を開発しました。これは入力される色信号に対して、色温度をほぼNTSC方式(現行のテレビ放送方式)の基準白色に設定し、同時に色度誤差を最小となるようマトリックスを自動的に切り換える機能で、原画に忠実な色再現性を実現するものです。さらに、映像の明るさを決定する輝度信号に対しても、同時にコントラスト、黒レベル回路、画質コントロール、速度変調回路において制御を行ない、従来の画像の強調回路の働きをおさえ、あくまで基本特性を重視して、本来の映像ソフトの微妙な階調の違いや、細部の表現まで忠実に再現しています。

微妙な赤の違いまでもわかる、ニュー・ダイナミック・マトリックス回路を搭載。

光や周辺の環境にとっても敏感な色、赤。この赤を自然な色調で、しかも赤の微妙な違いという細部の色調までもわかるように、忠実に再現したい。私たちビクターはこの難問を、色復調回路ニュー・ダイナミック・マトリックス回路によって実現しました。みずみずしい肌色、あざやかな緑、そしてこの微妙な赤の違いまでも、実にリアルに再現しています。

●マルチフルカードリモコンに装備したシアターステータススイッチ



マルチ映像ソース対応、ワイド画面テレビ。

MULTI WIDE VISION

AV-36W1

本体標準価格750,000円(税別)

(マルチフルカードリモコン<5枚>付録/アンテナ・工事費別)

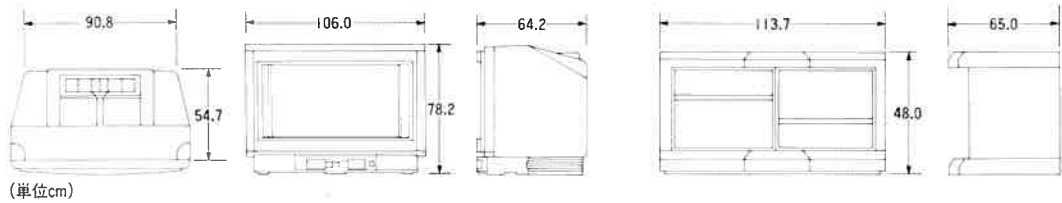
- 受信チャンネル・VHF/1～12チャンネル、UHF/13～62チャンネル、CATV/C13～C41チャンネル、BS/1～15チャンネル
- ブラウン管/36インチ110°偏向、アスペクト比16:9
- 画面寸法/幅75.3×高さ42.3×対角86.4cm
- 音声出力・フロント/10W×2、センター/10W×1、リア/10W×2、New Gホーン/20W×1、総合音声出力/70W
- 本体寸法/幅106.0×高さ78.2×奥行き64.2cm
- 重量/98.0kg
- 消費電力/270W



テレビスタンドRK-C36W1G 100,000円(税別)

組み合わせ例合計価格 850,000円(税別)

※75mmのビデオ・MUSE-NTSCコンバーターは別売です。
※この商品の据付に要する配送費・調整費等は、別途必要です。



音場革命

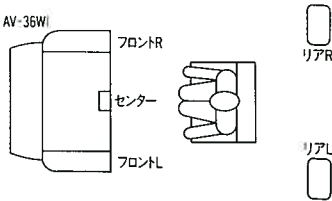
新世代の音の臨場感、その実現をめざして。

ホームテレビとして初の、**3-1方式4チャンネル・ステレオ放送に対応。**

MUSE-NTSCコンバーターから入力されるハイビジョン放送の音声信号には、3-1方式4チャンネル・ステレオ放送という新しい方式があります。これは、フロントの左右とセンター、そしてリアの4チャンネルの音声を、変調することなくそれぞれ独立した信号として送信するシステムです。このマルチワイドビジョンでは、ハイビジョン放送の音声をダイレクトに入力(※)し、デジタル音声信号の高音質をそこなく忠実に再生することができます。そのため、音像と映像の一致した臨場感あるサウンド効果を、そのままに実現。リスニングポイントが左右にずれた場合も音像定位の明確なサウンドが楽しめます。また2-2方式4チャンネル・ステレオ放送にも対応していますので、2か国語放送の再生時は、主音声と副音声をデジタルステレオで独立して再生することも可能です。

※当社のMUSE-NTSCコンバーターと接続することで、3-1方式4チャンネル・ステレオ放送を自動的に判別し再生します。

●3-1方式4チャンネル・ステレオ放送の音場再生



音像定位の明確化と広域再生をもとめた、スピーカーユニット。

メインスピーカーには、低音域から高音域までをバランスよく再生するダブルポート・ドームスピーカーを搭載しました。これはスピーカーボックスの上下に低音用ポートをレイアウトし、低音を効果的に共振させる設計のスピーカーです。ウーハーと同軸上に配置したツイーターとのセッティングにより、澄み切った高音から歪みのない重低音まで再生します。また、映画ソフトやスポーツ中継などに効果を発揮する、重低音再生専用スピーカーボックス・New Gホーンを搭載。7ℓの大容量がま

ろやかな重低音をつくり、自然なサウンド特性を実現しています。しかも20Wの専用アンプで駆動させるため、約40Hzまでの重量感ある重低音が再生できます。さらにセンタースピーカーにより、3-1方式4チャンネル・ステレオ放送やドルビーサラウンド再生時の音像定位を明確化します。

高性能DAP(デジタル・アコースティック・プロセッサー)により、臨場感あふれる立体音場を実現。

さまざまな映像ソースに対応する、ビクターのマルチワイドビジョン。その音場再生もマルチプルなものです。メディアやソースにあわせて、映画、スポーツ、音楽とそれぞれのジャンルに3モード、合計9モードの立体音場再生が可能です。たとえば音楽ソフト用に設定されたシンフォニーホールモードは、海外の著名ホールのサウンド特性を正確に実測し、そのデータをコンピュータシミュレーションにより再現しています。また、サラウンド処理回路とロジック回路の相乗効果で、定位と奥行き感到に優れた臨場感が楽しめるロジックモード(ロジックシアター、ロジックホール)を、オリジナル開発しました。さらに、現在の映画ソフトで主流となっているドルビーサラウンドにも新し

いアプローチを行なっています。従来のドルビーサラウンドシステムで、ソフトを最良の状態で再生するためには、ソフトごとに発生する左右の音声信号レベル差を補正する入力バランスの調節が必要でした。マルチワイドビジョンではオートインプットバランスの搭載により、さまざまなソフトにあわせてつねに適切なコンディションに左右バランスを自動的に調整することが可能となりました。

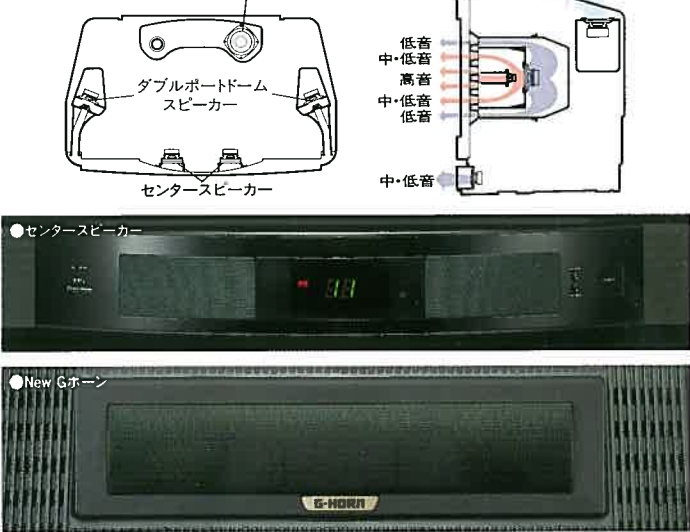
●サラウンドモードリスト

ドルビー	プロロジック	ドルビーサラウンドのビデオソフトを再生。
	3ステレオ	ドルビーサラウンドのビデオソフトや一般のステレオ音楽ソースの楽しみを広げます。
シネマ	リビング	テレビドラマなども、自然な広がりをつくりだします。
	ミニシアター	小さな映画館のような音場を再現します。
	ロジックシアター	セリフの定位をクリアーにし、奥行き感を再現します。
スポーツ	リングサイド	反射音の多い板張りの体育館の音場を再現します。
	スタジアム	大型野球場の音場を再現します。
	パビリオン	東京の八角形パビリオンのコンサート会場の音場を再現します。
ミュージック	ライブハウス	天井が低いライブハウスの音場を再現します。
	シンフォニーホール	大型のコンサートホールの音場。豊かな響きと奥行きが特徴です。
	ロジックホール	ボーカルの定位をクリアーにし、残響感、奥行き感をつくりだします。

●ダブルポート・ドームスピーカー



●スピーカー・レイアウト



ニュー・オペレーション

すべての新性能を、あますところなくお楽しみいただくために。

合理的に操作できる、マルチプルカードリモコン。映像とサウンド。テレビ技術を革新的に進化させた、マルチワイドビジョン。私たちは、このテレビの性能をあますことなく快適にお楽しみいただくために、オペレーションシステムについても新しいアプローチを行なっています。さまざまな機能を合理的に、しかもその性能を最大限に活用するために、ベーシック1カード・ベーシック2カード・ビジュアルカード・サウンドカード・ビデオ機器カード(マルチプリセット※)と、機能に応じて分類した5枚のマルチプルカードリモコンを付属しています。それぞれのカードは、機能別に細部までお手元で

●マルチプルカードリモコン



マルチワイドビジョンのためのオリジナルモードを搭載した、ビクターのMUSE-NTSCコンバーター。

ハイビジョン放送のMUSE信号を現行テレビ放送のNTSC信号に変換するために、私たちビクターはワイド、ズームに加えオリジナルモードとしてフルモードを搭載したMUSE-NTSCコンバーターを開発しました。これにより、当社のマルチワイドビジョンと接続して、ハイビジョン放送を画面いっぱいに映したり、ビデオ録画して楽しむことができます。



●MUSE-NTSCコンバーター・カードリモコン

※このテレビを営利目的、または公衆に視聴されることを目的として喫茶店・ホテル等において、PIPおよびPOP機能を利用し、テレビ画面を2画面の状態にするなど、画面処理機能を使用されすと、著作権法で保護されている著作権者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

MUSE-NTSCコンバーター
■本体寸法/幅43.5×高さ7.6×奥行き35.8cm
■重量/5.0kg ■消費電力/28W
HV-MC1000
本体標準価格
250,000円(税別)(リモコン付属)

コントロールできる設計です。また付属のリモコンケースは、別売のMUSE-NTSCコンバーターのリモコンを含め、6枚のマルチプルカードリモコンが収納できるほか、使用頻度の高いカードだけを入れ替えてすばやく操作することが可能です。

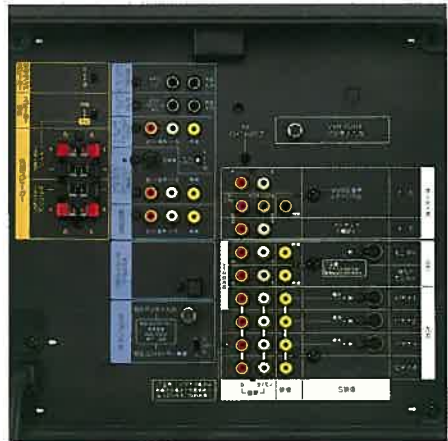
※VTRは国内メーカー12社対応、ビデオディスクは国内メーカー7社対応。

マルチ映像ソースに対応する、充実の端子群。マルチワイドビジョンをワイドにお楽しみいただくために。さまざまなメディア、ソースに対応できる、充実の接続端子を装備しています。業界初のMUSE対応2系統のリターン入力、ビデオ4系統、S入力3系統、光デジタルオーディオ出力をはじめ、

●2枚のカードが手軽に操作できるリモコンケース

AV機器との拡張性が高い設計となっています。またAV機器接続端子は、それぞれの信号を高精度で送信するためにすべて金メッキ仕様です。

●リアパネル



●フロントパネル



ワイドモード ハイビジョン放送の16:9映像を、そのままのアスペクト比で映すモードです。現行BSテレビでは上下に黒い帯がでます。



ズームモード ハイビジョン放送の16:9映像の中の4:3の部分だけをズームアップして現行BSテレビに映しだすモードです。ズームアップする映像エリアは、トリミングマークにより、左右移動が可能です。



フルモード マルチワイドビジョン対応のオリジナル仕様モードです。ハイビジョン放送の16:9映像をマルチワイドビジョンのワイド画面いっぱいに映しだすことができます。



マルチ映像ソース対応、ワイド画面テレビ。

MULTI WIDE VISION

AV-36W1

本体標準価格750,000円(税別)

(マルチプルカードリモコン5枚付・付属/アンテナ・工事費別)

■受信チャンネル・VHF/1～12チャンネル、UHF/13～62チャンネル、CATV/C13～C41チャンネル、BS/1～15チャンネル

■ブラウン管/36インチ110°偏向、アスペクト比16:9

■画面寸法/幅75.3×高さ42.3×対角86.4cm

■音声出力・フロント/10W×2、センター/10W×1、リア/10W×2、New Gホーン/20W×1、総合音声出力/70W

■本体寸法/幅106.0×高さ78.2×奥行き64.2cm

■重量/98.0kg

■消費電力/270W

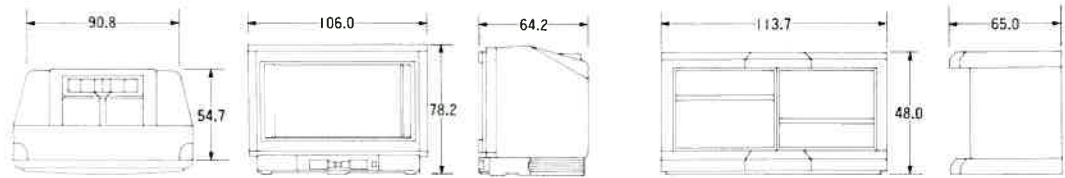


テレビスタンドRK-C36W1G 100,000円(税別)

組み合わせ例合計価格 850,000円(税別)

※写真のビデオ・MUSE-NTSCコンバーターは別売です。

※この商品の据付に要する配送費・調整費等は、別途必要です。



(単位:cm)

AV-36W1仕様表

受信方式

NTSC

受信チャンネル

VHF/1～12チャンネル、UHF/13～62チャンネル、CATV/C13～C41チャンネル、BS/1～15チャンネル

選局方式

周波数シンセサイザー方式

画面寸法

36型ワイドアスペクト、幅75.3×高さ42.3×対角86.4cm

ブラウン管

36インチ110°偏向、アスペクト比16:9

水平解像度

ビデオ入力時650本

音声出力

フロント/10W×2、センター/10W×1、リア/10W×2、New Gホーン/20W×1、総合音声出力/70W

スピーカー

フロント7×4cm×2+10cm×2、センター5×9cm×2、New Gホーン12cm

消費電力

270W(リモコン待機時3.7W、衛星放送裏録時20W)(BSコンバーター最大4Wを除く)

使用電源

AC100V 50/60Hz

外形寸法

幅106.0×高さ78.2×奥行き64.2cm

重量

98.0Kg

入力端子

ビデオ入力/4系統5端子(S入力/3系統4端子)

S映像(ビデオ4除く)/Y 1Vp-p、75Ω、同期負、C 0.286Vp-p(パースト信号)、75Ω 映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms、ハインピーダンス

MUSE音声4チャンネル入力(判別端子付)

473mVrms、ハインピーダンス

MUSEリターン入力

S映像/Y 1Vp-p、75Ω、同期負、C 0.286Vp-p(パースト信号)、75Ω 映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms、ハインピーダンス

PAYリターン入力

映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms、ハインピーダンス

出力端子

モニター出力(ビデオ出力/1系統1端子、S出力/1系統1端子)

S映像/Y 1Vp-p、75Ω、同期負、C 0.286Vp-p(パースト信号)、75Ω 映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms

BS・モニター出力

映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms、ローインピーダンス

オーディオ出力/1系統1端子

473mVrms、ローインピーダンス

スピーカー出力(メインL、R+リアL、R)

メイン/4～8Ω、10W+10W(4Ω時) リア/4～16Ω、10W+10W(4Ω時)

BS専用出力

映像/1Vp-p、75Ω、同期負 音声/473mVrms、ローインピーダンス

検波出力

0.67Vp-p、75Ω×2

AFC出力

BTA S-100IIに準拠

ビットストリーム出力

0.5Vp-p、75Ω

光デジタルオーディオ出力

－18dBm

※RCAピンプラグはすべて金メッキ仕様

アンテナ端子

VHF/UHF/CATV 75Ω、F型 BS 75Ω、F型 (コンバーター電源DC15V重畳)

テレビを面白くしたい、ビクターです。

●掲載されている価格は、すべて標準価格です。消費税は含まれておりません。●掲載のテレビブラウン管画面はハメコ合皮です。●「ドルビー」および「ダブルD」記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。●CATVの受信は、サービスの行なわれている地域でのみ可能で、CATV各社との加入手続きが必要です。詳しくはCATV関係各社にお問い合わせください。●このテレビを娯楽目的、または公衆に視聴されることを目的として喫茶店・ホテル等において、PIPおよびPOP機能を利用し、テレビ画面を2画面の状態にするなど、画面処理機能を使用されすと、著作権法で保護されている著作権者の権利を侵害する恐れがあります。ご注意ください。●このカタログに掲載したPIP機能など画面処理機能の写真は、その機能の一例をあらわしたもので、実際のオリジナル映像をイメージ化したものです。●仕様・外観は改良のための、予告なく変更することがあります。●掲載されているテレビの補修用性能部品の最低保有年数は、製造打ち切り後8年です。※表紙撮影協力/丸の内ルーブル

※この商品の配送、搬入及び設置、据付に要する費用は、すべて有料となります。

省エネのための上手な使い方 1.こまめにスイッチを切りましょう。2.適切な明るさと音量で楽しみましょう。3.就寝前には主電源を切りましょう。

長年ご使用のテレビは、点検を!!

■カラーテレビの補正用性能部品の最低保有期限は、製造打ち切り後8年です。

愛情点検



このような
症状は
ありませんか

- 電気コード・プラグが異常に熱い。
- スイッチを入れても画や音が出ない。
- 映像が乱れ、色に変色している。
- 画面が途中で消えたり、欠ける。

すぐ使用を中止して…

電源を切り、プラグははずして
必ず販売店にご相談ください。

ちょっとした気づかいで

テレビの安全



●ビクターテレビご購入の際には、必ず保証書を受け取り、大切に保管してください。

●製造番号は、安全確保上重要なものです。ご購入の際には商品本体に電気用品取極法に基づく製造番号が表示されているか(また、保証書記載の製造番号と一致しているか)お確かめください。

Victor

JVC

日本ビクター株式会社

※JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。

テレビ事業部

〒306-06 茨城県岩井市大字辺田1106番地

●このカタログの内容については、お近くの販売店にお尋ねください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社へお問い合わせください。

「ビクターお客様相談センター」〒113 東京都文京区本郷3丁目14-7ビクター本郷ビルTEL.03-5684-9311/〒543 大阪市天王寺区小橋町10-16大阪ビクタービルTEL.06-765-4161

ビクター・ニュークレジット ご予算を生かしたゆとりあるプラン…ビクター・ニュークレジット・システムをご利用ください。ボーナス時増額返済も可能です。

●お買い上げは信用ある当店で

カタログ番号 Y-109041C

1991年8月作成

※このカタログに掲載の商品の価格には消費税は含まれておりません。

Victor

JVC

校正刷見本

これからは、どんなテレビが
いいのだろう。

N・E・W
MULTI WIDE VISION
LINEUP

登 場

新世紀の映像ソースをマルチで楽しめる、
ビクターの強力ラインアップです。

21世紀は、
16:9映像ソースが主流。

BS放送、CS放送、ハイビジョン放送、映像ソフト

16:9映像の臨場感を追求。

マルチワイドビジョン
ニュー・マルチワイドビジョン

AV-36W1
AV-32W2
AV-28WX2

4:3画面で16:9映像の高画質
再現を追求。

現行4:3画面テレビジョン
新・BSスターリア

AV-29F2
AV-25F2

マルチ映像ソース対応ワイド画面のニュー・マルチワイドビジョンと、
ワイド映像ソース対応4:3画面の新・BSスターリア。
ビクターが今年発表する、ふたつのシリーズは、さまざまなお客様にお勧めいただける強力ラインアップです。
買い替え需要には「主流」と「先見性」で、映画ファンには「ワイド画面」と「シネマポジション」で、
AVファンの方には「マルチ映像ソース対応」と、
あらゆる市場ニーズに応えられるモデルをセレクトしています。

21世紀の映像社会は、もう始まっている。マルチワイド時代は、ビクターです。

ご販売店様用

テレビを面白くしたい、ビクターです。VICTOR CREATES IT.

テレビ事業部 〒306-06 茨城県岩井市大字辺田1106番地

■本カタログに掲載の製品は、改良のため仕様・外観を予告なく変更することがあります。1992年4月作成

21世紀の主流宣言。

ハイビジョン放送、そしてCS放送の開始。新たな時代の流れの中で、次はどんなテレビを選ばいいのか、さまざまな選択が可能です。

そこで私たちは、テレビの開発に次の条件を課しました。①多様化する映像ソースに、柔軟に対応できること。②すべての映像ソースが、美しく楽しめること。③そして映像の魅力をさらに高める、新しい臨場感を創造すること。

つまり、だれもが手軽に楽しみ、時代の変化に長く対応できるテレビをめざしました。次の主流、それは明日を見つめるだけでなく、5年先、10年先を見つめてはじめて開かれる、先見性から生まれる。

新しいマルチワイドビジョンをフラッグシップにした、ビクターの'92年ラインアップ、発表です。

N・E・W MULTI WIDE VISION LINEUP 登場

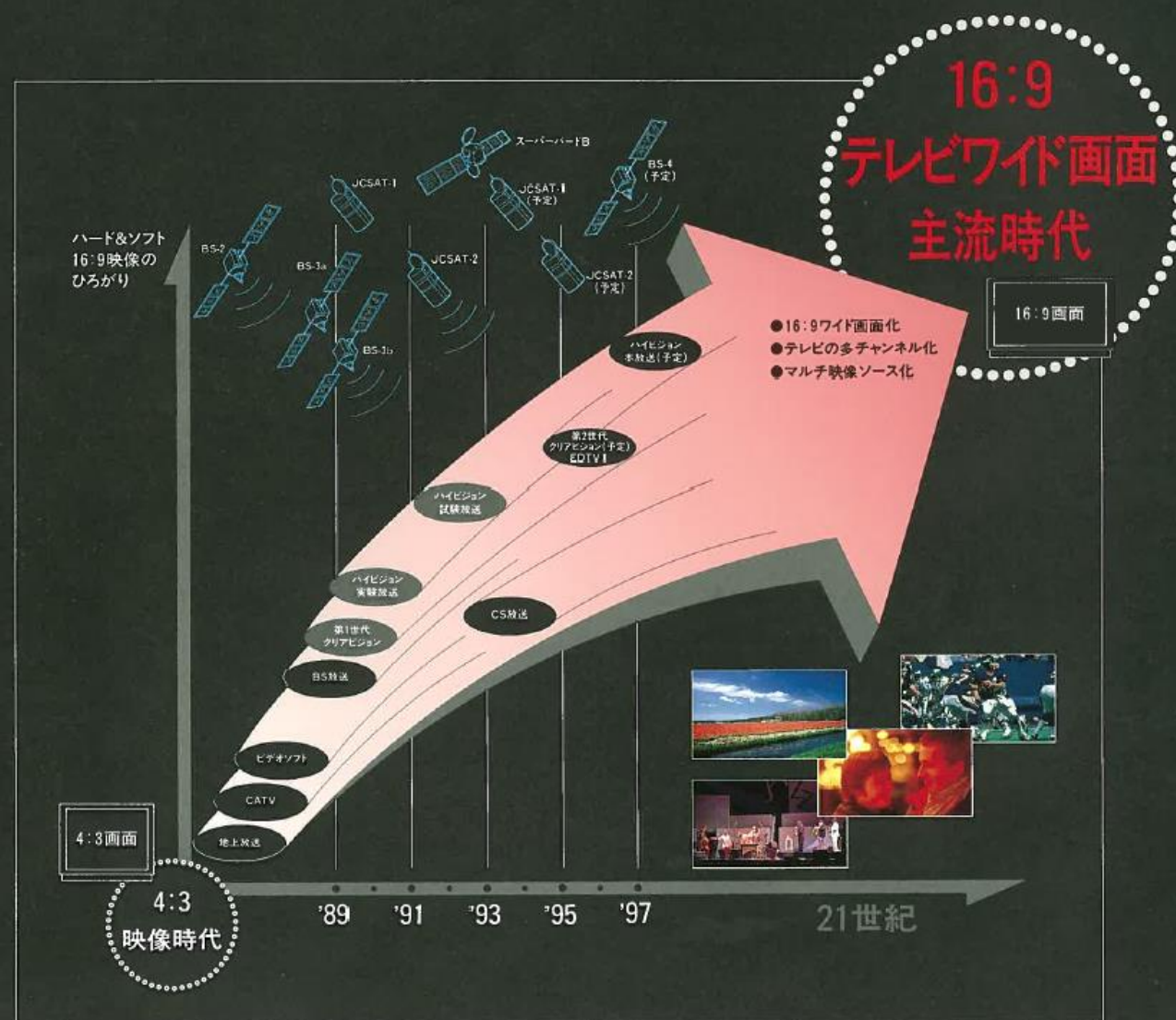


AV-32W2

外形寸法：幅80.5×高さ53.1×奥行355.1cm

これからは、マルチ映像ソースを ワイド画面で楽しむのが主流です。

ビクターは、ハイビジョン番組をはじめ、 すべての映像ソースが楽しめる テレビづくりを考えます。



90年代のテレビの流れ。そこには、ふたつの大きな変化があります。ひとつは、「映像ソース、放送方式の多様化」です。ハイビジョン放送をはじめ、CS放送・第2世代クリアビジョン放送(EDTV II)など、これから数年のうちに、さまざまな放送方式の導入が予定されています。さらに新しい放送方式では、ハイビジョン放送を代表として、画面サイズがピスタサイズの映画とほぼ同じアスペクト比16:9の「ワイド画面の採用(一部導入を含む)」が検討されています。以上の時代の流れを考え、ビクターは、さまざまな映像ソースとワイド映像に対応するふたつのシリーズ、マルチ映像ソース対応ワイド画面のWシリーズと、4:3画面でワイド映像ソースに対応するFシリーズを開発しました。このラインアップでは、ワイド映像の臨場感をあますことなく再現する16:9ワイドアスペクトフラットブラウン管、MUSE-NTSCコンバーターを接続し、4:3画面でハイビジョン放送のワイド画面の画質を従来より約30%アップ(当社比)するハイビジョンフルモード対応ポジションなど、新NTSC高画質を実現。さらに、シアターステータス機能に代表されるビクター独自の画質技術を搭載するなど、さまざまなアプローチを行っています。次の主流となるテレビの開発をめざして、'92年ラインアップ、登場です。

1 ワイド画面映像の新しい世界、 ハイビジョン放送。

アスペクト比が16:9のワイド画面なら、はの新しい映像の世界を、走査線数が1,125本の高画質でさらに広がるハイビジョン放送。スポーツの新しいアングル、その場にいるようなライブ感あふれる音楽番組。ハイビジョン放送は、16:9のワイド画面の楽しさを可能にしてくれます。

2 地上放送もワイド映像へ。 第2世代クリアビジョン放送。

現在のNTSC放送と向立する放送方式で、現行放送よりさらに高画質な映像を再現するクリアビジョン放送。第2世代のクリアビジョン放送(EDTV II)では、より臨場感ある16:9のワイドアスペクト化を、ドラマやドキュメンタリーなど、地上放送のワイド画面化が進むことでしょう。

3 エンターテインメントの世界を広げる、 CS放送の開局。

JSBの開局により多チャンネル化が始まった衛星放送。さらに今年4月よりCS放送が開始されます。このCS放送は、6チャンネルの番組を持つ衛星放送。各チャンネルが、映画・ニュース・スポーツ・音楽などの専門局であり、エンターテインメント性を重視した映像ソースが充実します。

4 まますますワイド画面化が進む、 映画ソフト。

パッケージソフトの低価格化、レンタルビデオ店の増加など、広く普及したビデオソフト。その人気を支えるのは映画ソフトです。映画館のようなワイド画面で臨場感が味わえるピスタサイズのソフトが、年々増加する傾向にあります。今後一層、ワイド画面対応のソフトの充実が期待できます。

マルチワイド時代は、ビクターです。

先見の臨場感、再現。

グローバルな視野に立ち、メディア革新の行く先を見つめた〈ニュー・マルチワイドビジョン〉です。

さまざまな映像ソースが迫力あるワイド映像で楽しめる、ワイド画面テレビ、ニュー・マルチワイドビジョン。

マルチ映像ソースを美しく再現する、16:9ワイドアスペクト フラットブラウン管。ワイド画面の臨場感をさらに高める、サラウンド音声モード。

ただ単一性能を高度化させるだけでなく、世界の流れを見渡す広い視野からの選択を行いました。

ワイド映像の迫力を、あますところなく伝える、これからの主流を見極めたテレビです。

N・E・W
MULTI WIDE VISION



AV-28WX2

外形寸法：幅71.6×高さ47.6×奥行254.2mm



AV-32W2

外形寸法：幅87.5×高さ53.1×奥行253.1mm



AV-36W1

外形寸法：幅106.0×高さ79.2×奥行264.2mm

臨 場 感

- ワイド映像の臨場感を再現する、新しい16:9ワイドアスペクト フラットブラウン管
- ハイビジョン放送の3-1方式4チャンネルステレオ音声に対応
- 臨場感ある立体音場を再生する、高性能DAP(デジタル・アコースティック・プロセッサー) * AV-36W1
- 迫力ある音場再生、ダブルポート・ドームスピーカー & New Gホーン * AV-36W1
- スリムボディと迫力ある音場再生を両立した、新設計スーパースリムドームスピーカー

新 画 質

- ワイド画面の画質を向上させる、高精度偏向高圧回路・広帯域映像信号回路
- 鮮明な映像を再現する、デジタルくし形フィルター
- 映画のような質感のある映像を再現する、シアターステータス機能
- 肌色、鮮やかな緑、微妙な赤までリアルに再現する、ニュー・ダイナミック・マトリックス回路
- PIPやPOPなど、さまざまな映像モードが楽しめる、デジタル子画面機能

楽 し み 方

- 高性能MUSE-NTSCコンバーター内蔵により、ハイビジョン放送が手軽に楽しめる (AV-32W2)
- ワイド画面で、映画・音楽・スポーツなど多彩な映像ソフトの迫力をリアルに楽しめる
- ビスタサイズの映画ソフトが画面いっぱいにフルサイズで楽しめる
- 3-1方式4チャンネルステレオ音声という、ハイビジョン放送の迫力あるリアルな音声が楽しめる
- ライブホニック、ホールサラウンド、シミュレーテッドの3モードで、迫力あるサラウンド再生が楽しめる

MUSE-NTSCコンバーター

3種類の画像変換機能がついた、高性能MUSE-NTSCコンバーターです。



MUSE-NTSCコンバーター

HV-MC1000

外形寸法：幅43.5×高さ1.6×奥行35.8cm
(リモコン付属)



●MUSE-NTSCコンバーター・カードリモコン

テレビスタンド組み合わせ例



テレビ本体AV-32W2
テレビスタンドRK-C32W2



テレビ本体AV-36W1
テレビスタンドHK-C36W1G

※写真のビデオ・MUSE-NTSCコンバーターは別売です。
※この商品の運付に要する配送料・設置費等は、別途必要です。

ビクターは、ハイビジョン番組をはじめ、すべての映像ソースが楽しめるテレビづくりを考えます。

90年代のテレビの流れ。そこには、ふたつの大きな変化があります。ひとつは、「映像ソース、放送方式の多様化」です。ハイビジョン放送をはじめ、CS放送・第2世代クリアビジョン放送(EDTV II)など、これから数年のうちに、さまざまな放送方式の導入が予定されています。さらに新しい放送方式では、ハイビジョン放送を代表として、画面サイズがビスタサイズの映画とほぼ同じアスペクト比16:9の「ワイド画面の採用(一部導入を含む)」が検討されています。以上の時代の流れを考え、ビクターは、さまざまな映像ソースとワイド映像に対応するふたつのシリーズ、マルチ映像ソース対応ワイド画面のWシリーズと、4:3画面でワイド映像ソースに対応するFシリーズを開発しました。このラインアップでは、ワイド映像の臨場感をあますことなく再現する16:9ワイドアスペクトフラットブラウン管、MUSE-NTSCコンバーターを接続し、4:3画面でハイビジョン放送のワイド画面の画質を従来より約30%アップ(当社比)するハイビジョンフルモード対応ポジションなど、新NTSC高画質を実現。さらに、シアターステータス機能に代表されるビクター独自の高画質技術を搭載するなど、さまざまなアプローチを行っています。次の主流となるテレビの開発をめざして、'92年ラインアップ、登場です。

マルチワイド時代は、ビクターです。